

富岡町 住民意向調査 報告書

平成29年3月

復興庁
福島県
富岡町

富岡町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住居形態	22
3-1-5 現在の住居形態	23
3-2 将来の意向	27
3-2-1 富岡町への帰還意向	27
3-2-2 富岡町への帰還時期	32
3-2-3 避難指示解除まで待てる期間	34
3-2-4 富岡町へ戻る場合の家族	36
3-2-5 富岡町へ帰還した場合の仕事	38
3-2-6 富岡町へ帰還する場合の住居形態	41
3-2-7 富岡町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	44
3-2-8 富岡町へ帰還する場合の災害公営住宅 (町が今後町内に整備する住宅)への希望	45
3-2-9 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な施策	47
3-2-10 避難指示解除後すぐに帰還した場合の状況	50

3-2-11	富岡町への帰還の判断がつかない理由	54
3-2-12	富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報	57
3-2-13	富岡町へ戻った場合に希望する仕事	60
3-2-14	帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか	62
3-2-15	富岡町へ帰還しない理由	66
3-2-16	帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか	69
3-2-17	帰還しない場合に居住したい自治体	73
3-2-18	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	75
3-2-19	町外で生活している方に対するサポートとして必要な施策	76
3-3	意見・要望	79
IV	参考資料	101
4-1	使用調査票	103

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、富岡町住民の避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	富岡町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 7,040 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成28年8月1日（月）～平成28年8月15日（月）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、富岡町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 3,257 世帯（有効回収率 46.3%）

1-5 報告書の見方

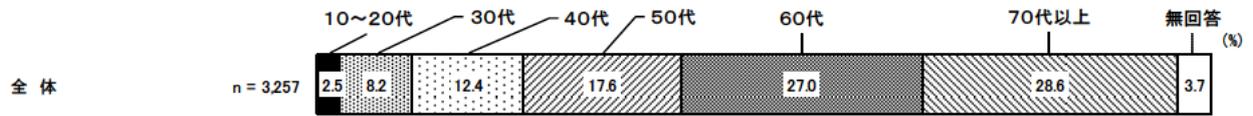
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の住まいの行政区別の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

(1) 年齢

<図表2-1-1>



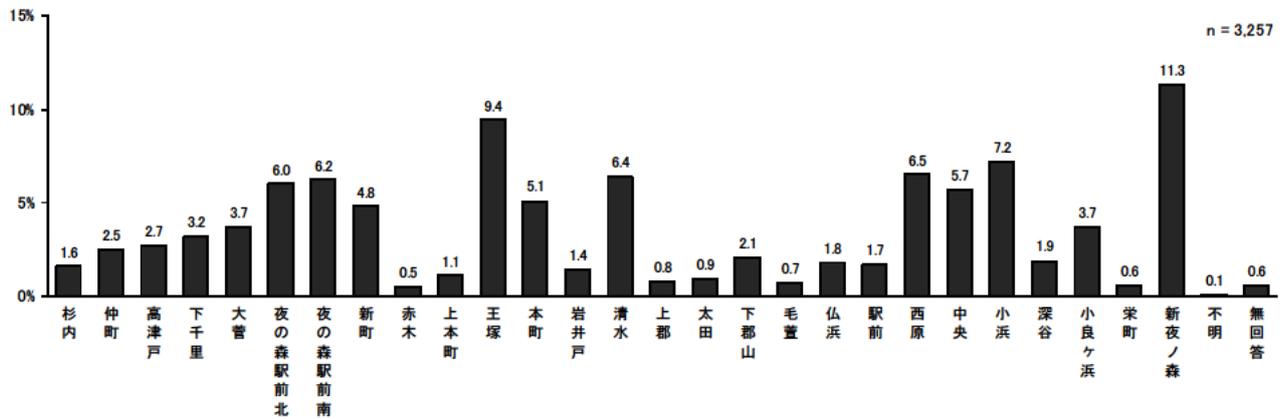
(2) 震災発生当時の住まいの避難指示の状況（避難指示区域）

<図表2-1-2>



(3) 震災発生当時の住まいの行政区

<図表2-1-3>



(4) 震災発生当時の住まいは防災集団移転促進事業の対象地区に該当しているか

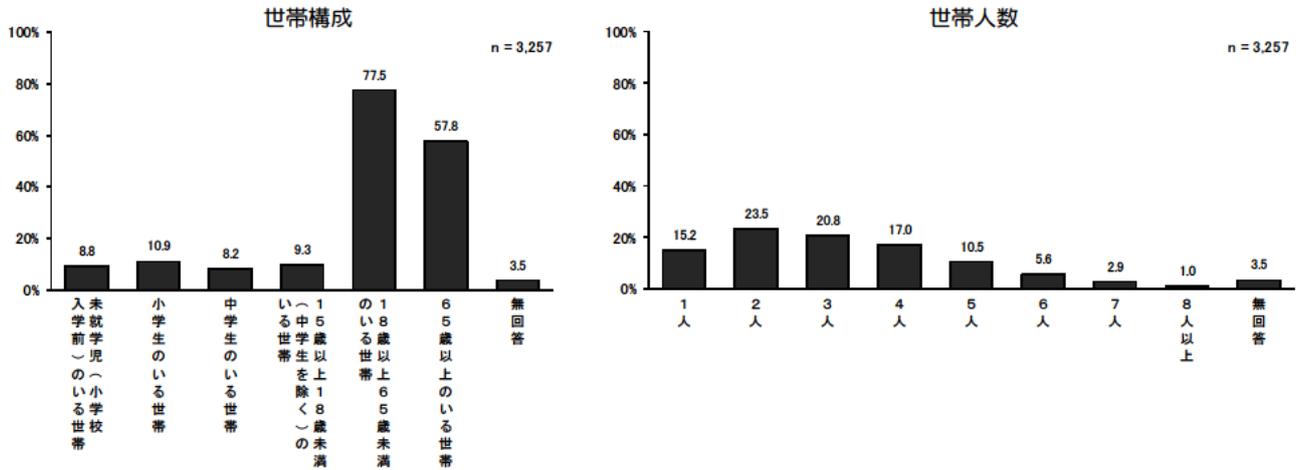
<図表2-1-4>



※「仏浜」「小浜」にお住まいだったと回答した方のみ

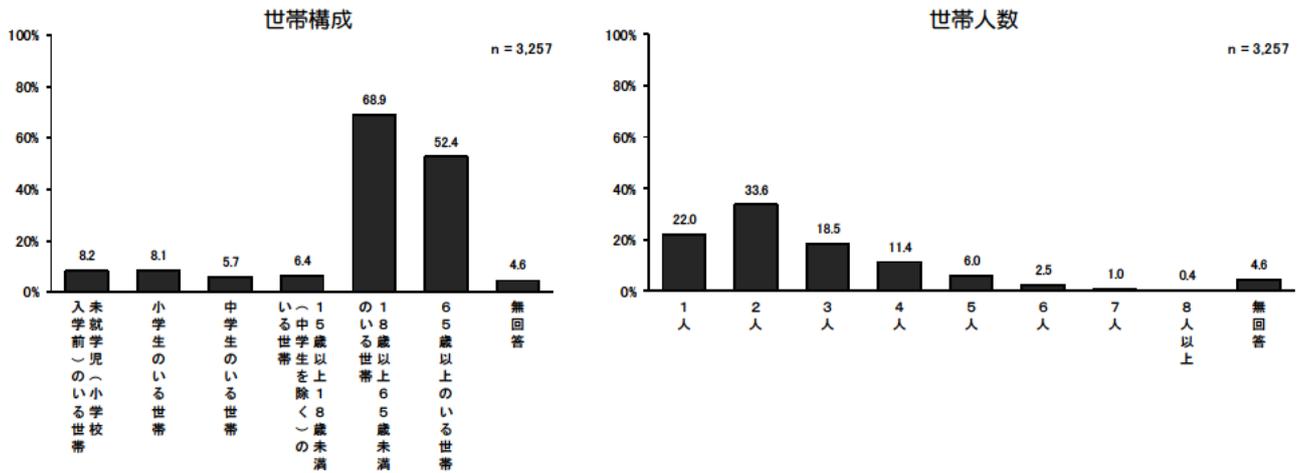
(5) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-5>



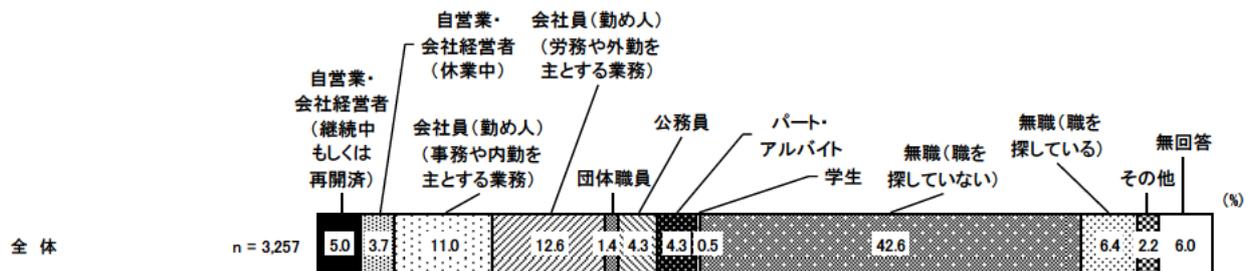
(6) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-6>



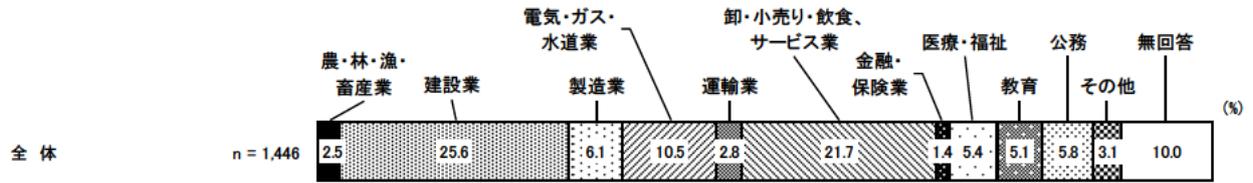
(7) 現在の職業（就業形態）

<図表2-1-7>



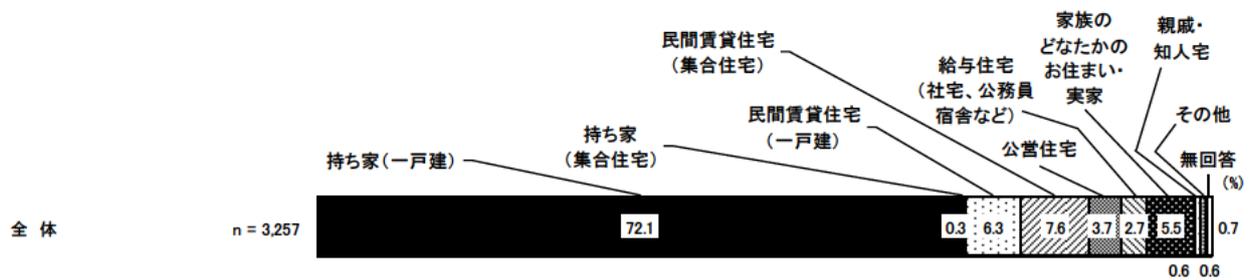
(8) 現在の職業（業種）

<図表2-1-8>



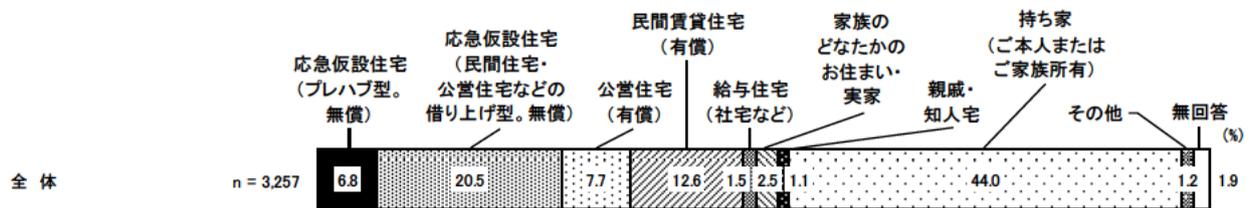
(9) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-9>



(10) 現在の住居形態

<図表2-1-10>



III 調査結果

3-1 現在の状況

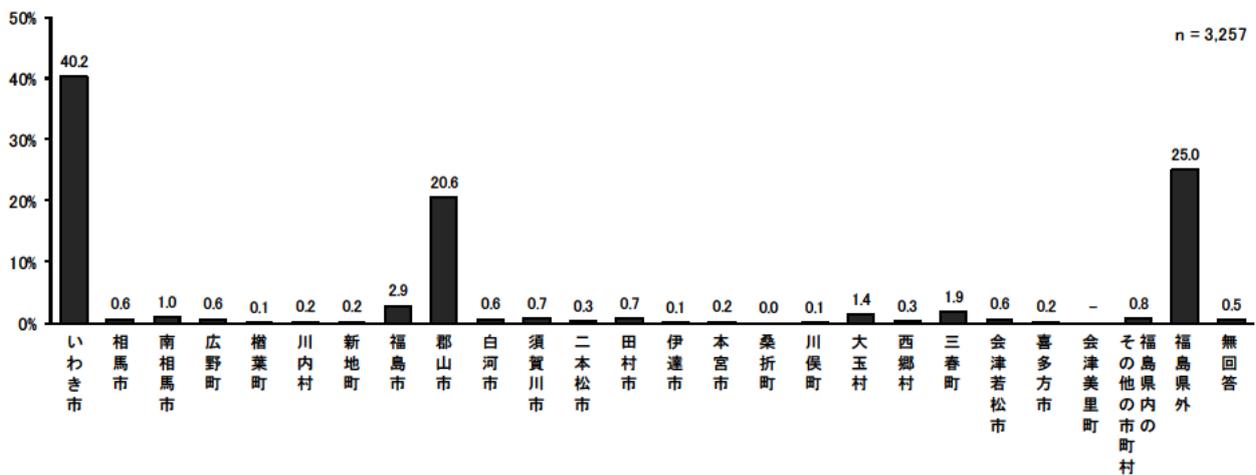
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。(〇は1つ)

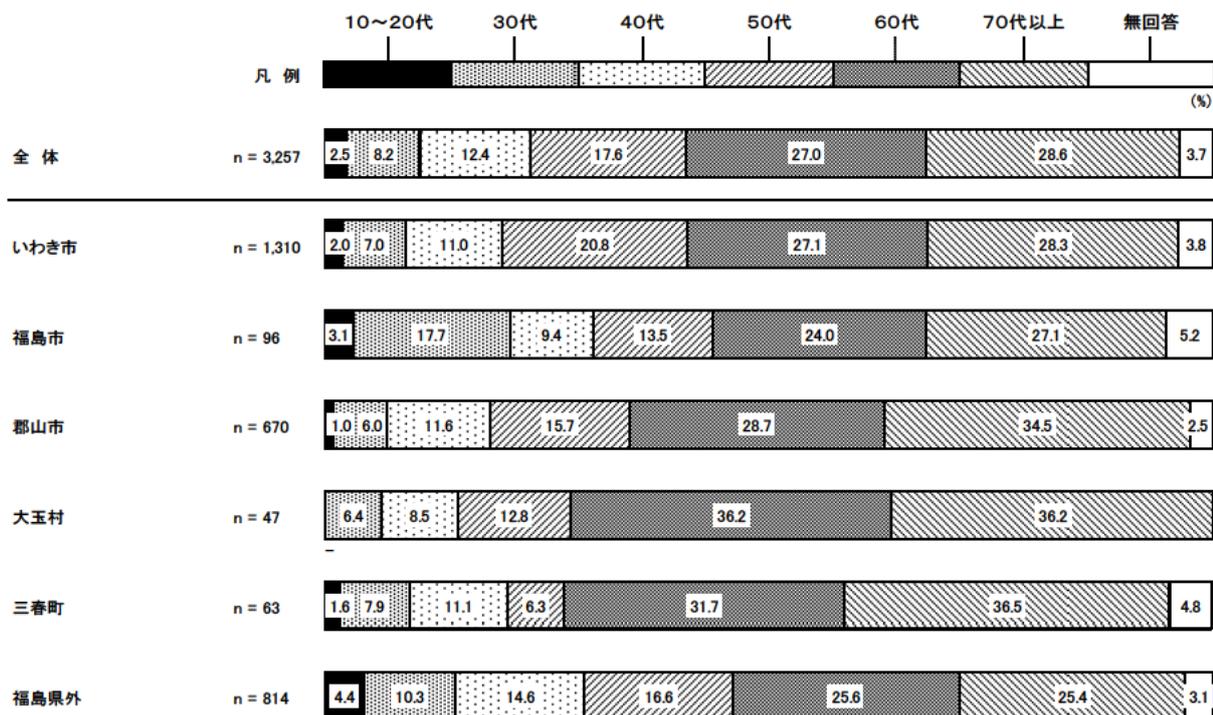
現在の避難先自治体については、「いわき市」が40.2%と最も高く、次いで「福島県外」が25.0%、「郡山市」が20.6%となっている。

主な避難先の自治体について、回答者の年齢別にみると、60代以上が「大玉村」で72.4%、「三春町」で68.2%と、高齢層の割合が高い。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、全体と同様の傾向となっており、「いわき市」、「郡山市」及び「福島県外」の割合が高くなっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）>

		(%)					
	n	いわき市	福島市	郡山市	大玉村	三春町	福島県外
全 体	3,257	40.2	2.9	20.6	1.4	1.9	25.0
杉内	53	28.3	-	37.7	3.8	-	11.3
仲町	80	42.5	5.0	23.8	-	-	20.0
高津戸	87	43.7	3.4	20.7	-	-	24.1
下千里	103	33.0	1.9	22.3	1.9	1.9	28.2
大菅	122	38.5	2.5	13.1	2.5	3.3	32.8
夜の森駅前北	195	41.0	4.6	19.5	1.0	1.5	24.1
夜の森駅前南	201	31.8	3.5	26.4	0.5	1.5	25.9
新町	155	42.6	1.3	18.7	0.6	3.2	26.5
赤木	17	58.8	-	35.3	-	-	5.9
上本町	35	42.9	2.9	25.7	-	11.4	14.3
王塚	306	37.3	3.3	21.6	1.3	1.3	27.5
本町	167	44.3	3.0	22.2	0.6	2.4	23.4
岩井戸	46	37.0	4.3	30.4	2.2	2.2	21.7
清水	209	50.2	1.9	15.8	1.4	-	23.9
上郡	26	46.2	3.8	30.8	3.8	3.8	11.5
太田	29	62.1	-	13.8	-	-	17.2
下郡山	67	50.7	4.5	14.9	-	-	23.9
毛萱	22	63.6	-	-	4.5	9.1	9.1
仏浜	58	31.0	3.4	22.4	3.4	-	32.8
駅前	56	42.9	3.6	16.1	1.8	-	28.6
西原	213	43.2	3.8	17.8	3.3	3.3	22.1
中央	186	44.6	3.8	17.7	2.2	2.2	23.1
小浜	233	40.8	3.9	16.7	1.7	2.1	27.9
深谷	63	41.3	-	25.4	3.2	4.8	15.9
小良ヶ浜	120	39.2	1.7	18.3	1.7	0.8	28.3
柴町	18	55.6	-	5.6	-	5.6	16.7
新夜ノ森	367	32.7	2.7	25.3	0.8	2.5	29.2
不明	4	50.0	-	25.0	-	-	25.0

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

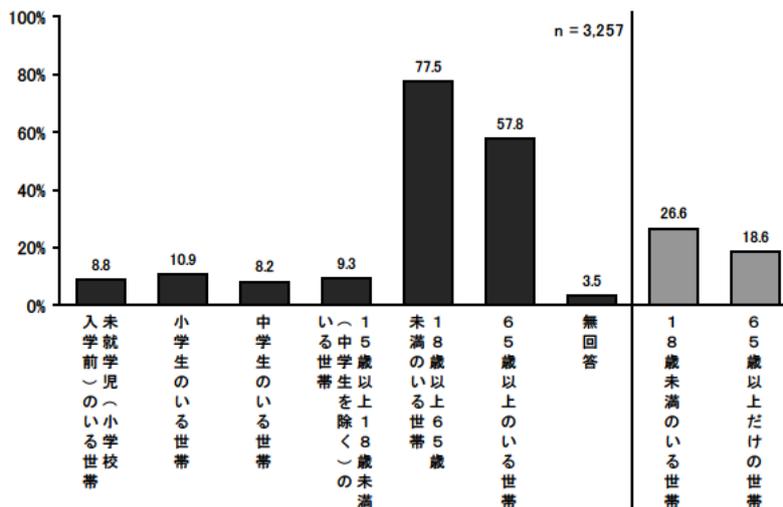
あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が77.5%、「65歳以上のいる世帯」が57.8%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(8.8%)、「小学生のいる世帯」(10.9%)、「中学生のいる世帯」(8.2%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(9.3%)はいずれも1割程度となっている。

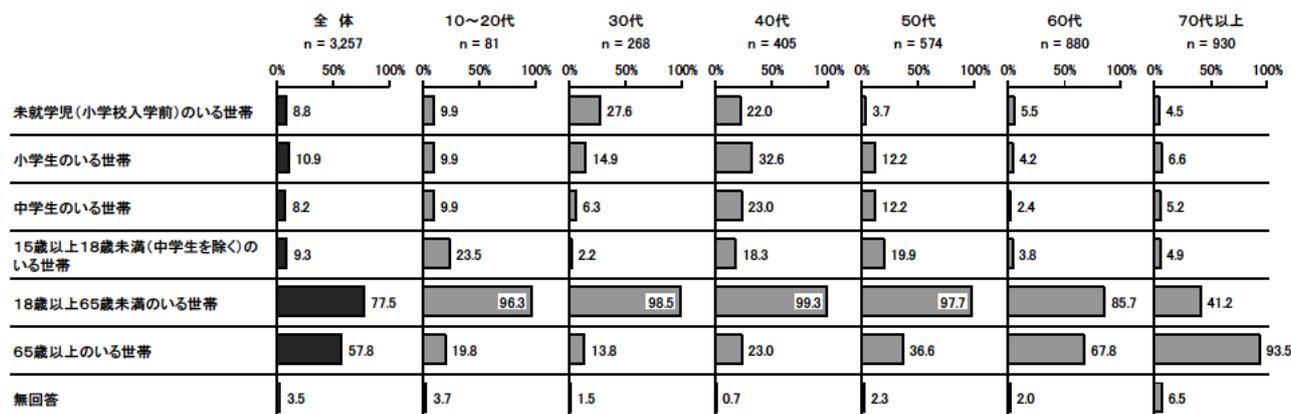
また、「18歳未満のいる世帯」が26.6%、「65歳以上だけの世帯」が18.6%となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

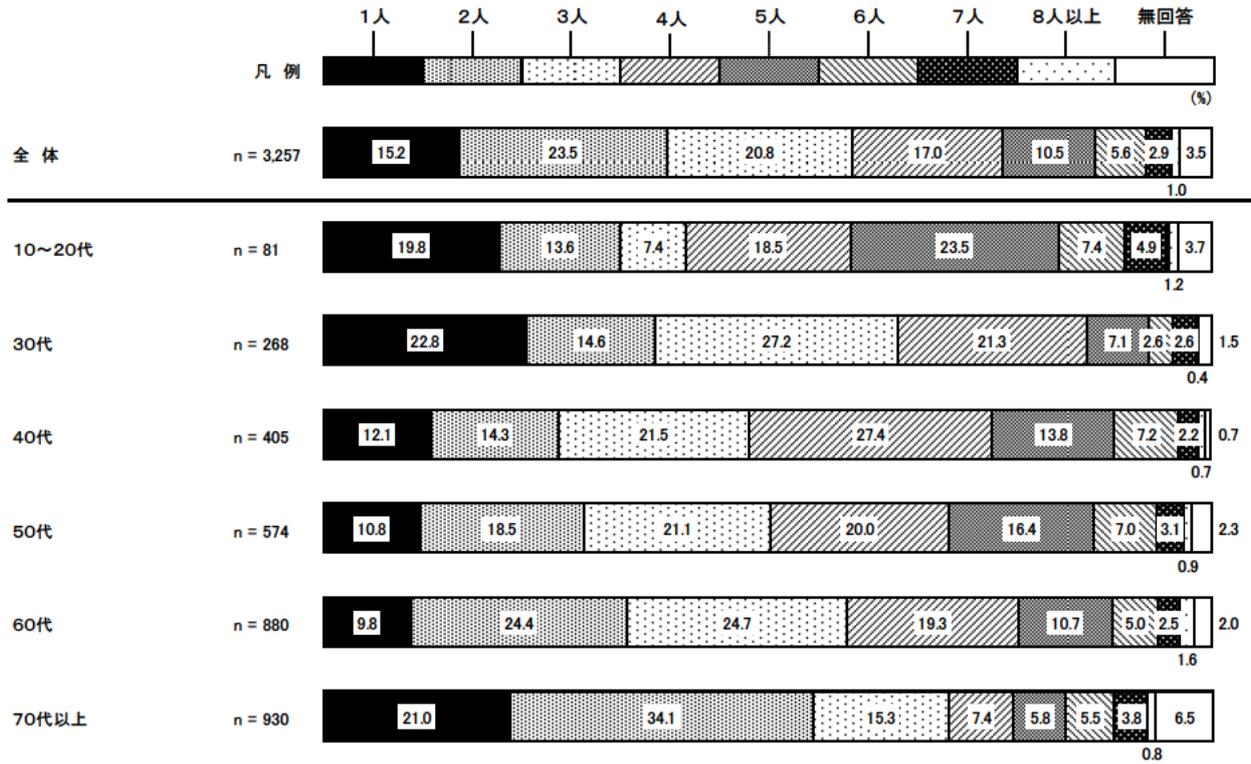


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が23.5%と最も高く、次いで「3人」が20.8%、「4人」が17.0%、「1人」が15.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は70代以上（34.1%）で、「3人」は30代（27.2%）で、「4人」は40代（27.4%）で、「1人」は10～20代（19.8%）、30代（22.8%）、70代以上（21.0%）で他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



(2) 現在の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(2)「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

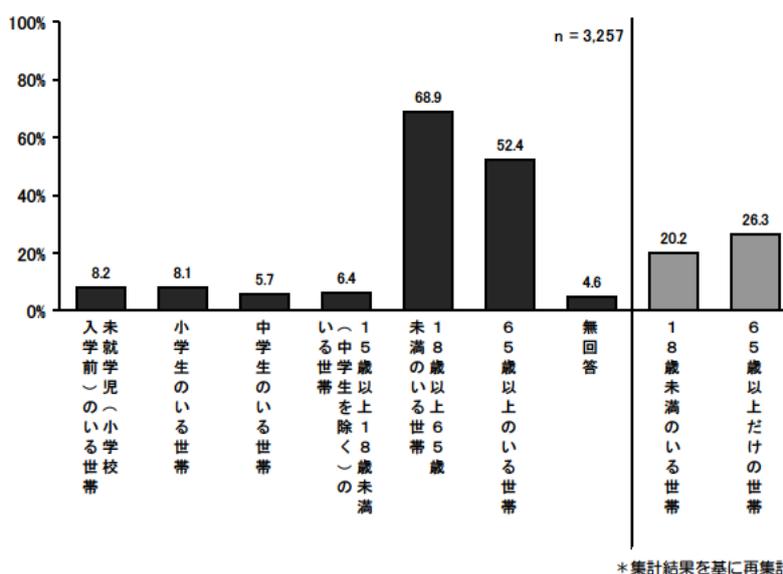
あなた自身を含めて、現在の年齢・学年にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

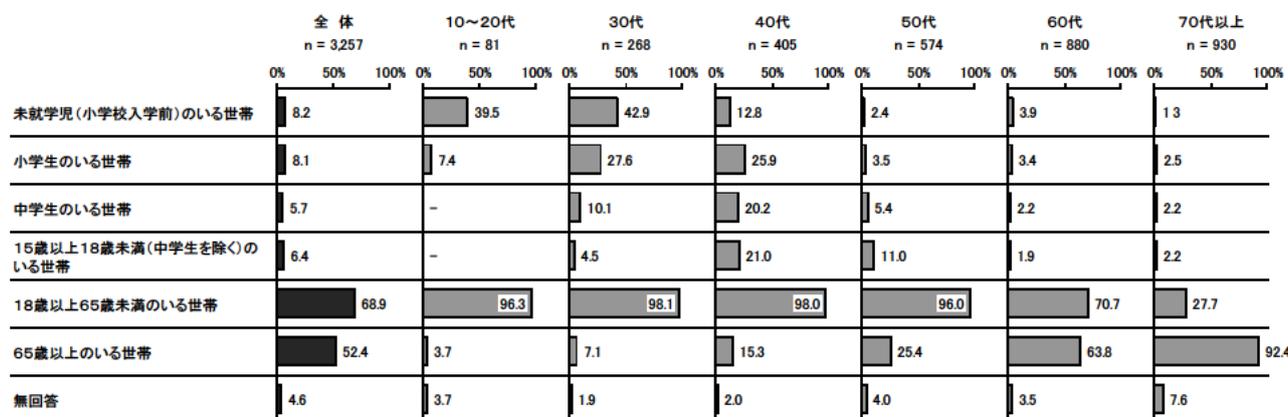
現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が68.9%、「65歳以上のいる世帯」が52.4%となっている。

また、「18歳未満のいる世帯」が20.2%、「65歳以上だけの世帯」が26.3%となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

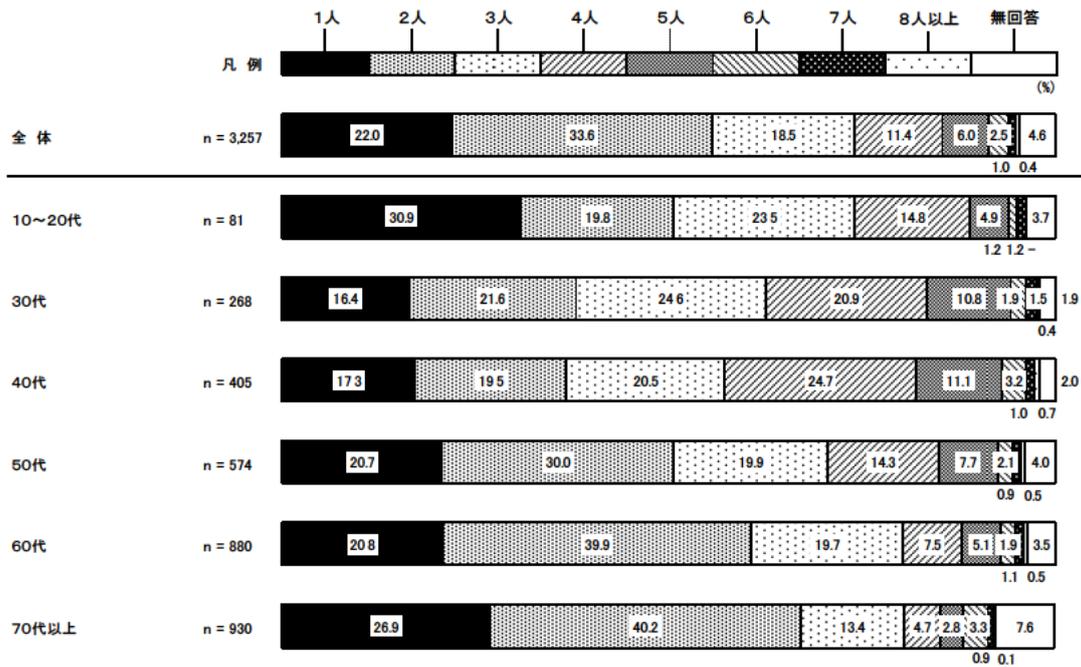


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が33.6%と最も高く、次いで「1人」が22.0%、「3人」が18.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は60代（39.9%）、70代以上（40.2%）で、「1人」は10～20代（30.9%）で、「3人」は10～20代（23.5%）、30代（24.6%）で、「4人」は30代（20.9%）、40代（24.7%）で他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数（年齢別）>



3-1-3 職業

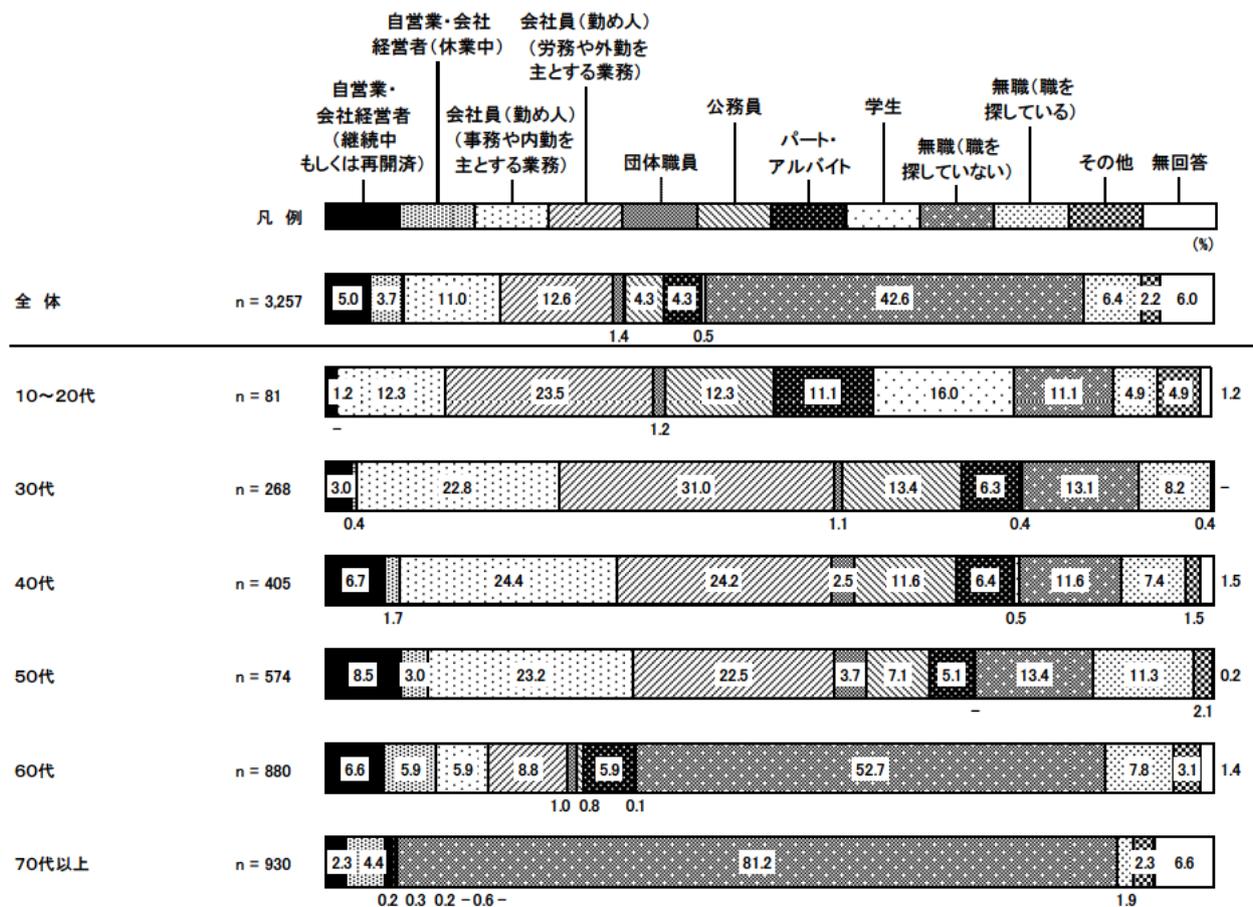
(1) 現在の職業（就業形態）

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
 (1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない・職を探している）」以外では、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が12.6%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が11.0%と高くなっている。

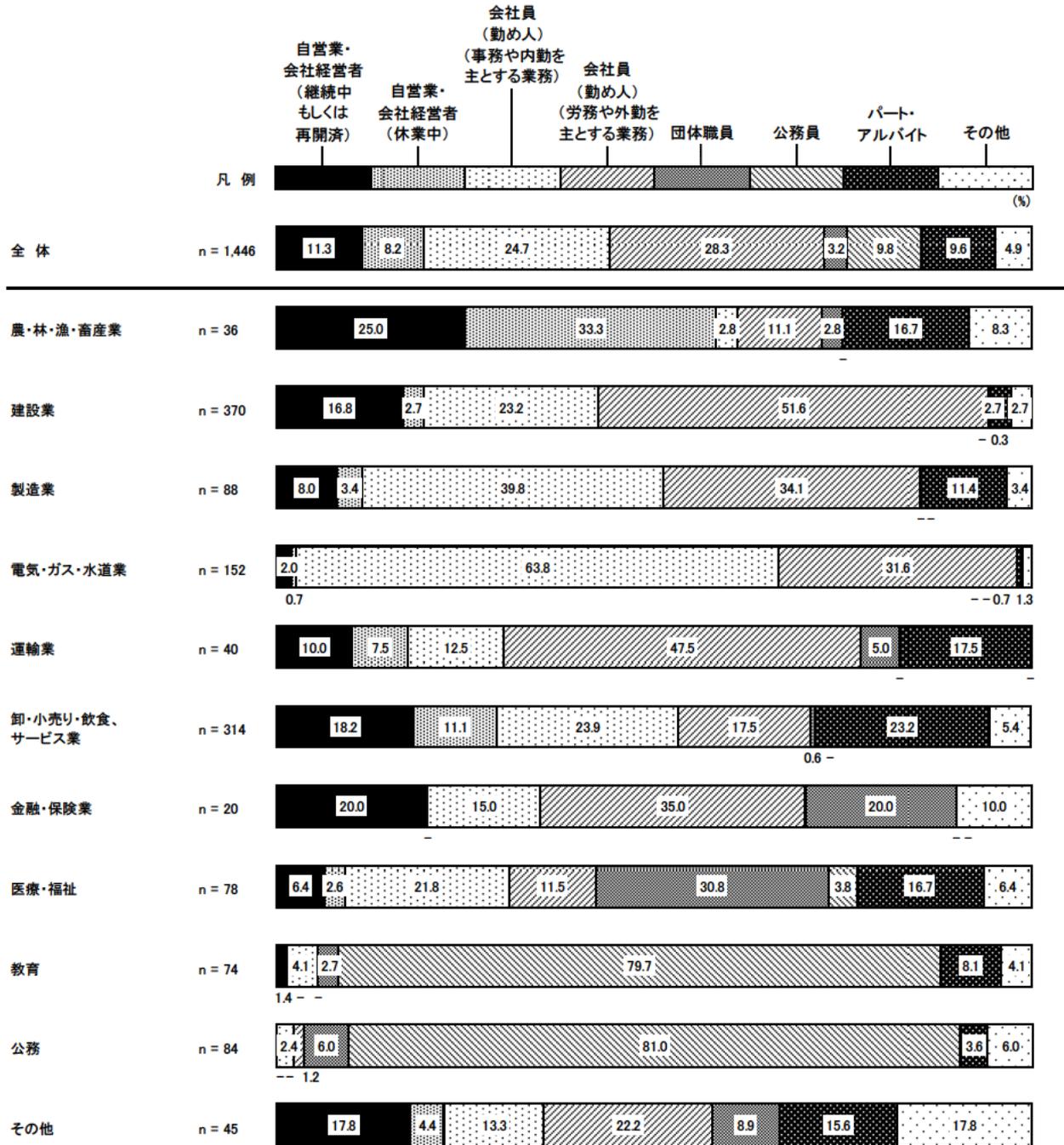
回答者の年齢別にみると、10～20代で「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が23.5%、30代で「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が31.0%、40代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が24.4%、50代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が23.2%、60代で「無職（職を探していない）」が52.7%、70代以上で「無職（職を探していない）」が81.2%とそれぞれの年齢で最も割合が高くなっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



業種別にみると、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は建設業（51.6%）、運輸業（47.5%）で、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」は電気・ガス・水道業（63.8%）、製造業（39.8%）で、他の業種と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

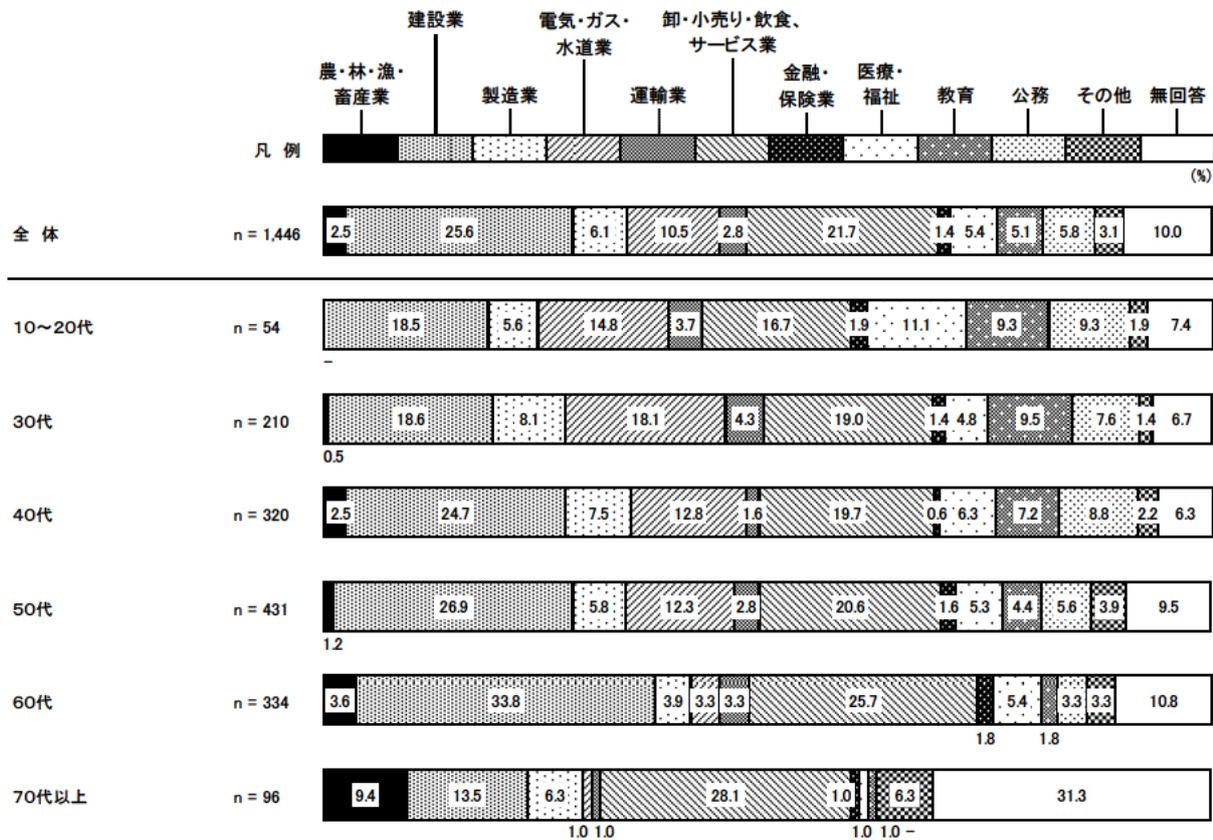
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

現在の業種については、「建設業」が25.6%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」が21.7%、「電気・ガス・水道業」が10.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は60代で33.8%、「卸・小売り・飲食、サービス業」は70代以上で28.1%と高くなっている。

<図表3-1-3-3 現在の業種(年齢別)>



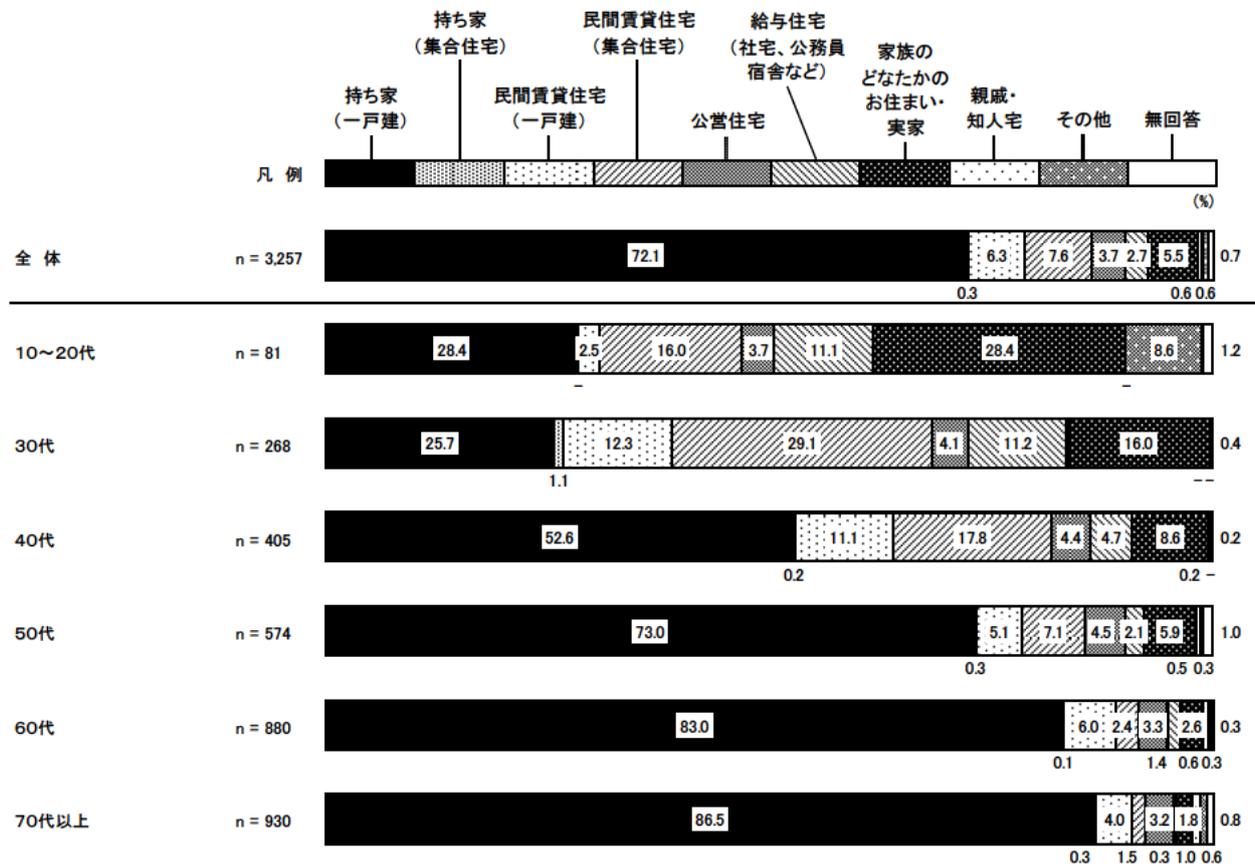
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が72.1%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」が7.6%、「民間賃貸住宅（一戸建）」が6.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では86.5%と9割近くを占める。「民間賃貸住宅（集合住宅）」は10~20代（16.0%）、30代（29.1%）、40代（17.8%）で高い。「民間賃貸住宅（一戸建）」は30代（12.3%）、40代（11.1%）で高くなっている。また、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、10~20代で28.4%、30代で16.0%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



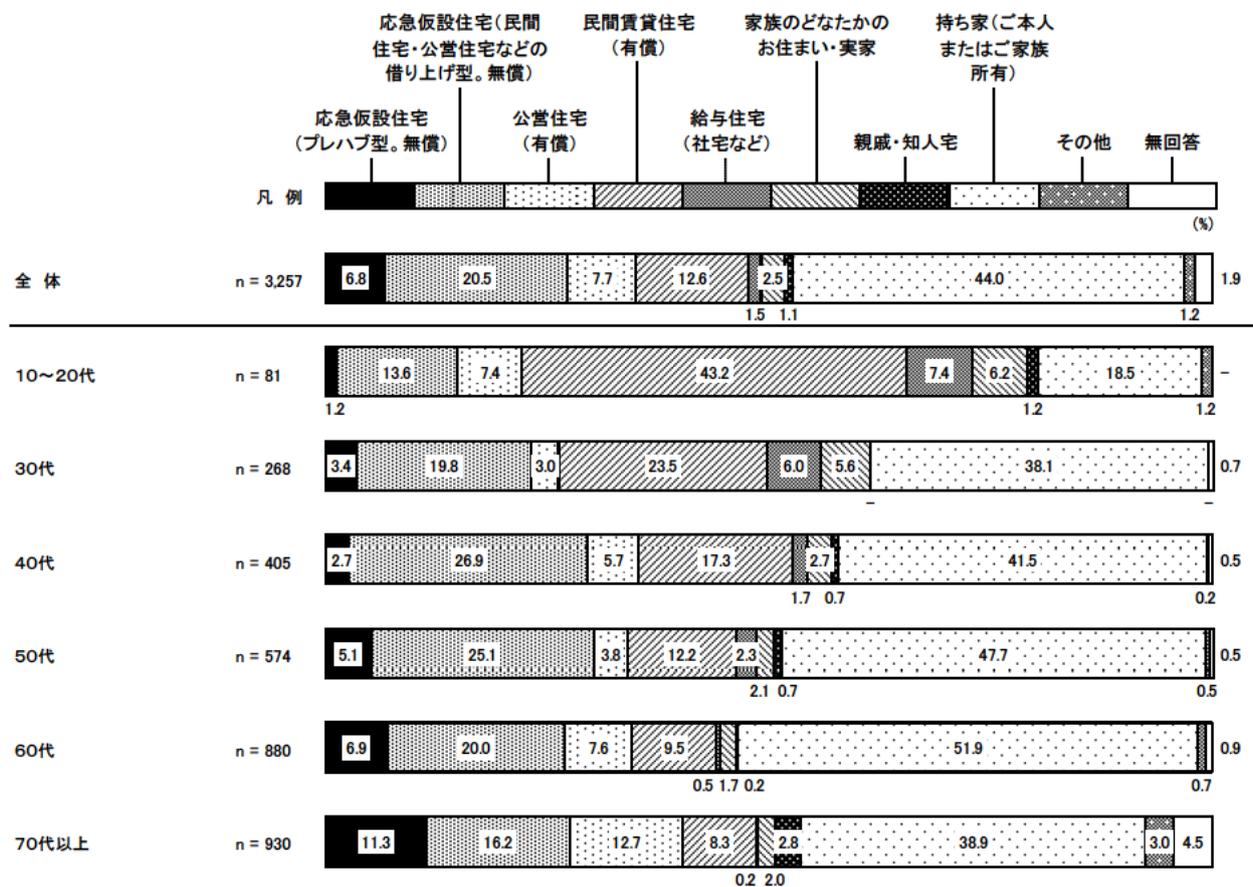
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が44.0%と最も高く、次いで、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が20.5%、「民間賃貸住宅（有償）」が12.6%となっている。

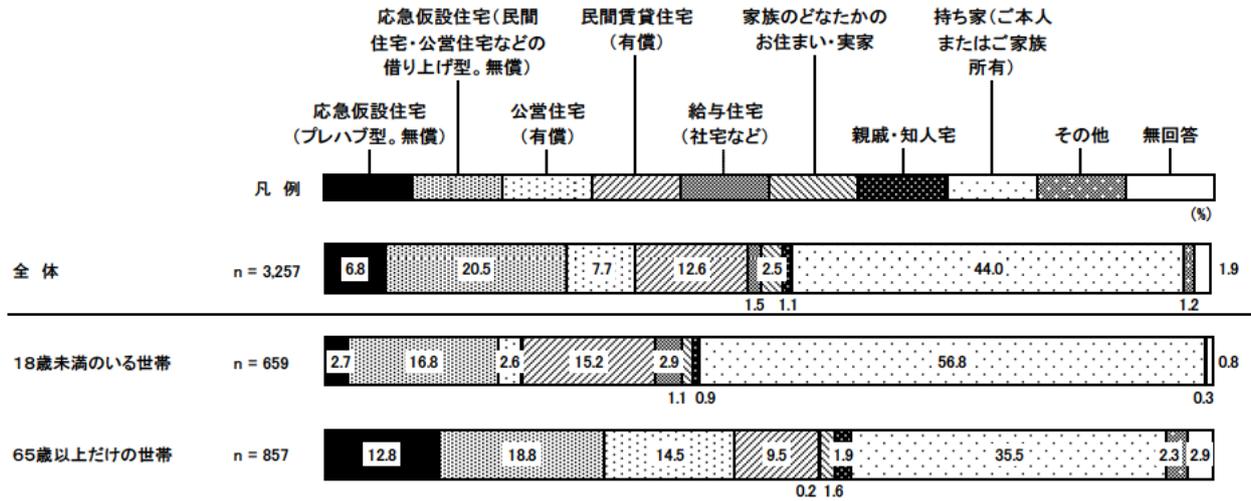
回答者の年齢別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は60代で51.9%、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は40代で26.9%、「民間賃貸住宅（有償）」は若年層で高く、10～20代で43.2%、30代で23.5%と高くなっている。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



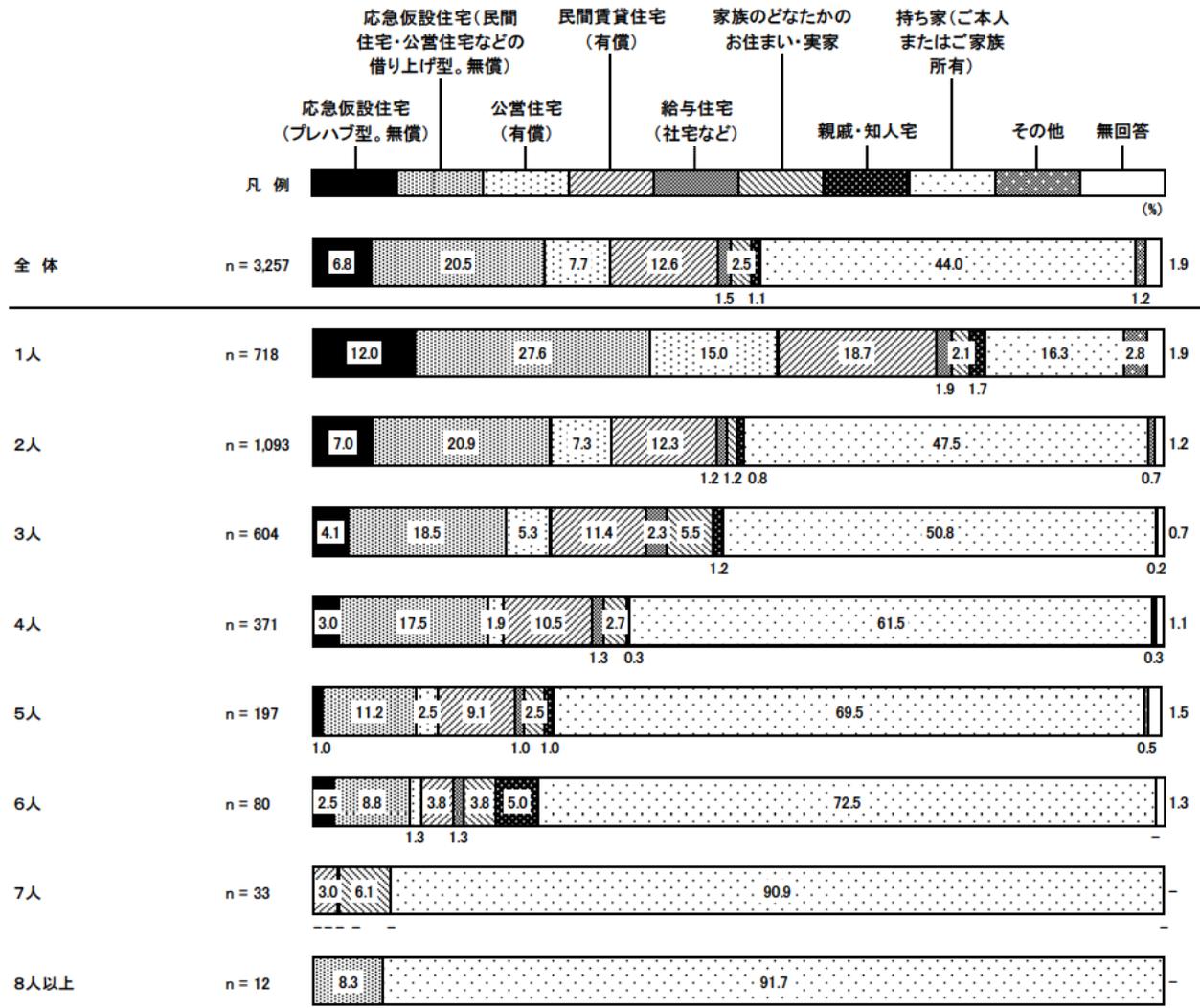
世帯構成別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18歳未満のいる世帯で56.8%と全体の割合と比べて高くなっている。65歳以上だけの世帯では「公営住宅（有償）」（14.5%）、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」（12.8%）が高くなっている。

<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



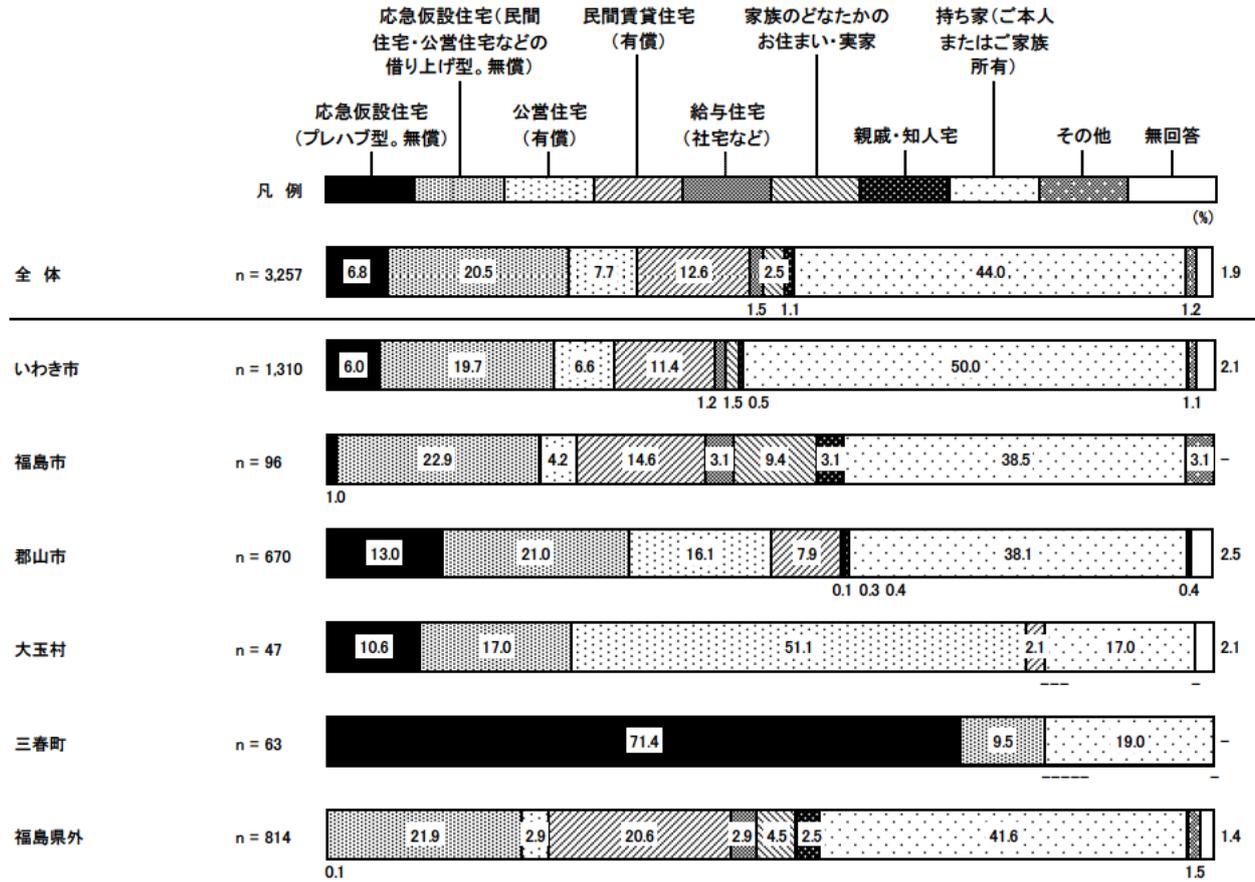
世帯人数別にみると、世帯人数が多くなるにつれて、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」の割合が高くなる傾向にある。なお、世帯人数が1人の場合では「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」（27.6%）、「民間賃貸住宅（有償）」（18.7%）、「公営住宅（有償）」（15.0%）、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」（12.0%）が全体の割合と比べて高くなっている。

<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」はいわき市で50.0%、「民間賃貸住宅（有償）」は福島県外で20.6%、「公営住宅（有償）」は大玉村で51.1%、郡山市で16.1%、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は三春町で71.4%、郡山市で13.0%と高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



3-2 将来の意向

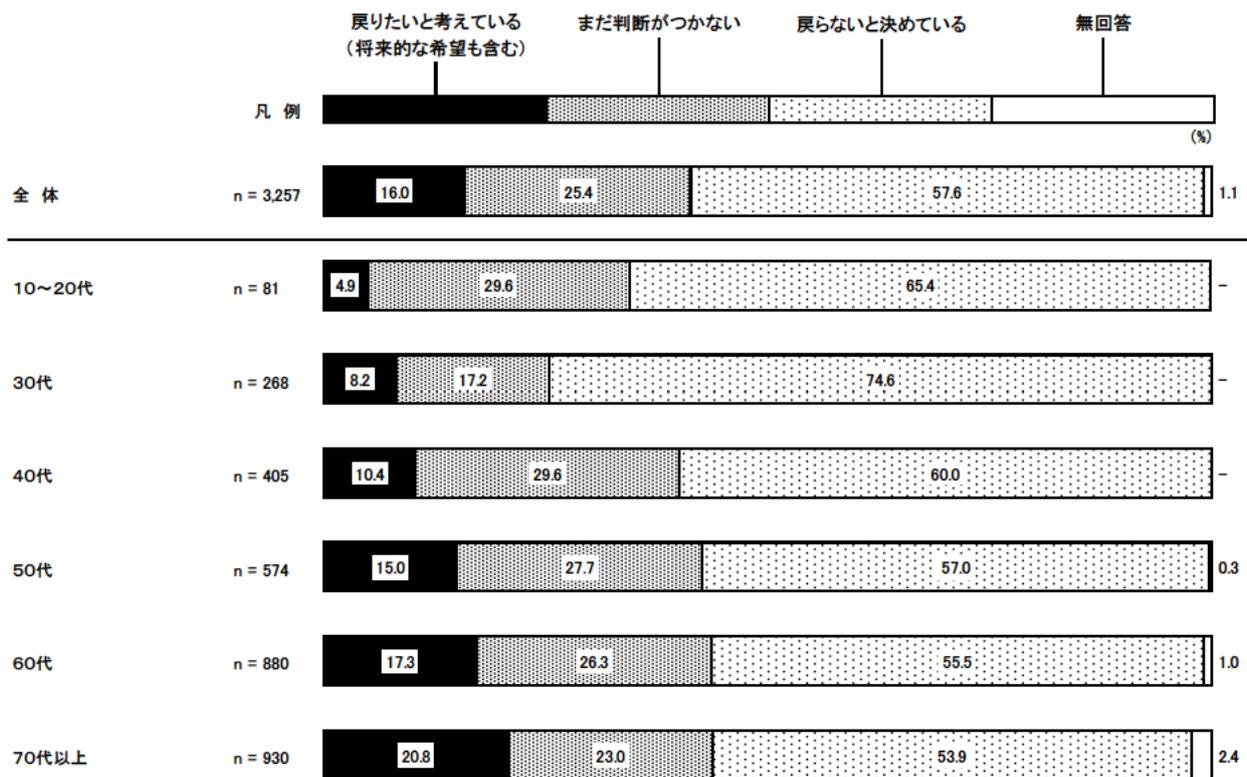
3-2-1 富岡町への帰還意向

問8 将来、富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
「1」から「3」の中から1つ選び、それぞれの質問にお答えください。(〇は1つ)

将来、富岡町の避難指示が解除された後の帰還意向については、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が16.0%、「まだ判断がつかない」が25.4%、「戻らないと決めている」が57.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている」は70代以上（20.8%）で2割以上と高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は若年層で高く10~20代で65.4%、30代で74.6%となっている。

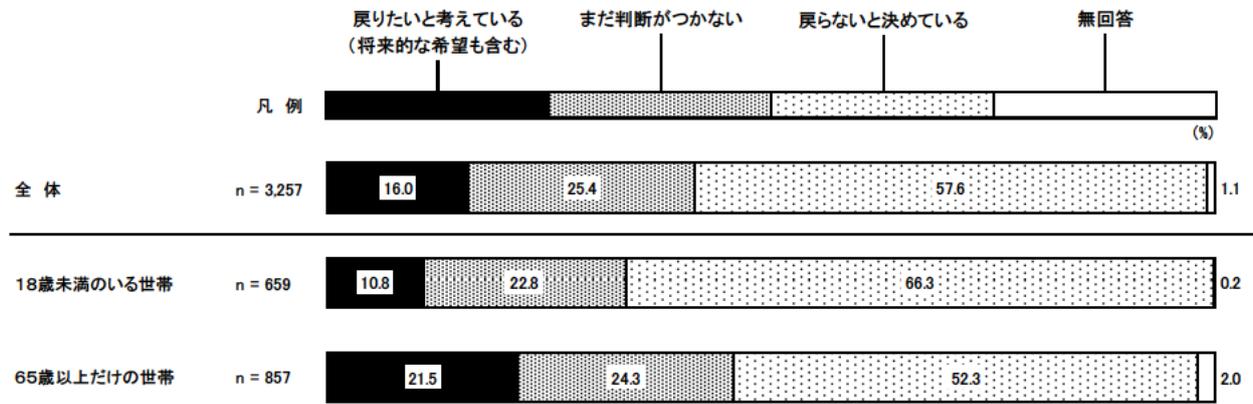
<図表3-2-1-1 富岡町への帰還意向（年齢別）>



III 調査結果

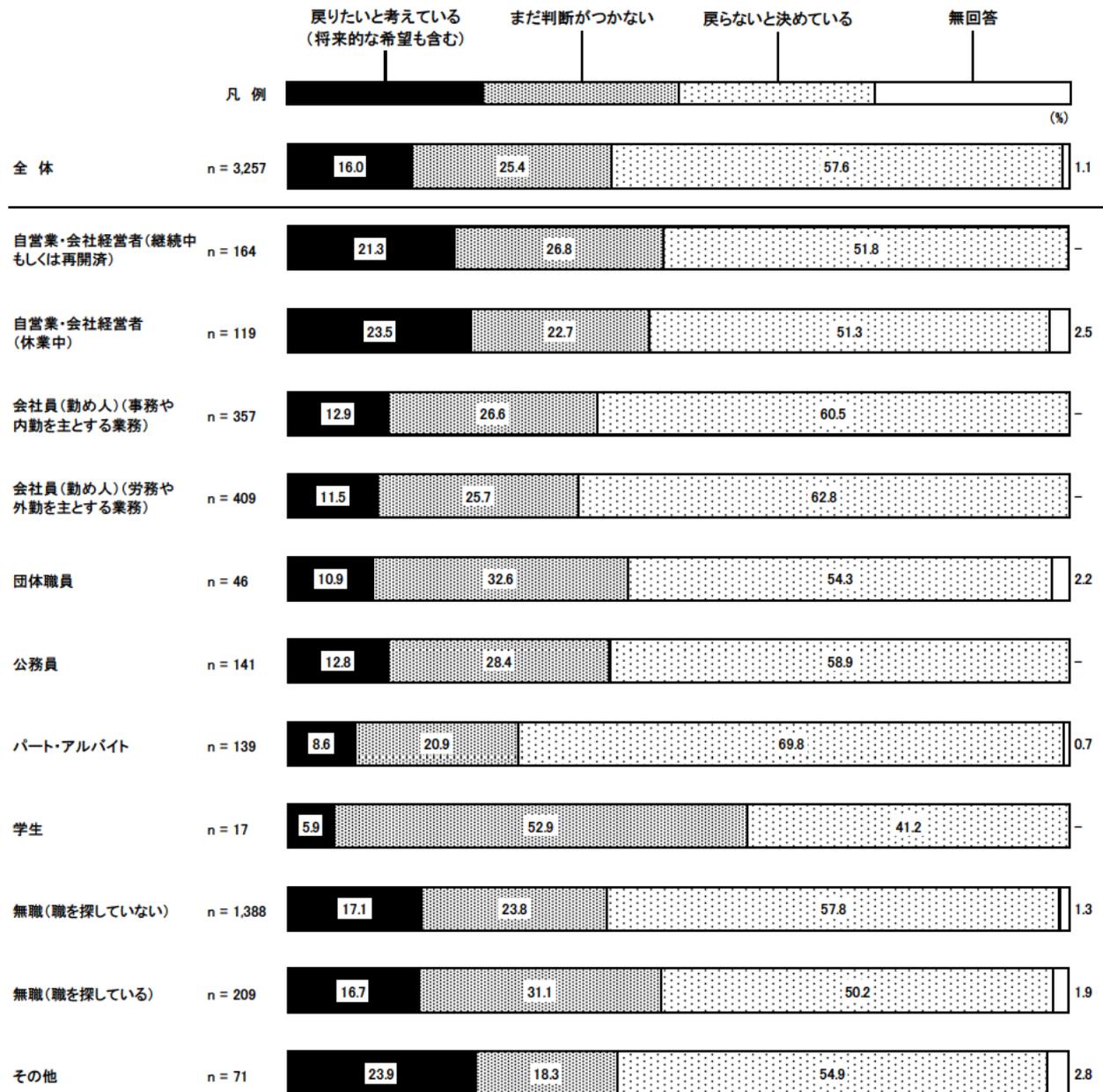
世帯構成別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は65歳以上の世帯では21.5%となっており全体の割合に比べ高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は、18歳未満のいる世帯で66.3%と全体の割合に比べ高くなっている。

<図表3-2-1-2 富岡町への帰還意向(世帯構成別)>



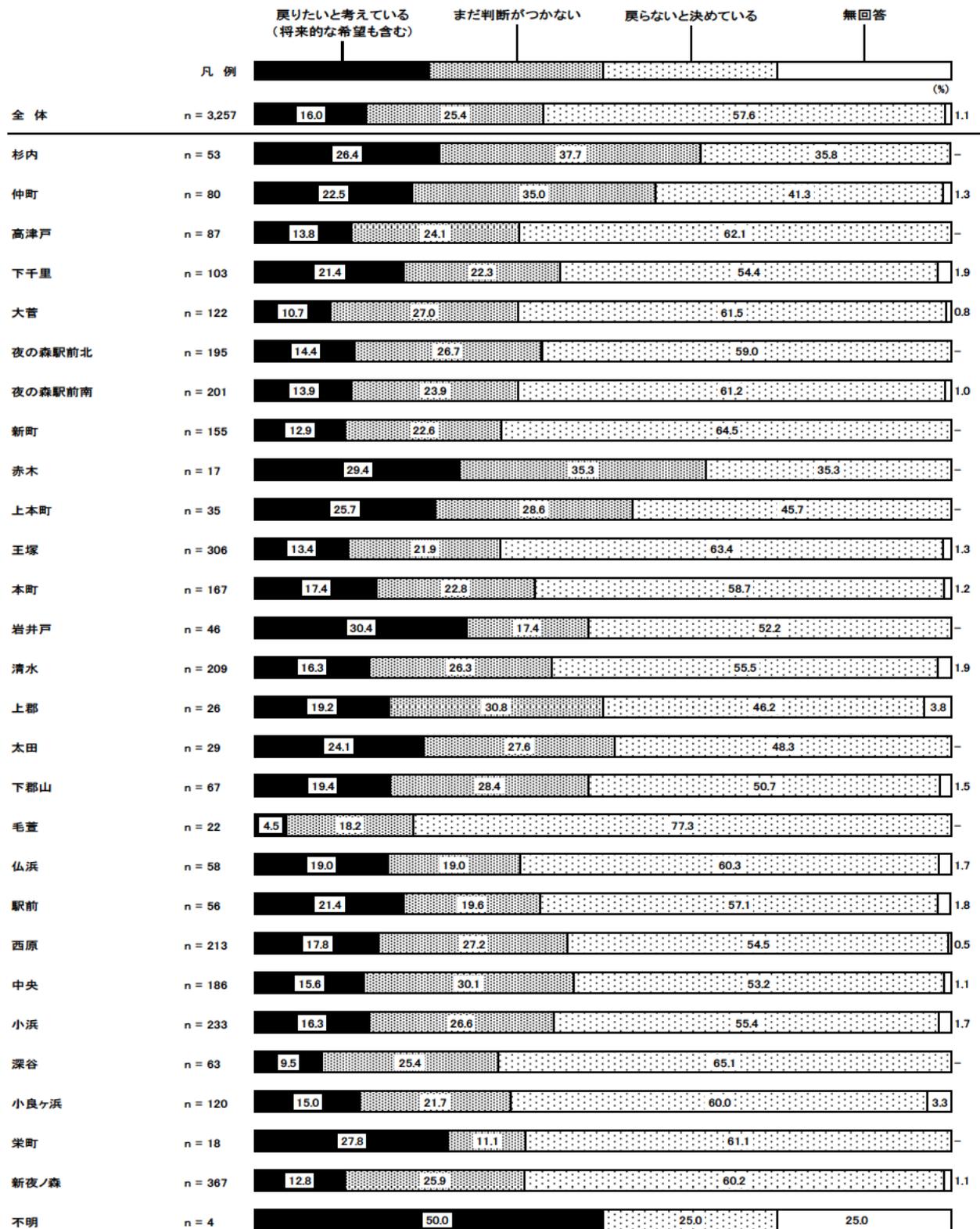
職業別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は自営業・会社経営者(休業中)(23.5%)、自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済)(21.3%)で高くなっている。一方、「戻らないと決めている」はパート・アルバイト(69.8%)、会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)(62.8%)、会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務)(60.5%)で6割以上と高くなっている。

<図表3-2-1-3 富岡町への帰還意向(職業別)>



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、岩井戸（30.4%）、杉内（26.4%）、上本町（25.7%）、仲町（22.5%）、下千里（21.4%）、駅前（21.4%）で高くなっている。

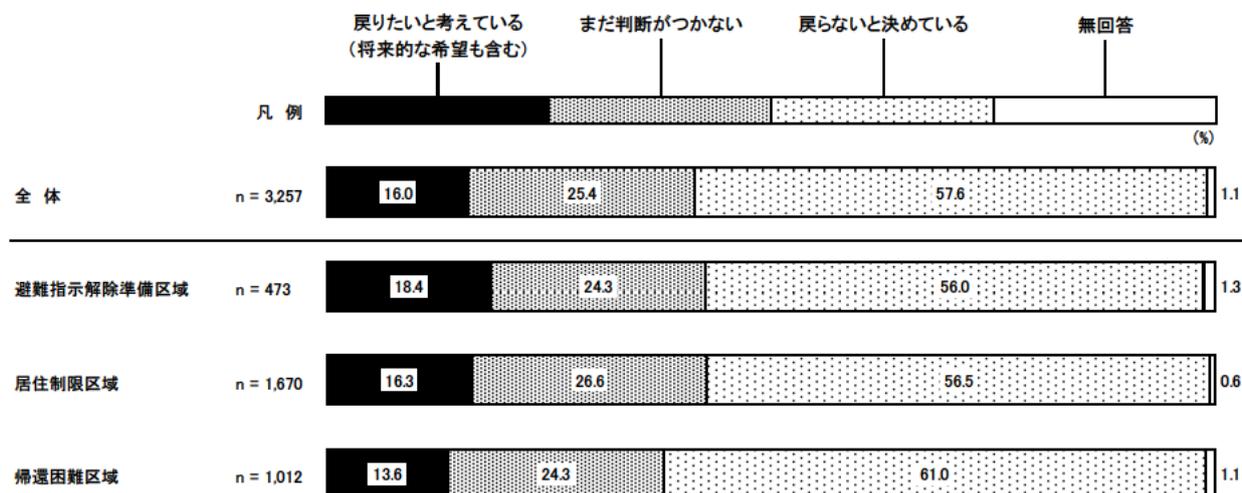
＜図表3-2-1-4 富岡町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞



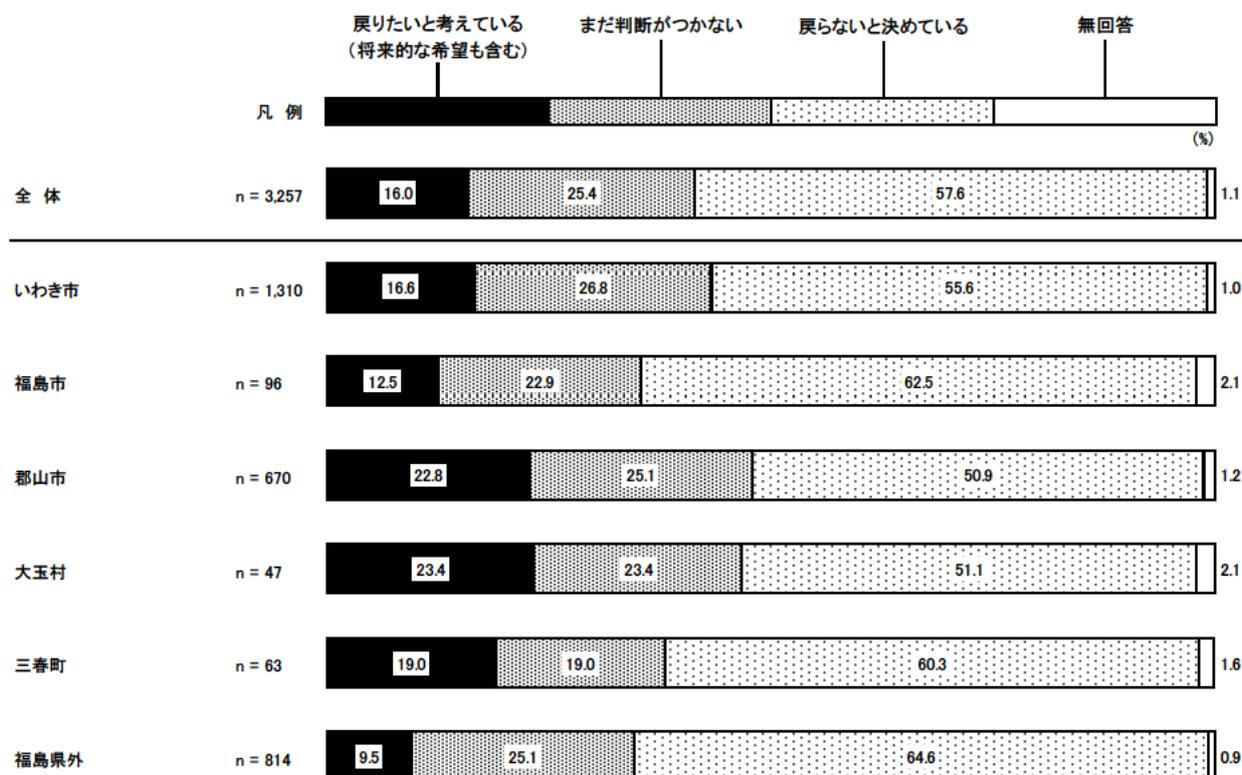
避難指示区域別にみると、全体と同様の傾向となっている。

主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は大玉村（23.4%）、郡山市（22.8%）で2割以上と高くなっている。

<図表3-2-1-5 富岡町への帰還意向（避難指示区域別）>



<図表3-2-1-6 富岡町への帰還意向（主な避難先自治体別）>

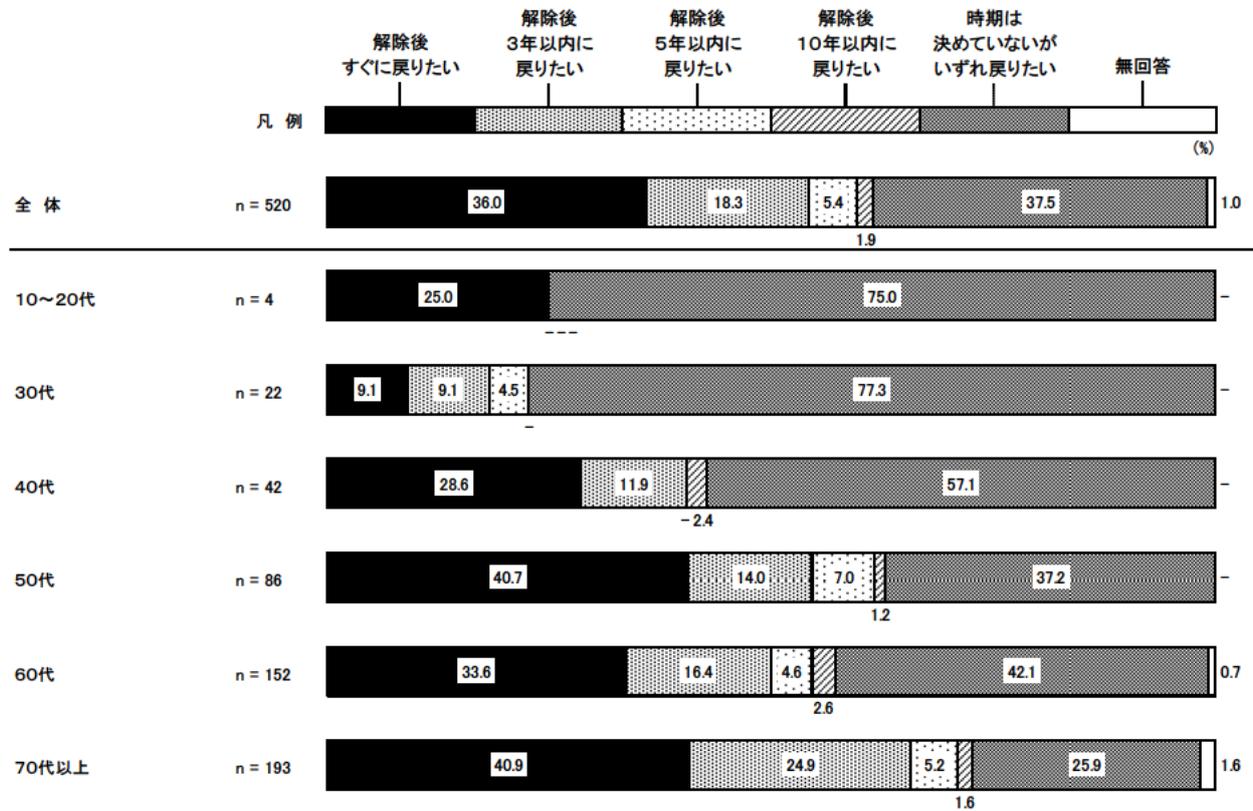


3-2-2 富岡町への帰還時期

【問8で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問9-1 富岡町へ戻りたい時期を教えてください。（〇は1つ）

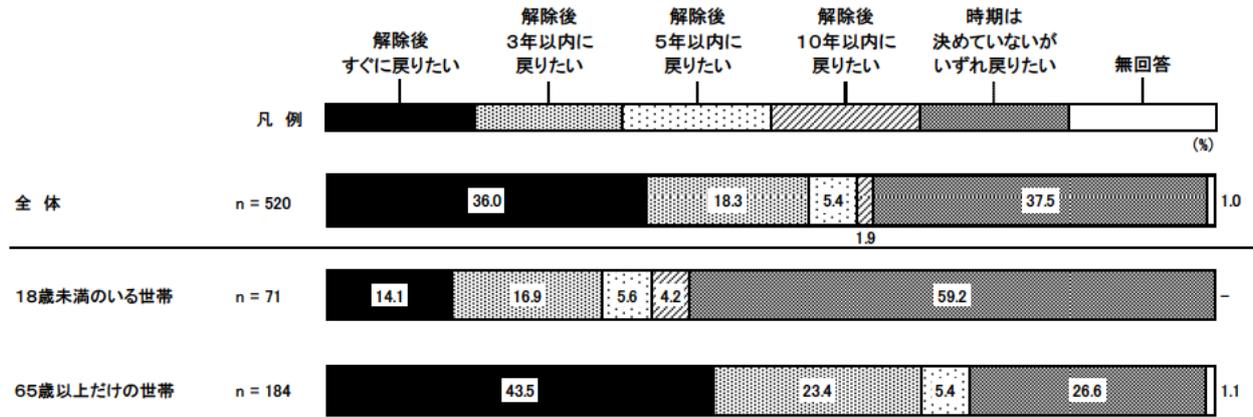
富岡町へ戻る場合の帰還時期については、「時期は決めていないがいずれ戻りたい」が37.5%と最も高く、次いで「解除後すぐに戻りたい」が36.0%、「解除後3年以内に戻りたい」が18.3%となっている。
 回答者の年齢別にみると、「時期は決めていないがいずれ戻りたい」は40代で57.1%、「解除後すぐに戻りたい」は50代で40.7%、70代以上で40.9%、「解除後3年以内に戻りたい」は70代以上24.9%と高くなっている。

<図表3-2-2-1 富岡町への帰還時期（年齢別）>



世帯構成別にみると、「時期は決めていないがいずれ戻りたい」は18歳未満のいる世帯で59.2%と高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「解除後すぐに戻りたい」が43.5%と高くなっている。

<図表3-2-2-2 富岡町への帰還時期（世帯構成別）>



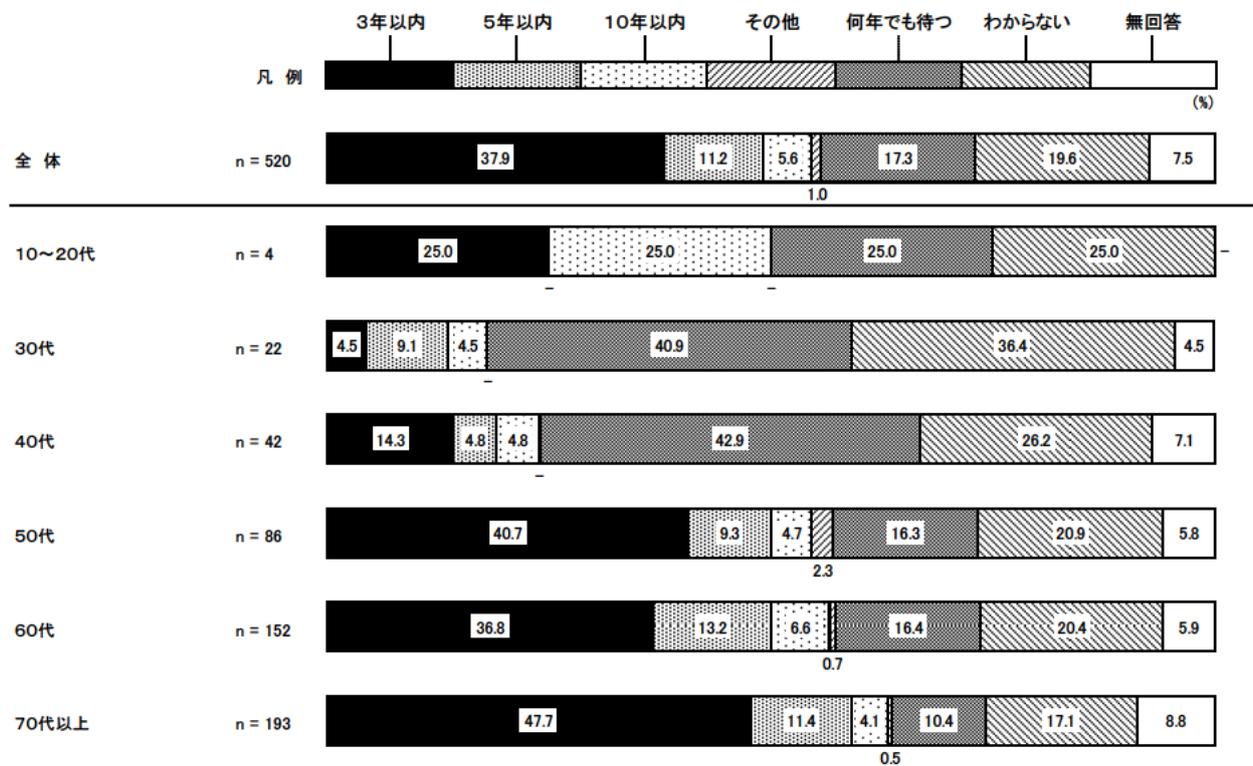
3-2-3 避難指示解除まで待てる期間

【問8で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問9-2 現時点から避難指示解除まで待てる期間を教えてください。（〇は1つ）

富岡町へ戻る場合の避難指示解除まで待てる期間については、「3年以内」が37.9%、次いで「何年でも待つ」が17.3%、「5年以内」が11.2%となっている。

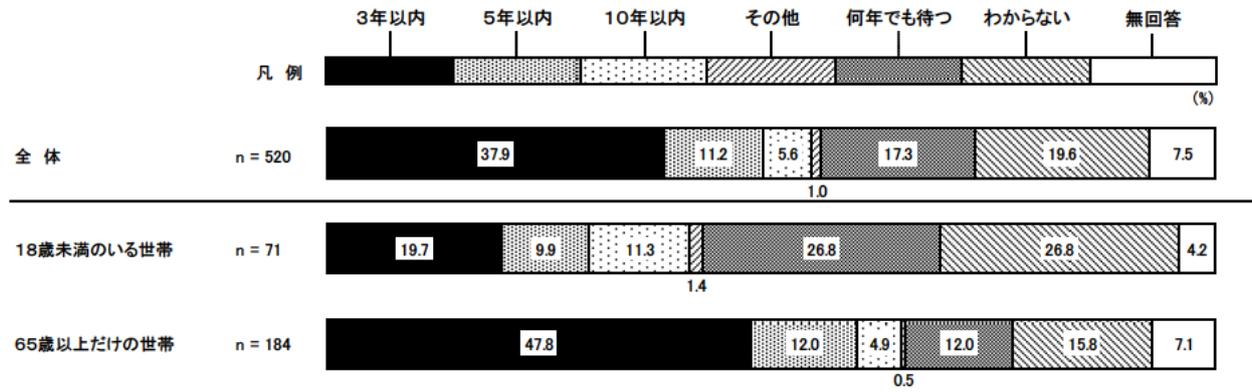
回答者の年齢別にみると、「3年以内」は70代以上で47.7%、「何年でも待つ」は40代で42.9%と高くなっている。

<図表3-2-3-1 避難指示解除まで待てる期間（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「何年でも待つ」が26.8%と高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「3年以内」が47.8%と高くなっている。

<図表3-2-3-2 避難指示解除まで待てる期間（世帯構成別）>



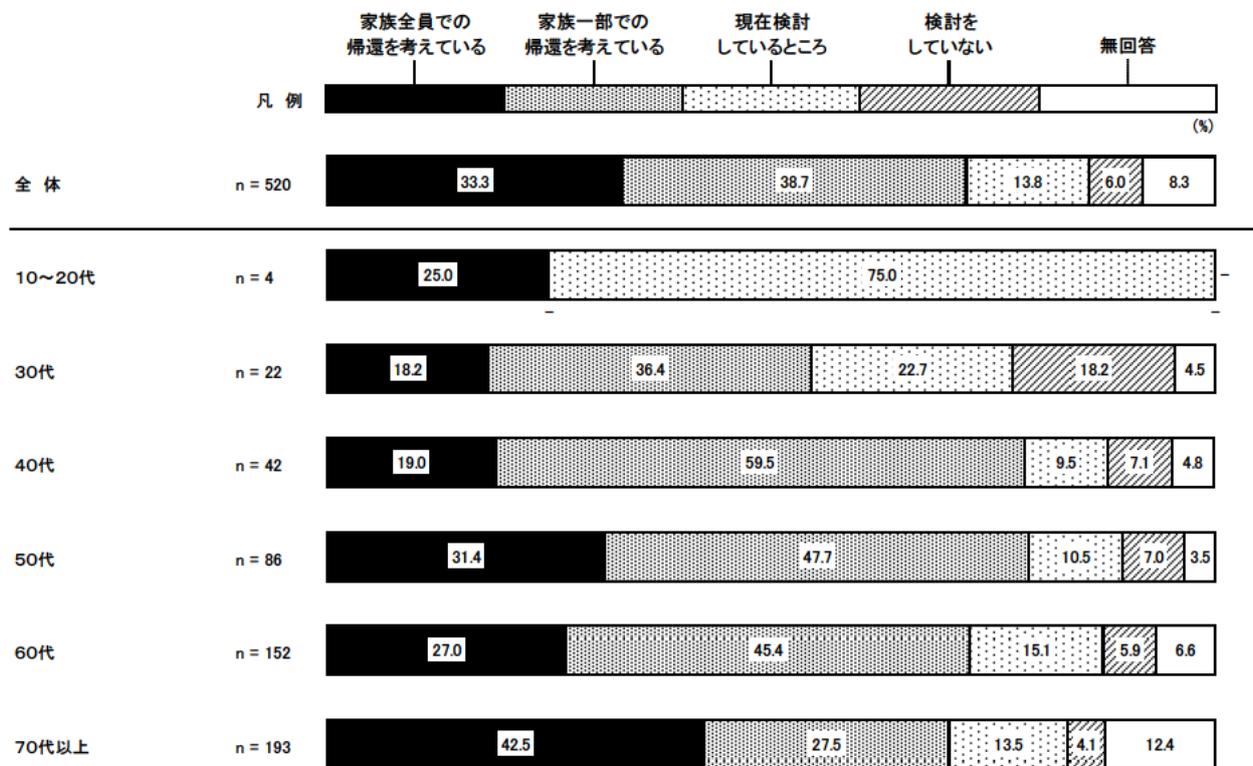
3-2-4 富岡町へ戻る場合の家族

【問8で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問9-3 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（〇は1つ）

富岡町へ戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が38.7%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が33.3%、「現在検討しているところ」が13.8%となっている。

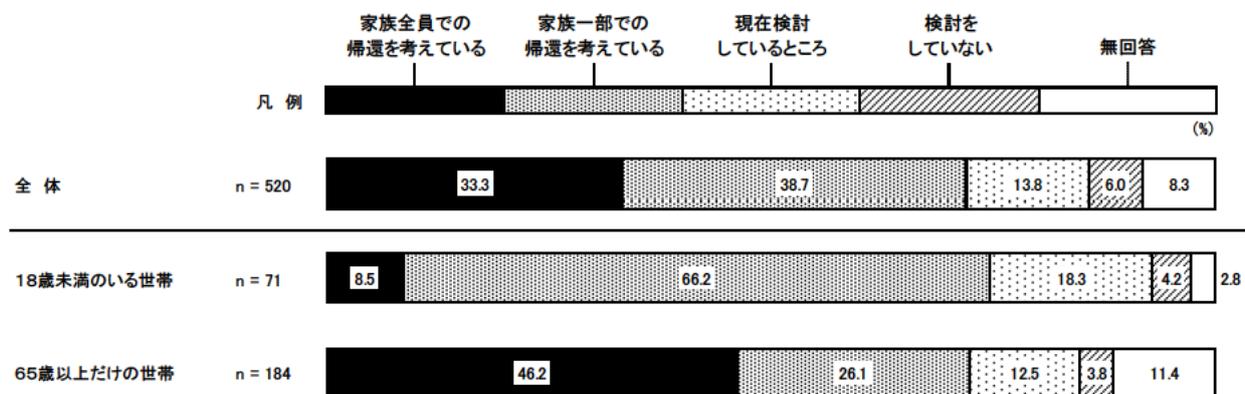
回答者の年齢別にみると、「家族一部での帰還を考えている」は40代で59.5%、「家族全員での帰還を考えている」は70代以上で42.5%と高くなっている。

＜図表3-2-4-1 富岡町へ戻る場合の家族（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「家族一部での帰還を考えている」は18歳未満のいる世帯で66.2%、「家族全員での帰還を考えている」は65歳以上だけの世帯で46.2%と高くなっている。

<図表3-2-4-2 富岡町へ戻る場合の家族（世帯構成別）>



3-2-5 富岡町へ帰還した場合の仕事

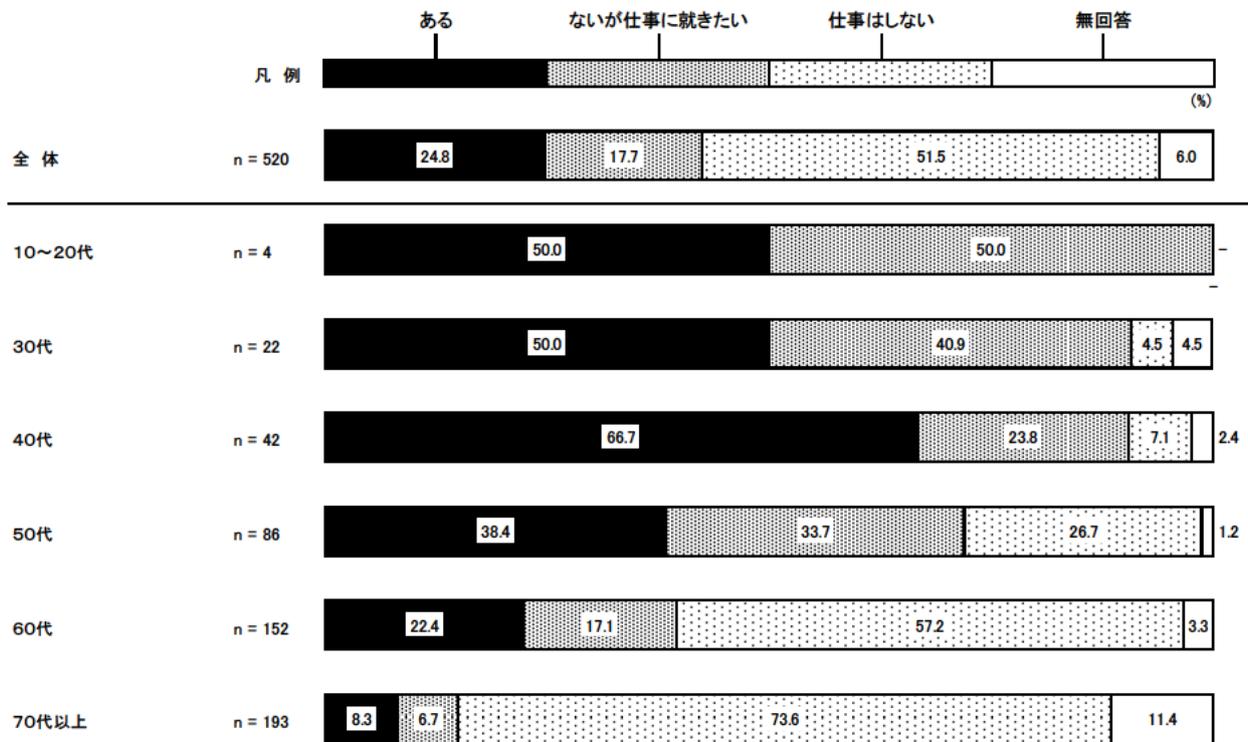
(1) 富岡町へ帰還した場合の仕事の見通し

【問8で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問9-4 帰還した場合の仕事の見通しはありますか。（〇は1つ）

富岡町へ帰還した場合の仕事の見通しについては、仕事の見通しが「ある」は24.8%、「ないが仕事に就きたい」が17.7%、「仕事はしない」が51.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「仕事はしない」が70代以上で73.6%、60代で57.2%と高くなっている。一方、10代から50代では「ある」もしくは「ないが仕事に就きたい」で7割以上となっている。

<図表3-2-5-1 富岡町へ帰還した場合の仕事の見通し（年齢別）>



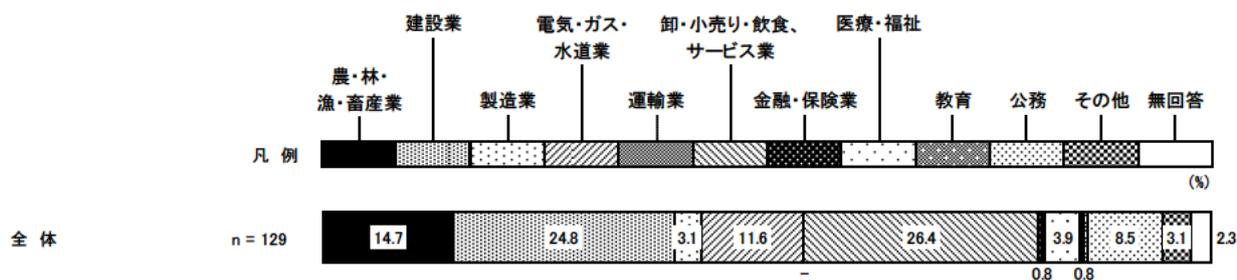
(2) 富岡町へ帰還した場合に見通しがたっている仕事の業種

【問9-4で「1. ある」と回答した方にうかがいます】

問9-5-1 見通しがたっている仕事の業種は何ですか。(〇は1つ)

富岡町へ帰還した場合に見通しがたっている仕事の業種については、「卸・小売り・飲食、サービス業」(26.4%)が最も高く、次いで「建設業」(24.8%)、「農・林・漁・畜産業」(14.7%)となっている。

<図表3-2-5-2 富岡町へ帰還した場合に見通しがたっている仕事の業種>



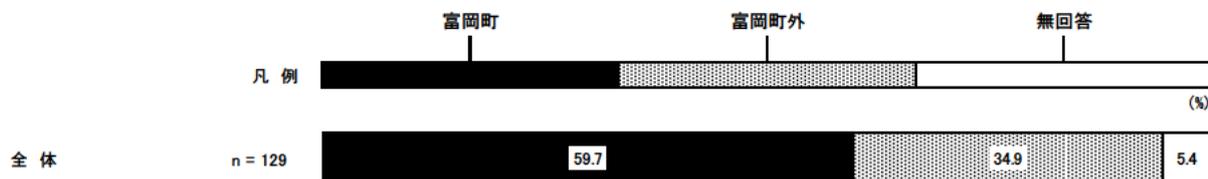
(3) 富岡町へ帰還した場合に見通しがたっている仕事の場所

【問9-4で「1. ある」と回答した方にうかがいます】

問9-5-2 見通しがたっている仕事の場所(勤務先)はどこですか。(〇は1つ)

富岡町へ帰還した場合に見通しがたっている仕事の場所については、「富岡町」(59.7%)が6割近くを占める。

<図表3-2-5-3 富岡町へ帰還した場合に見通しがたっている仕事の場所>

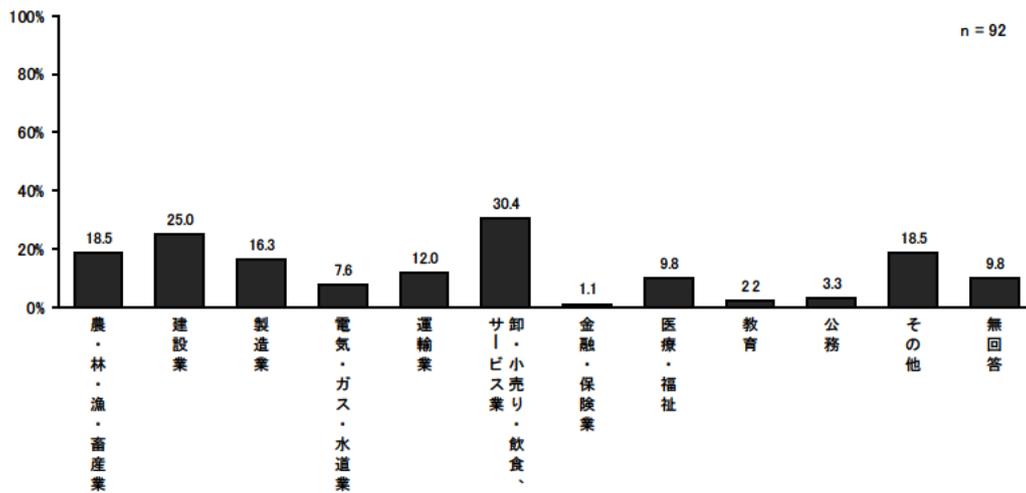


(4) 富岡町へ帰還した場合に就業を希望する仕事の業種

【問9-4で「2. ないが仕事に就きたい」と回答した方にうかがいます】
 問9-5-3 仕事に就く場合、どのような業種を希望しますか。(〇はいくつでも)

富岡町へ帰還した場合に就業を希望する仕事の業種については、「卸・小売り・飲食、サービス業」で30.4%と最も高く、次いで「建設業」で25.0%となっている。

<図表3-2-5-4 富岡町へ帰還した場合に就業を希望する仕事の業種>



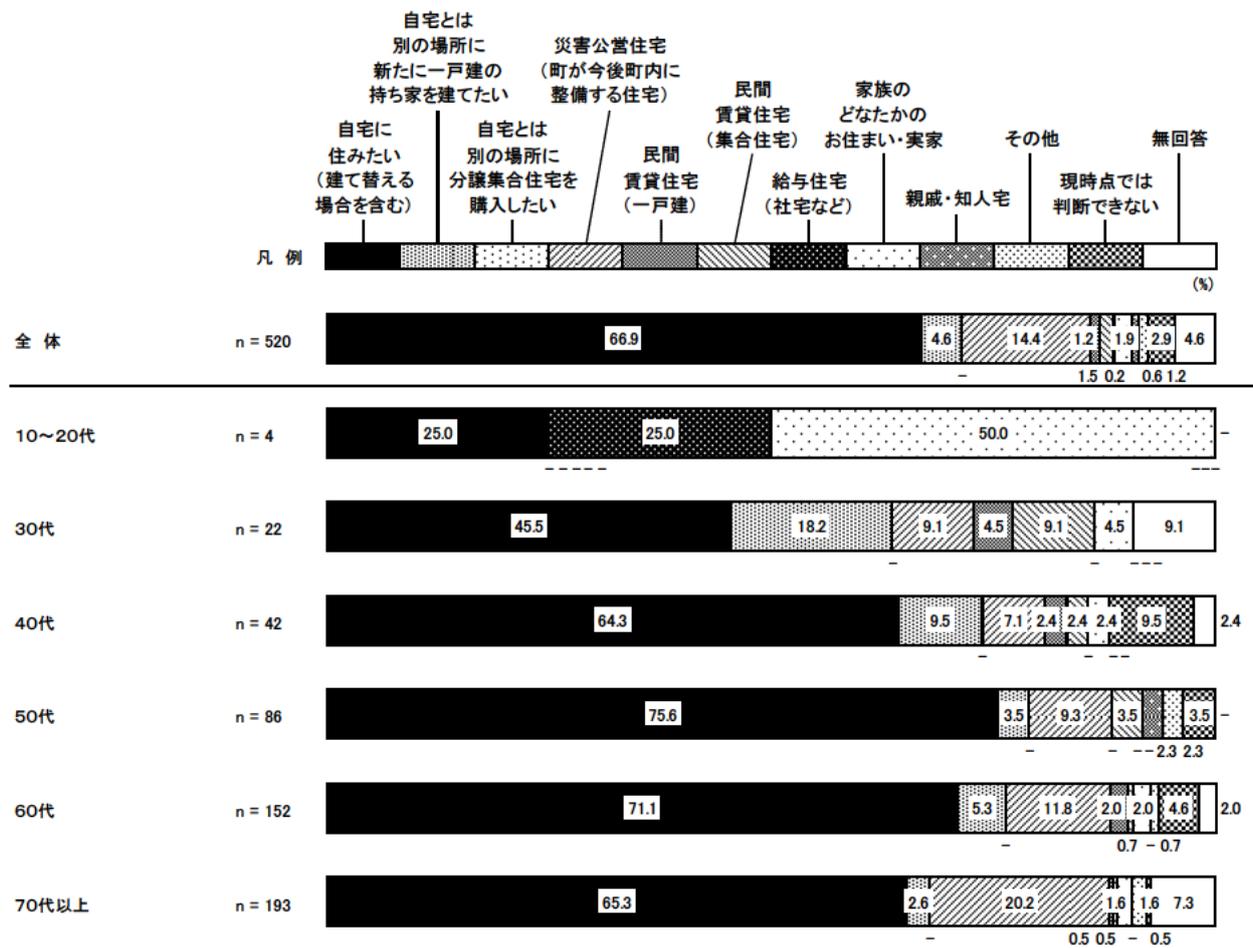
3-2-6 富岡町へ帰還する場合の住居形態

【問8で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問9-6 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

富岡町へ帰還する場合の住居形態については、「自宅に住みたい（建て替える場合を含む）」が66.9%と最も高く、次いで「災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）」が14.4%となっている。

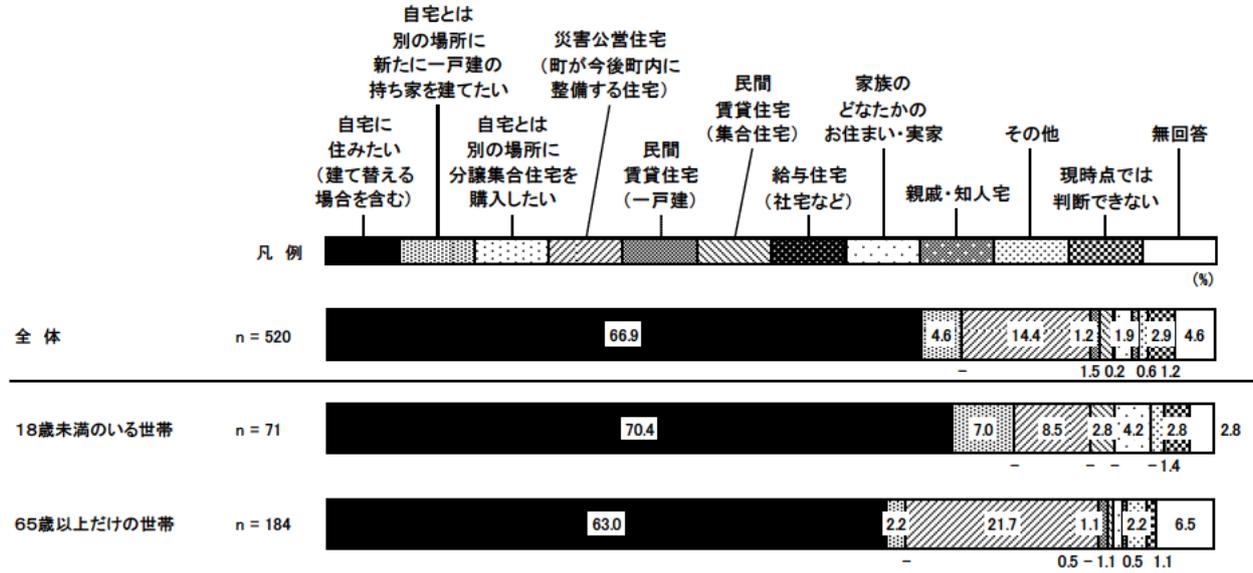
回答者の年齢別にみると、「自宅に住みたい（建て替える場合を含む）」は50代で75.6%、60代で71.1%と高くなっている。また、「災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）」は70代以上で20.2%と高くなっている。

<図表3-2-6-1 富岡町へ帰還する場合の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、「災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）」は65歳以上の世帯で21.7%と高くなっている。

<図表3-2-6-2 富岡町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）>



<図表3-2-6-3 富岡町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）>

		(%)														
	n	含む（建て替える場合を）	自宅に替える場合を	新たに戸建の場所に持ち家を建てたい	自宅とは別の場所に購入したい	自宅とは別の場所に分譲集合住宅を	今後町内に整備する住宅（）	災害公営住宅へ町が	民間賃貸住宅（一戸建）	民間賃貸住宅（集合住宅）	給与住宅（社宅など）	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点ではない	無回答
全体	520	66.9	4.6	-	14.4	1.2	1.5	0.2	1.9	0.6	1.2	2.9	4.6			
杉内	14	85.7	-	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	7.1			
仲町	18	88.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1			
高津戸	12	83.3	8.3	-	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-			
下千里	22	63.6	-	-	4.5	-	4.5	-	-	-	9.1	-	18.2			
大菅	13	84.6	-	-	-	7.7	-	-	-	-	-	-	7.7			
夜の森駅前北	28	57.1	3.6	-	25.0	-	3.6	-	-	3.6	-	7.1	-			
夜の森駅前南	28	50.0	7.1	-	28.6	3.6	3.6	-	-	-	3.6	3.6	-			
新町	20	80.0	5.0	-	5.0	-	-	-	5.0	-	-	5.0	-			
赤木	5	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
上本町	9	66.7	11.1	-	11.1	-	-	-	-	-	-	-	11.1			
王塚	41	70.7	-	-	12.2	4.9	2.4	-	-	2.4	-	7.3	-			
本町	29	69.0	17.2	-	13.8	-	-	-	-	-	-	-	-			
岩井戸	14	71.4	-	-	7.1	-	-	-	-	-	7.1	7.1	7.1			
清水	34	82.4	-	-	8.8	-	-	-	2.9	-	-	5.9	-			
上郡	5	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
太田	7	71.4	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	-	14.3			
下郡山	13	69.2	-	-	15.4	-	-	-	-	-	-	-	15.4			
毛萱	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-			
仏浜	11	27.3	18.2	-	18.2	-	18.2	9.1	-	-	-	9.1	-			
駅前	12	50.0	-	-	33.3	-	-	-	16.7	-	-	-	-			
西原	38	68.4	-	-	18.4	-	2.6	-	-	-	-	2.6	7.9			
中央	29	65.5	3.4	-	20.7	3.4	-	-	-	-	3.4	-	3.4			
小浜	38	65.8	2.6	-	15.8	-	2.6	-	7.9	-	-	2.6	2.6			
深谷	6	66.7	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-			
小良ヶ浜	18	55.6	11.1	-	16.7	5.6	-	-	-	-	5.6	-	5.6			
栄町	5	20.0	20.0	-	20.0	-	-	-	20.0	-	-	-	20.0			
新夜ノ森	47	53.2	10.6	-	19.1	-	-	-	4.3	-	-	4.3	8.5			
不明	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

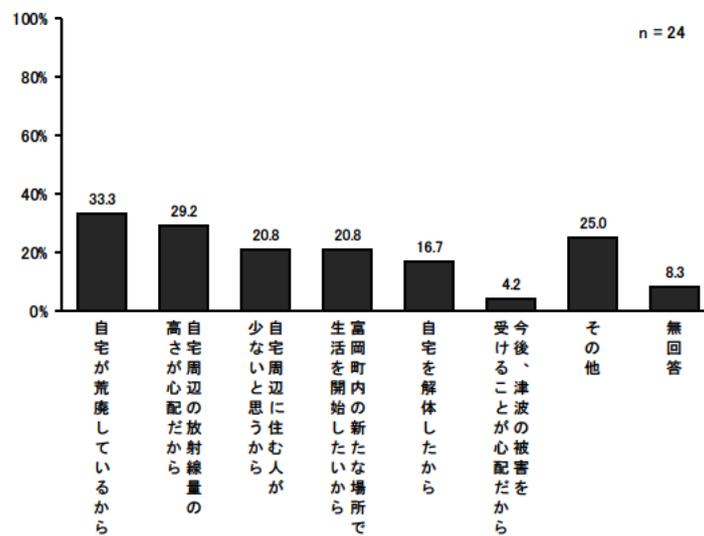
3-2-7 富岡町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問9-6で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問9-7-1 元の持ち家以外を希望される理由は何ですか。(〇はいくつでも)

富岡町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「自宅が荒廃しているから」が33.3%と最も高く、次いで「自宅周辺の放射線量の高さが心配だから」が29.2%、「自宅周辺に住む人が少ないと思うから」、「富岡町内の新たな場所で生活を開始したいから」がそれぞれ20.8%となっている。

<図表3-2-7-1 富岡町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



3-2-8 富岡町へ帰還する場合の災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）への希望

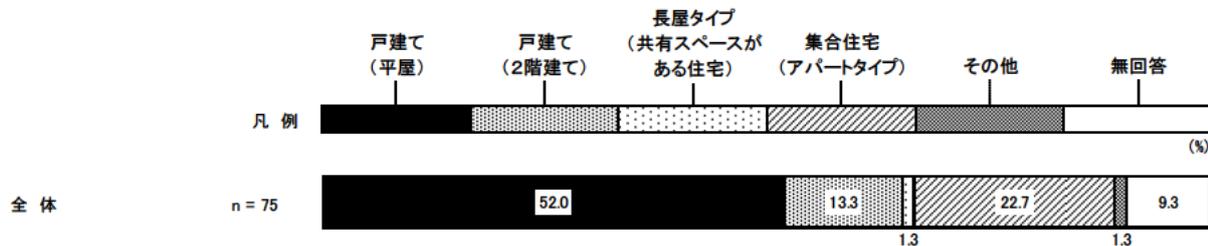
(1) 災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）で希望する住居形態

【問9-6で「4. 災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）」と回答した方にかがいます。】

問9-7-2 町が今後町内で整備する災害公営住宅では、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）で希望する住居形態については、「戸建て（平屋）」が52.0%と最も高く、次いで「集合住宅（アパートタイプ）」が22.7%となっている。

＜図表3-2-8-1 災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）で希望する住居形態＞



(2) 災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）に入居する際の世帯構成・人数

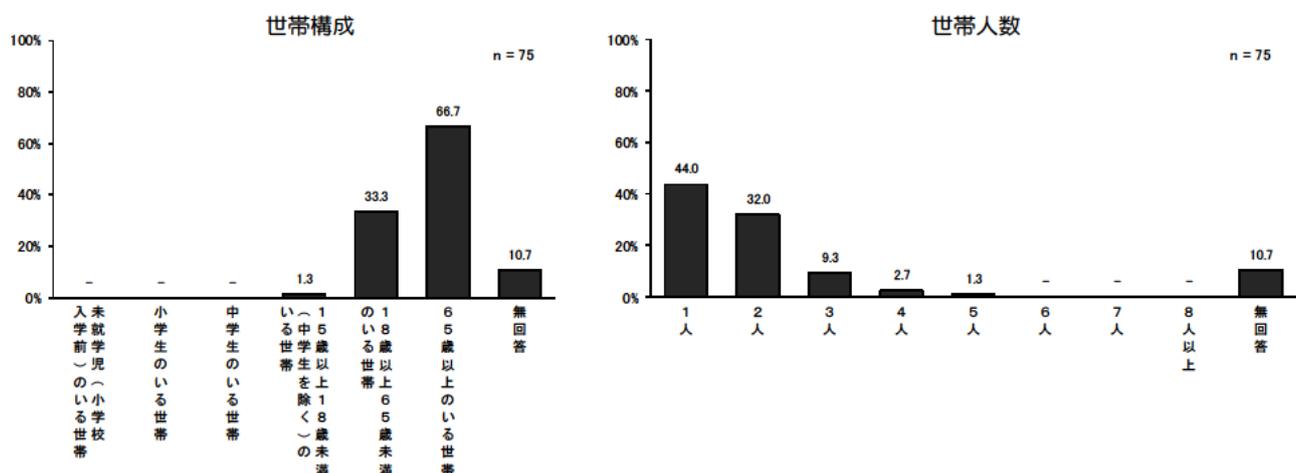
【問9-6で「4. 災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）」と回答した方にかがいます。】

問9-7-3 入居する際の家族構成についてお聞かせください。（人数で回答）

災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）に入居する際の世帯構成については、「65歳以上のいる世帯」が66.7%と最も高く、次いで「18歳以上65歳未満のいる世帯」が33.3%となっている。

世帯人数については、「1人」が44.0%と最も高く、次いで「2人」が32.0%、「3人」が9.3%となっている。

＜図表3-2-8-2 災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）に入居する際の世帯構成・人数＞



(3) 災害公営住宅（町は今後町内に整備する住宅）に入居する際に希望する居住地域

【問9-6で「4. 災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）」と回答した方にかがいます。
問9-7-4 居住地域の希望はありますか。（○は1つ）

災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）に入居する際に希望する居住地域については、居住地域の希望が「ある」は41.3%、「ない」は42.7%となっている。

<図表3-2-8-3 災害公営住宅（町が今後町内に整備する住宅）に入居する際に希望する居住地域>



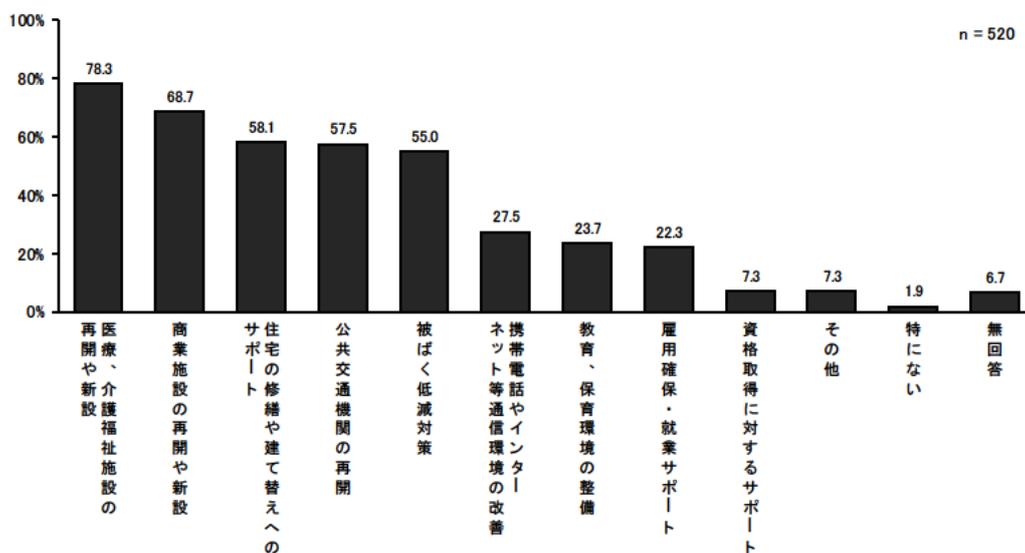
3-2-9 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な施策

【問8で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問9-8 富岡町に戻る場合に、今後の生活においてどのような施策が必要と考えますか。（〇はいくつでも）

富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な施策については、「医療、介護福祉施設の再開や新設」が78.3%と最も高く、次いで「商業施設の再開や新設」が68.7%、「住宅の修繕や建て替えへのサポート」が58.1%となっている。

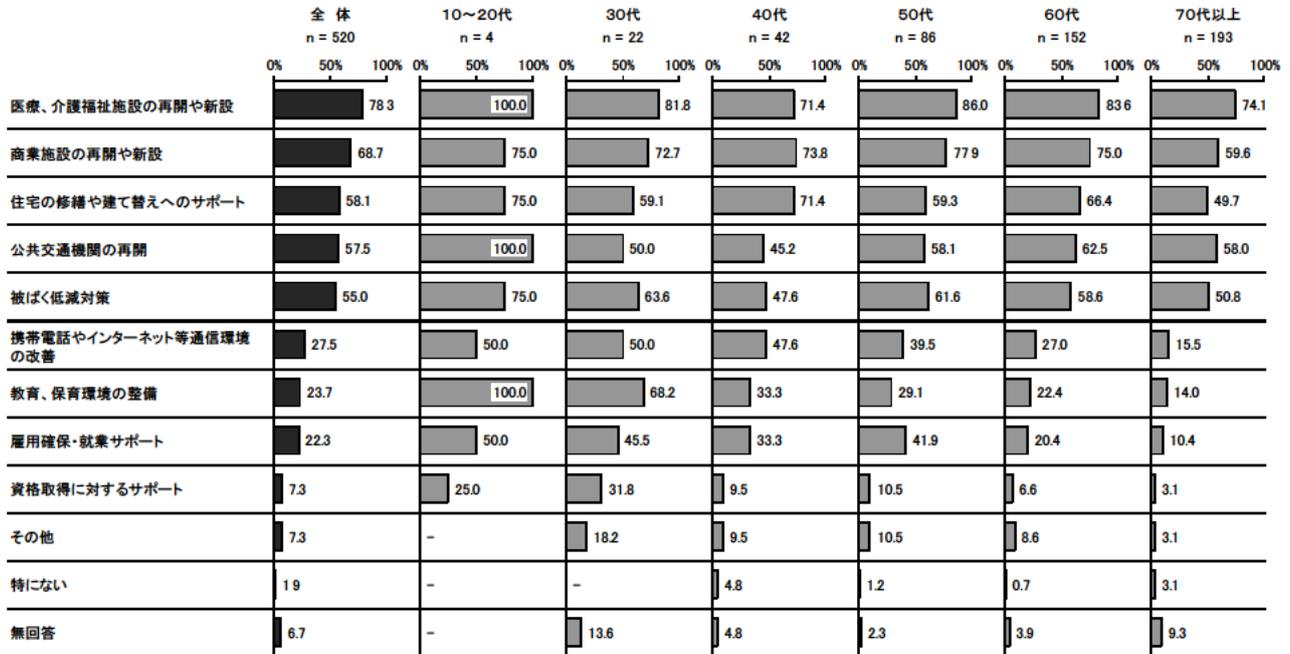
<図表3-2-9-1 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な施策>



III 調査結果

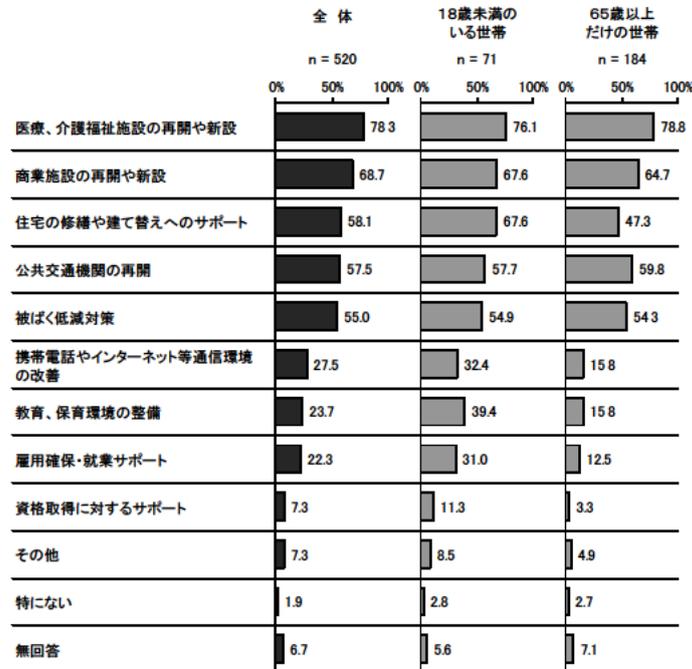
回答者の年齢別にみると、概ね全体と同様の傾向となっているが、「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」が30代で50.0%、40代で47.6%、50代で39.5%、「教育、保育環境の整備」が30代で68.2%、40代で33.3%、「雇用確保・就業サポート」が30代で45.5%、40代で33.3%、50代で41.9%と割合が高くなっている。

<図表3-2-9-2 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な施策（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では、「住宅の修繕や建て替えへのサポート」(67.6%)、「教育、保育環境の整備」(39.4%)、「雇用確保・就業サポート」(31.0%)が全体の割合と比べ高くなっている。

<図表3-2-9-3 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な施策(世帯構成別)>



3-2-10 避難指示解除後すぐに帰還した場合の状況

(1) 避難指示解除後すぐに帰還した場合の世帯構成・人数

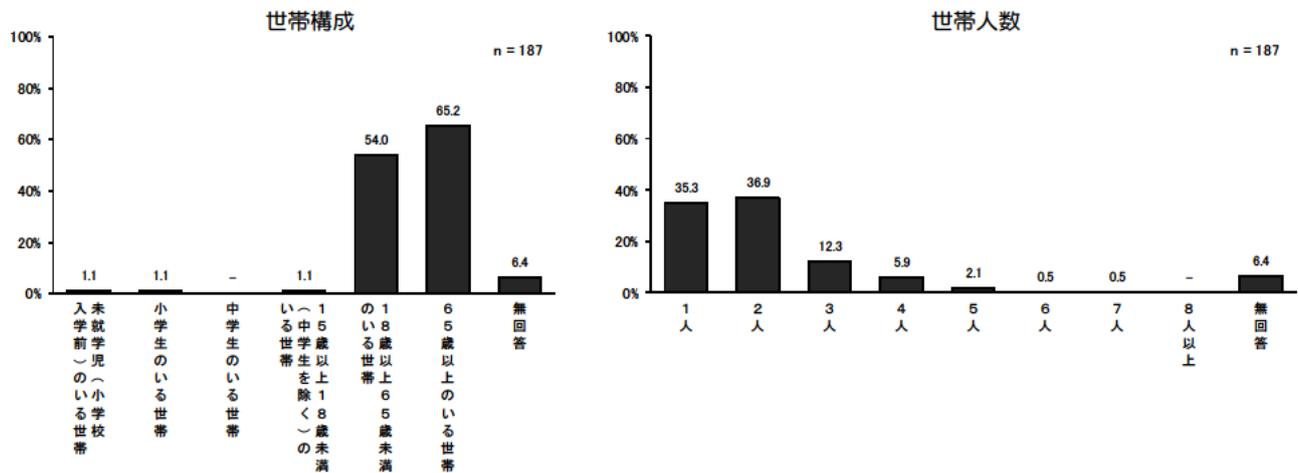
【問9-1で「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問9-9-1 戻る予定のご家族の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

避難指示解除後すぐに帰還した場合の世帯構成については、「65歳以上のいる世帯」が65.2%と最も高く、次いで「18歳以上65歳未満のいる世帯」が54.0%となっている。

世帯人数については、「1人」(35.3%)、「2人」(36.9%)の割合が高くなっている。

<図表3-2-10-1 避難指示解除後すぐに帰還した場合の世帯構成・人数>



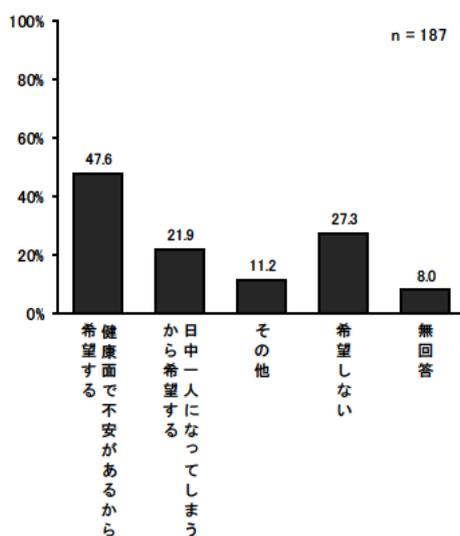
(2) 避難指示解除後すぐに帰還した場合の町職員等による家庭訪問の希望

【問9-1で「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問9-9-2 帰還した場合に、ご家族を含め、町職員等による定期的な家庭訪問を希望されますか。
(〇はいくつでも)

避難指示解除後すぐに帰還した場合の町職員等による家庭訪問の希望については、「健康面で不安があるから希望する」(47.6%)が最も高く、次いで「希望しない」(27.3%)、「日中一人になってしまうから希望する」(21.9%)となっている。

<図表3-2-10-2 避難指示解除後すぐに帰還した場合の町職員等による家庭訪問の希望>



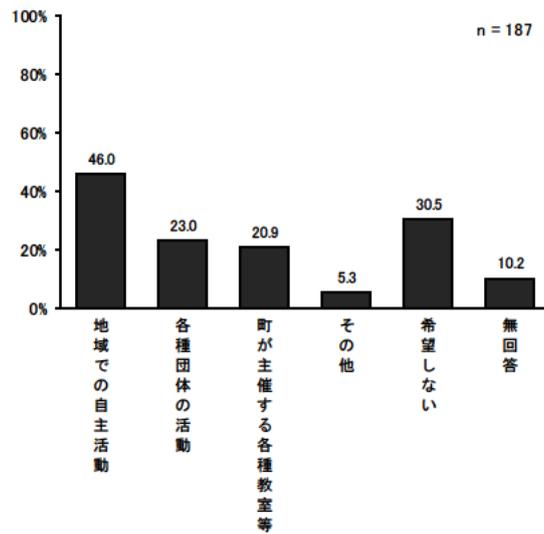
(3) 避難指示解除後すぐに帰還した場合の各種活動への参加の希望

【問9-1で「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問9-9-3 帰還した場合に、ご家族を含め、以下のような活動への参加を希望されますか。(〇はいくつでも)

避難指示解除後すぐに帰還した場合の各種活動への参加の希望については、「地域での自主活動」が46.0%と最も高く、次いで「希望しない」が30.5%、「各種団体の活動」が23.0%、「町が主催する各種教室等」が20.9%となっている。

<図表3-2-10-3 避難指示解除後すぐに帰還した場合の各種活動への参加の希望>



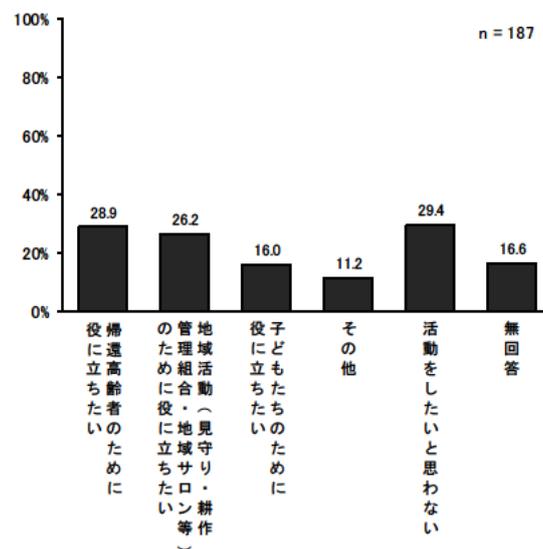
(4) 避難指示解除後すぐに帰還した場合に取り組んでみたい活動の希望

【問9-1で「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問9-9-4 帰還した場合に、ご家族を含め、「帰還者のため」「地域のため」等の活動をしてみたいと思いますか。
(〇はいくつでも)

避難指示解除後すぐに帰還した場合に取り組んでみたい活動の希望については、「活動をしたくないと思わない」が29.4%と最も高く、次いで「帰還高齢者のために役に立ちたい」が28.9%、「地域活動（見守り・耕作管理組合・地域サロン等）のために役に立ちたい」が26.2%となっている。

<図表3-2-10-4 避難指示解除後すぐに帰還した場合に取り組んでみたい活動の希望>



3-2-11 富岡町への帰還の判断がつかない理由

【問8で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

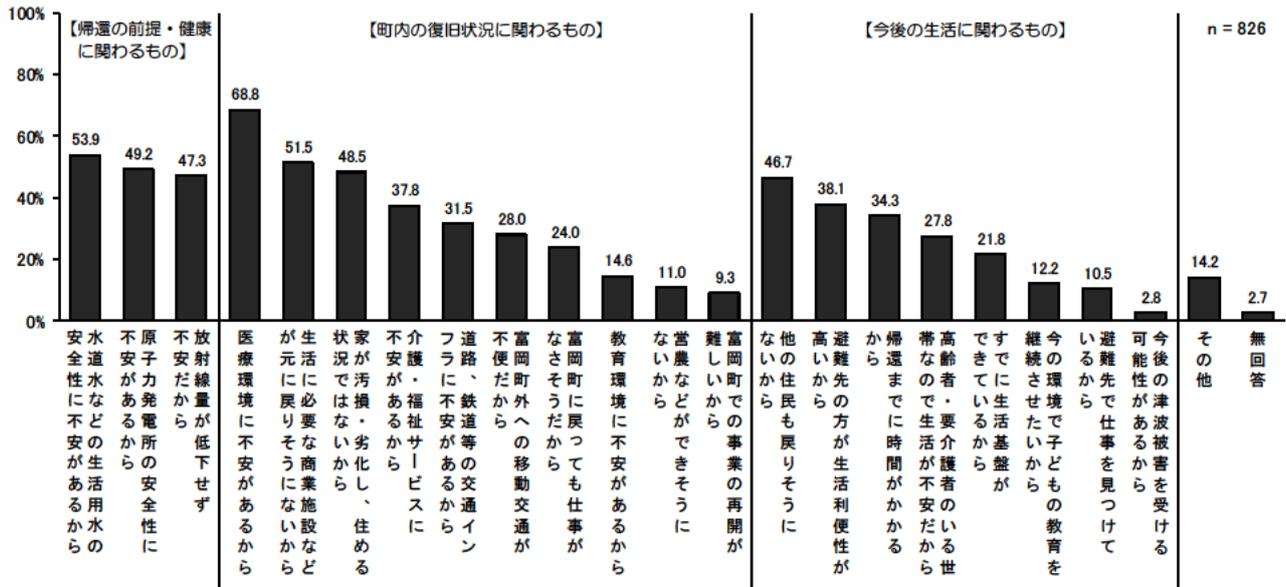
問 10-1 富岡町への帰還について、「まだ判断がつかない」理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

帰還の判断がつかない理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が最も高く 53.9%、次いで「原子力発電所の安全性に不安があるから」が 49.2%、「放射線量が低下せず不安だから」が 47.3%となっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が 68.8%で最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が 51.5%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が 48.5%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「他の住民も戻りそうにないから」が 46.7%で最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が 38.1%、「帰還までに時間がかかるから」が 34.3%となっている。

＜図表3-2-11-1 富岡町への帰還の判断がつかない理由＞

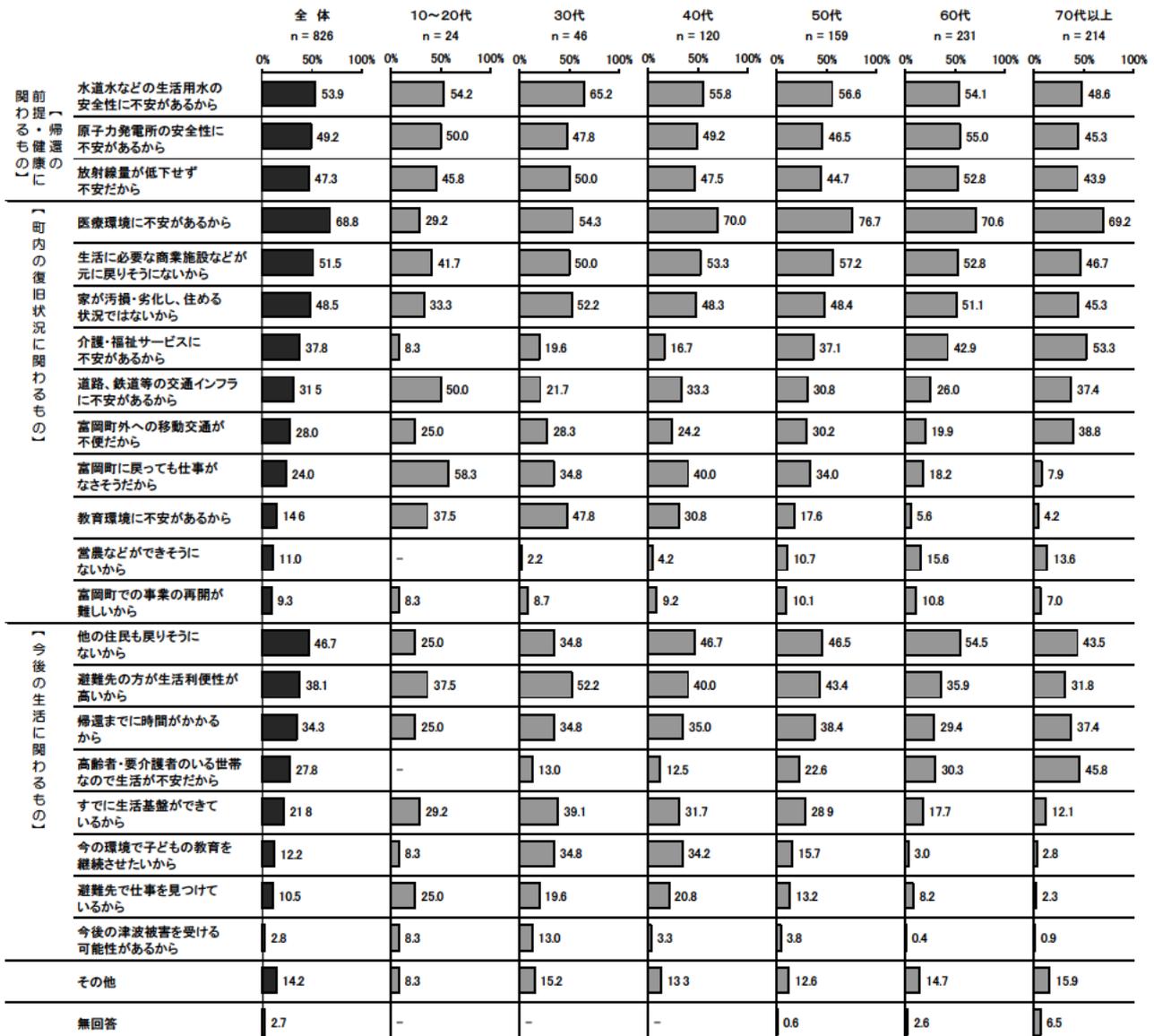


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は30代で65.2%、「原子力発電所の安全性に不安があるから」は60代で55.0%、「放射線量が低下せず不安だから」は60代で52.8%と高くなっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が50代で76.7%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」は50代で57.2%、「介護・福祉サービスに不安があるから」は60代で42.9%、70代以上で53.3%「道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから」は70代以上で37.4%、「富岡町外への移動交通が不便だから」は70代以上で38.8%、「富岡町に戻っても仕事がなさそうだから」は30代で34.8%、40代で40.0%、50代で34.0%、「教育環境に不安があるから」は30代で47.8%、40代で30.8%とそれぞれ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「他の住民が戻りそうにないから」は60代で54.5%、「避難先の方が生活利便性が高いから」は30代で52.2%、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」は70代以上で45.8%、「すでに生活基盤ができてきているから」は30代で39.1%、40代で31.7%、50代で28.9%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代で34.8%、40代で34.2%、「避難先で仕事を見つけているから」は30代で19.6%、40代で20.8%とそれぞれ高くなっている。

<図表3-2-11-2 富岡町への帰還の判断がつかない理由（年齢別）>

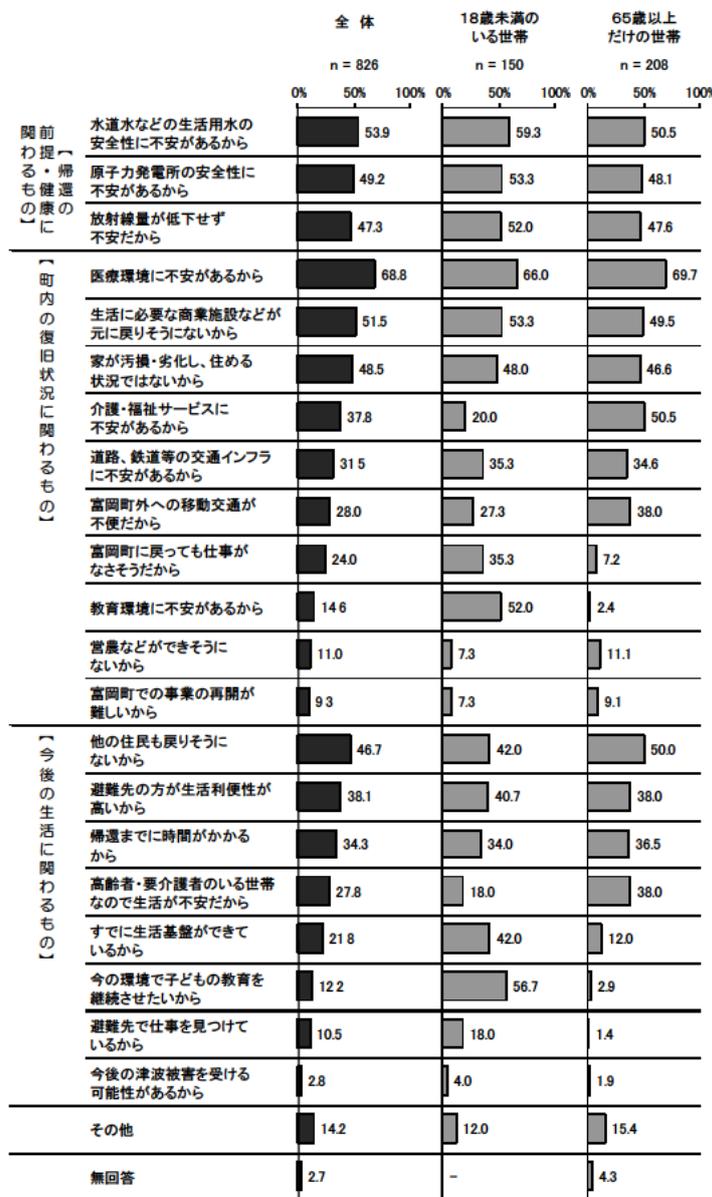


世帯構成別にみると【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は18歳未満のいる世帯で59.3%と高くなっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「介護・福祉サービスに不安があるから」は65歳以上の世帯で50.5%、「富岡町外への移動交通が不便だから」は65歳以上の世帯で38.0%、「富岡町に戻っても仕事がなさそうだから」は18歳未満のいる世帯で35.3%、「教育環境に不安があるから」は18歳未満のいる世帯で52.0%と高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」は65歳以上の世帯で38.0%、「すでに生活基盤ができてきているから」は18歳未満のいる世帯で42.0%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は18歳未満のいる世帯で56.7%、「避難先で仕事を見つけているから」は18歳未満のいる世帯で18.0%とそれぞれ高くなっている。

<図表3-2-11-3 富岡町への帰還の判断がつかない理由（世帯構成別）>



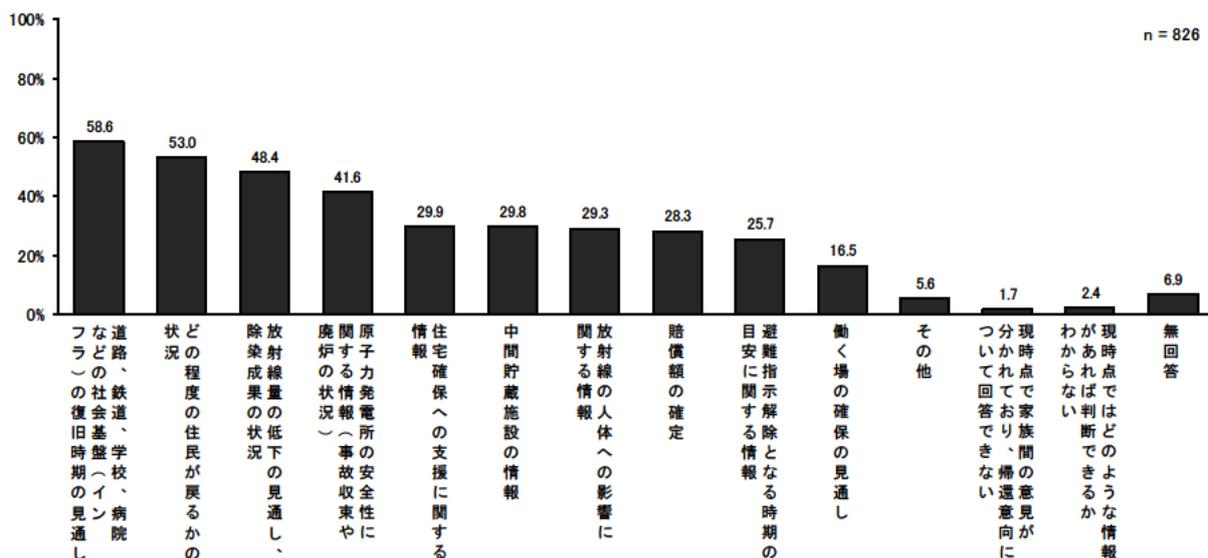
3-2-12 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問8で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-2 富岡町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(〇はいくつでも)

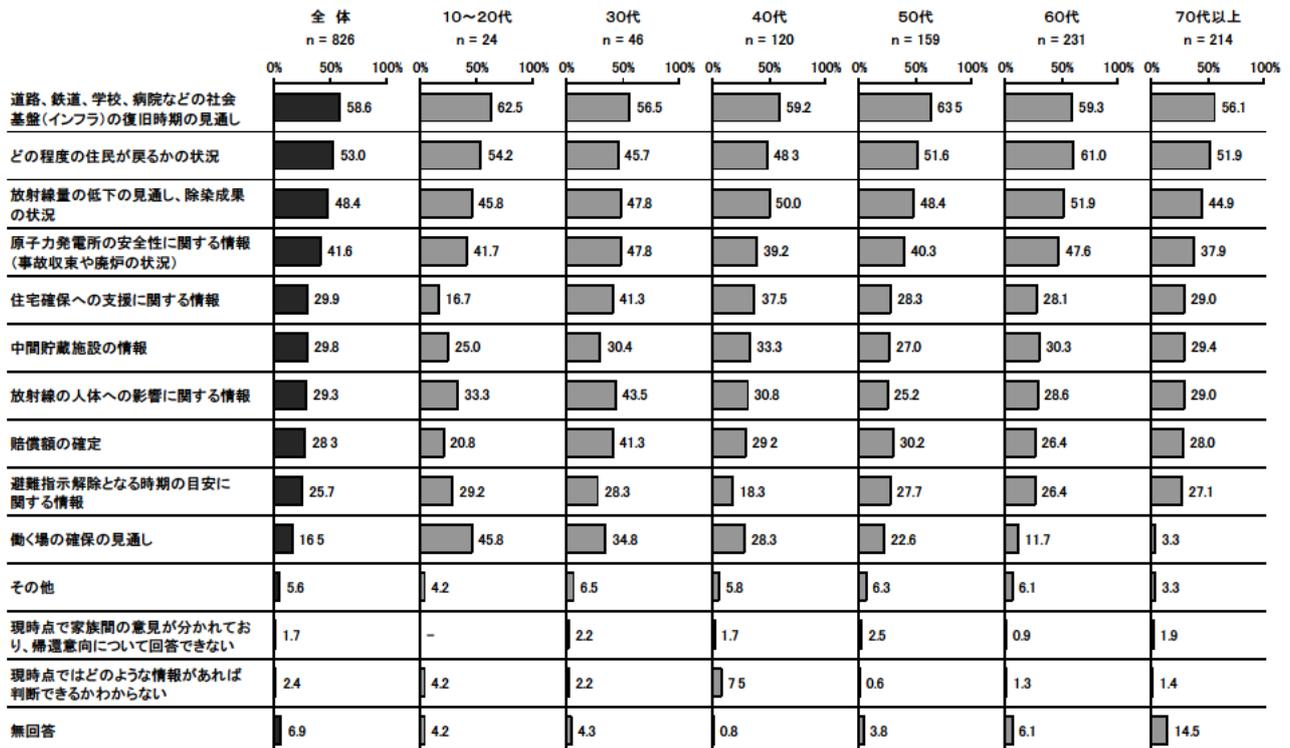
富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の見通し」が58.6%と最も高く、次いで「どの程度の住民が戻るかの状況」が53.0%、「放射線量の低下の見通し、除染成果の状況」が48.4%となっている。

＜図表3-2-12-1 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報＞



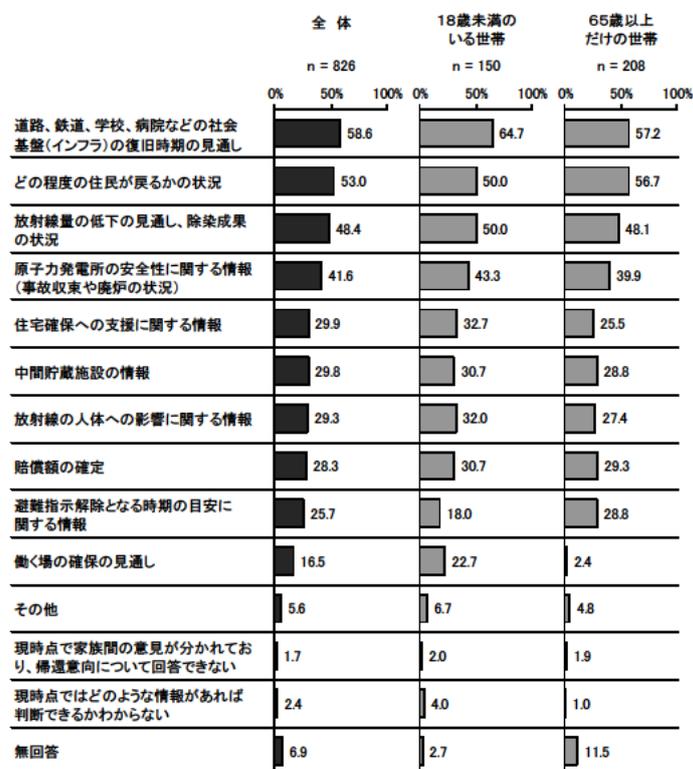
回答者の年齢別にみると、「どの程度の住民が戻るかの状況」は60代で61.0%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」は30代で47.8%、60代で47.6%、「住宅確保への支援に関する情報」は30代で41.3%、40代で37.5%、「放射線の人体への影響に関する情報」、「賠償額の確定」は30代でそれぞれ43.5%、41.3%、「働く場の確保の見通し」は30代で34.8%、40代で28.3%、50代で22.6%とそれぞれ高くなっている。

<図表3-2-12-2 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）>



世帯構成別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の見通し」は18歳未満のいる世帯（64.7%）で全体の割合と比べ高くなっている。また、「働く場の確保の見通し」についても18歳未満のいる世帯（22.7%）で全体の割合と比べ高い。

<図表3-2-12-3 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）>



3-2-13 富岡町へ戻った場合に希望する仕事

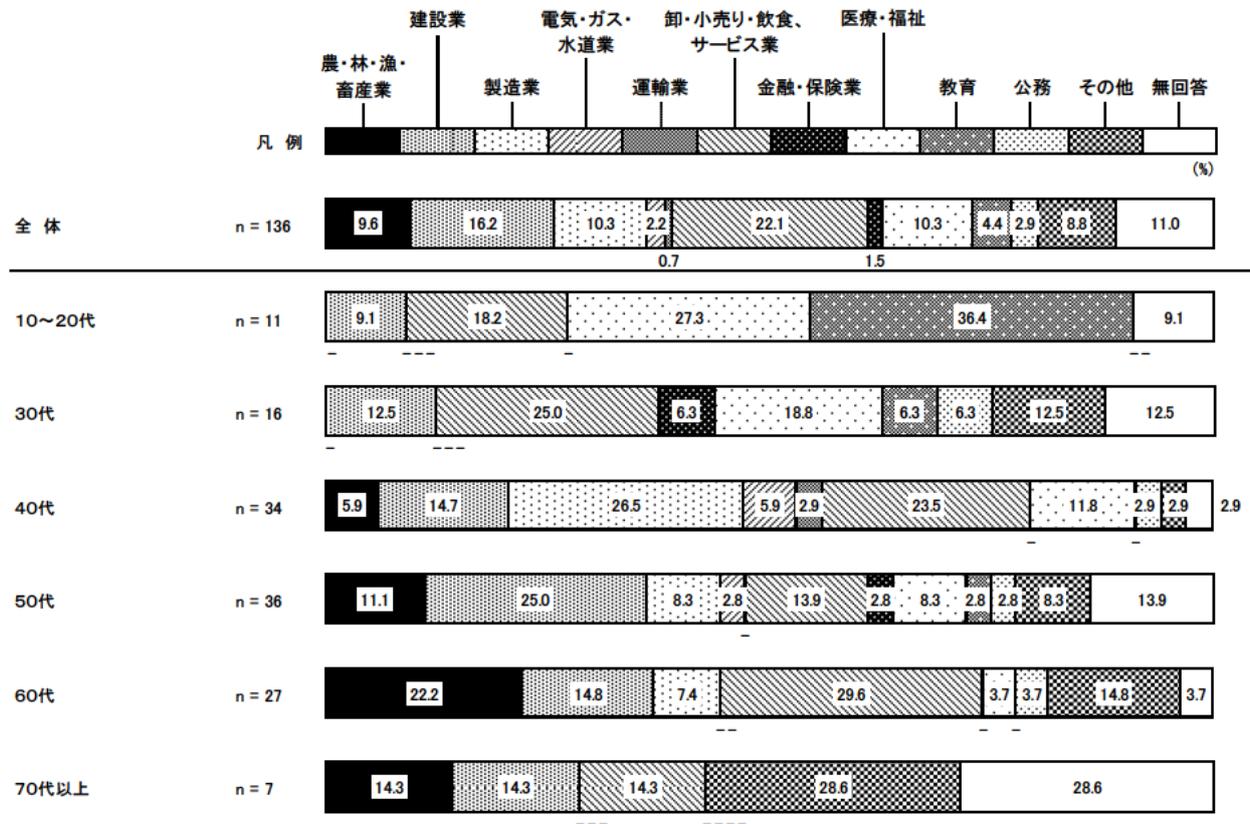
(1) 富岡町へ戻った場合に希望する仕事の業種

【問 10-2 で「8. 働く場の確保の見通し」と回答した方にうかがいます】

問 10-3-1 どのような業種の仕事を希望しますか。(〇は1つ)

富岡町へ戻った場合に希望する仕事の業種については、「卸・小売り・飲食、サービス業」が 22.1%と最も高く、次いで「建設業」が 16.2%、「製造業」と「医療・福祉」がどちらも 10.3%となっている。回答者の年齢別にみると、「建設業」は 50 代で 25.0%、「製造業」は 40 代で 26.5%と高くなっている。

<図表 3-2-13-1 富岡町に戻った場合に希望する仕事の業種（年齢別）>



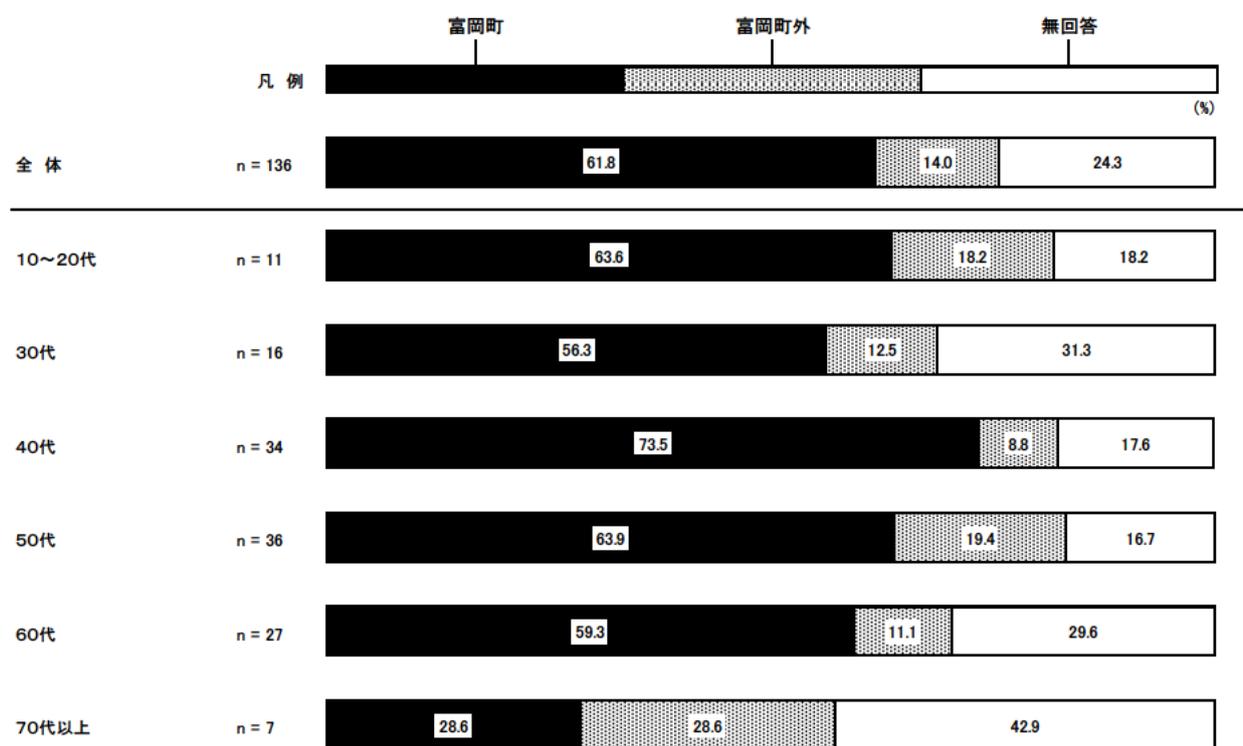
(2) 富岡町へ戻った場合に希望する仕事の場所

【問 10-2 で「8. 働く場の確保の見通し」と回答した方にかかいます】

問 10-3-2 仕事の場所（勤務先）はどこを希望しますか。（〇は1つ）

富岡町へ戻った場合に希望する仕事の場所については、「富岡町」が61.8%と6割以上を占める。回答者の年齢別にみると、40代は「富岡町」が73.5%と高くなっている。

<図表3-2-13-2 富岡町に戻った場合に希望する仕事の場所（年齢別）>



3-2-14 帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか

(1) 帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか

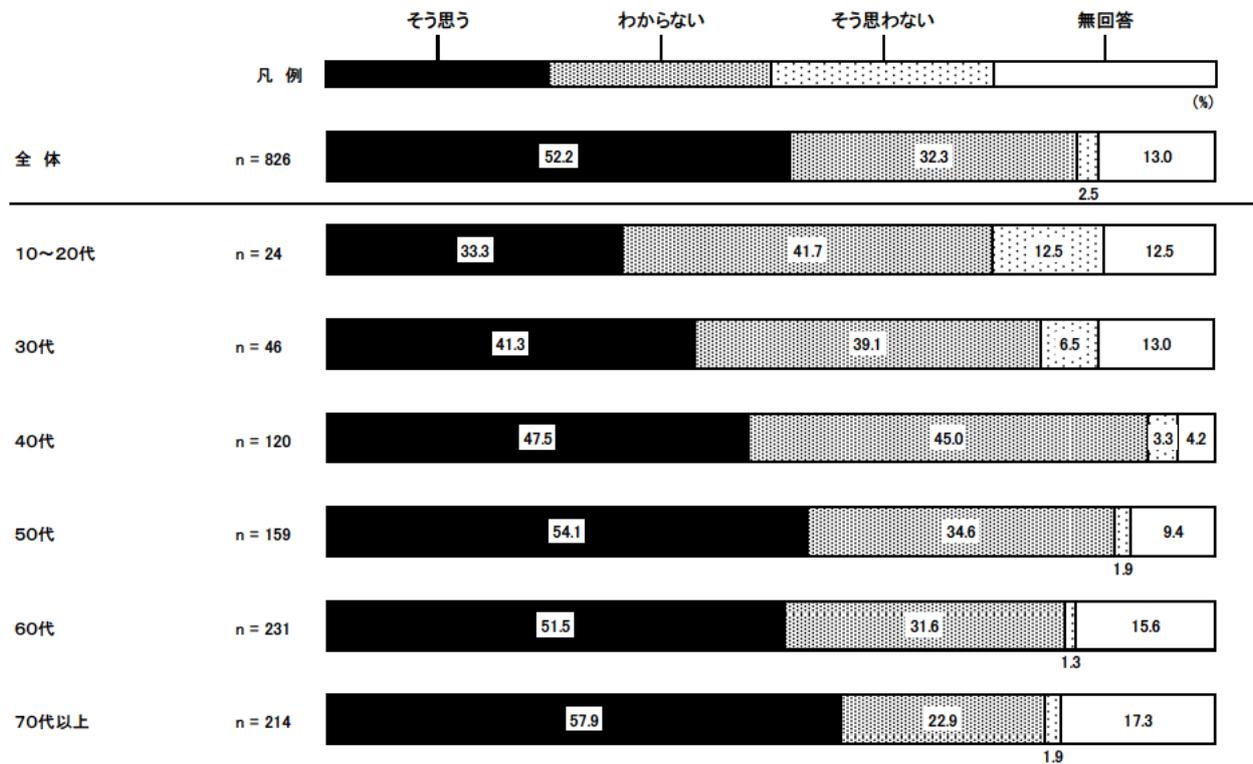
【問8で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問10-4 富岡町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(〇は1つ)

帰還について、まだ判断がつかない場合に、富岡町との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が52.2%、次いで「わからない」が32.3%、「そう思わない」が2.5%となっている。

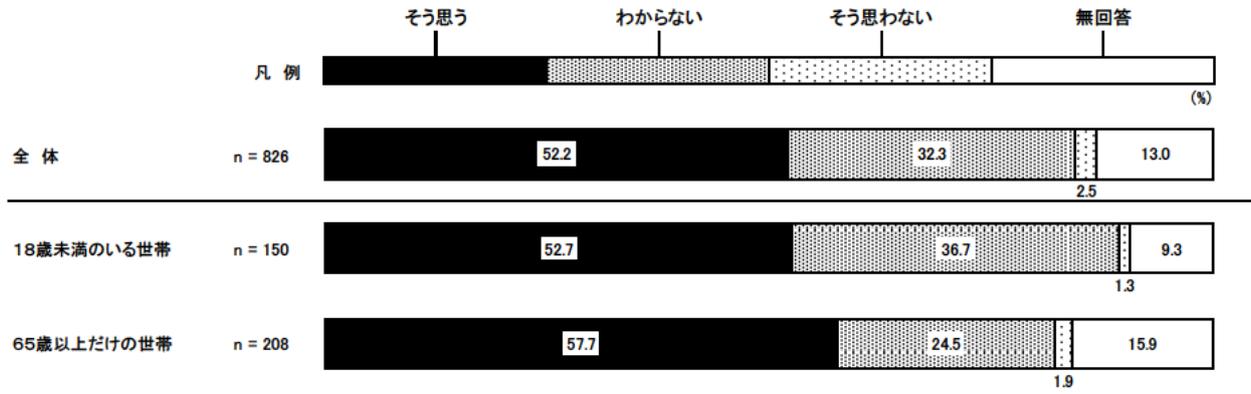
回答者の年齢別にみると、50代、60代、70代以上では「そう思う」が過半数を占める。

<図表3-2-14-1 帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか(年齢別)>



世帯構成別にみると、「そう思う」は65歳以上の世帯（57.7%）で高い。

<図表3-2-14-2 帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）>



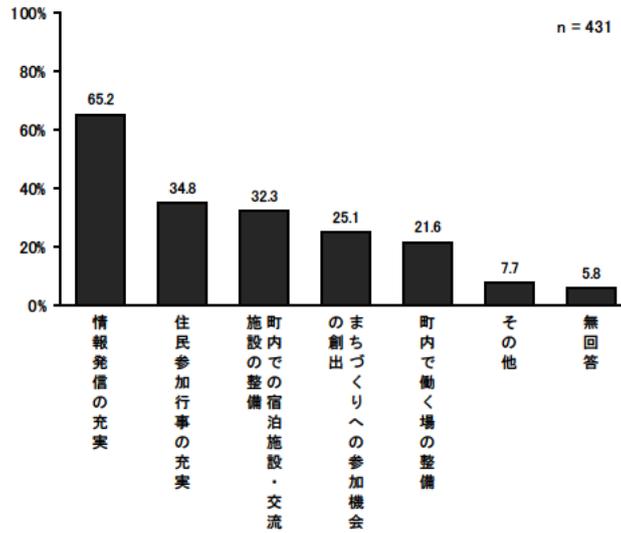
(2) 帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策

【問 10-4で「1. そう思う」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 町との“つながり”を保つためにどのような施策が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策については、「情報発信の充実」が65.2%と最も高くなっており、次いで「住民参加行事の充実」が34.8%、「町内での宿泊施設・交流施設の整備」が32.3%となっている。

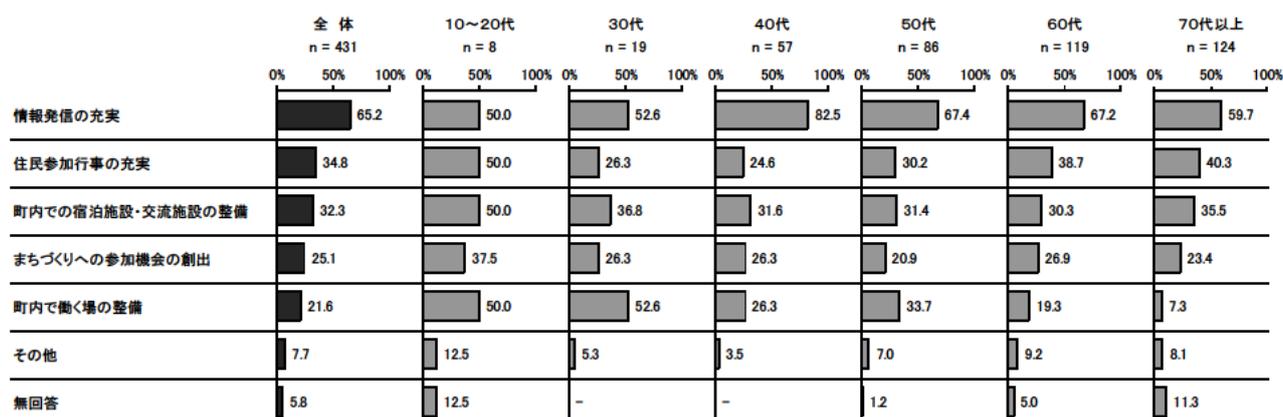
<図表3-2-14-3 帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策>



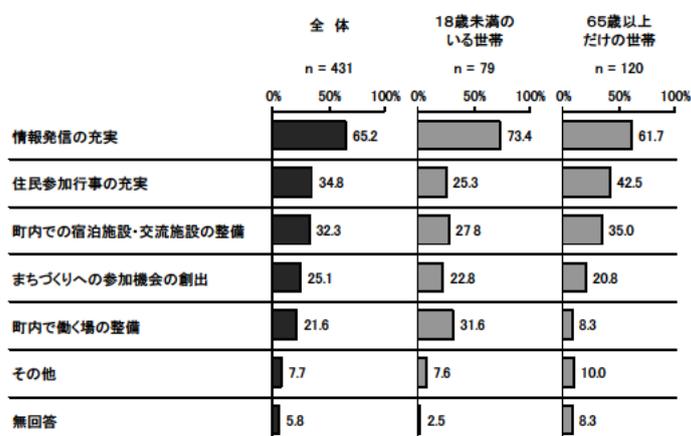
年齢別にみると、「情報発信の充実」は40代で82.5%と非常に高くなっている。「住民参加行事の充実」は70代以上で40.3%、「町内で働く場の整備」は50代で33.7%と高くなっている。

世帯構成別にみると、「情報発信の充実」は18歳未満のいる世帯で73.4%、「住民参加行事の充実」は65歳以上だけの世帯で42.5%、「町内で働く場の整備」は18歳未満のいる世帯で31.6%とそれぞれ高くなっている。

<図表3-2-14-4 帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策（年齢別）>



<図表3-2-14-5 帰還の判断がつかない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策（世帯構成別）>



3-2-15 富岡町へ帰還しない理由

【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

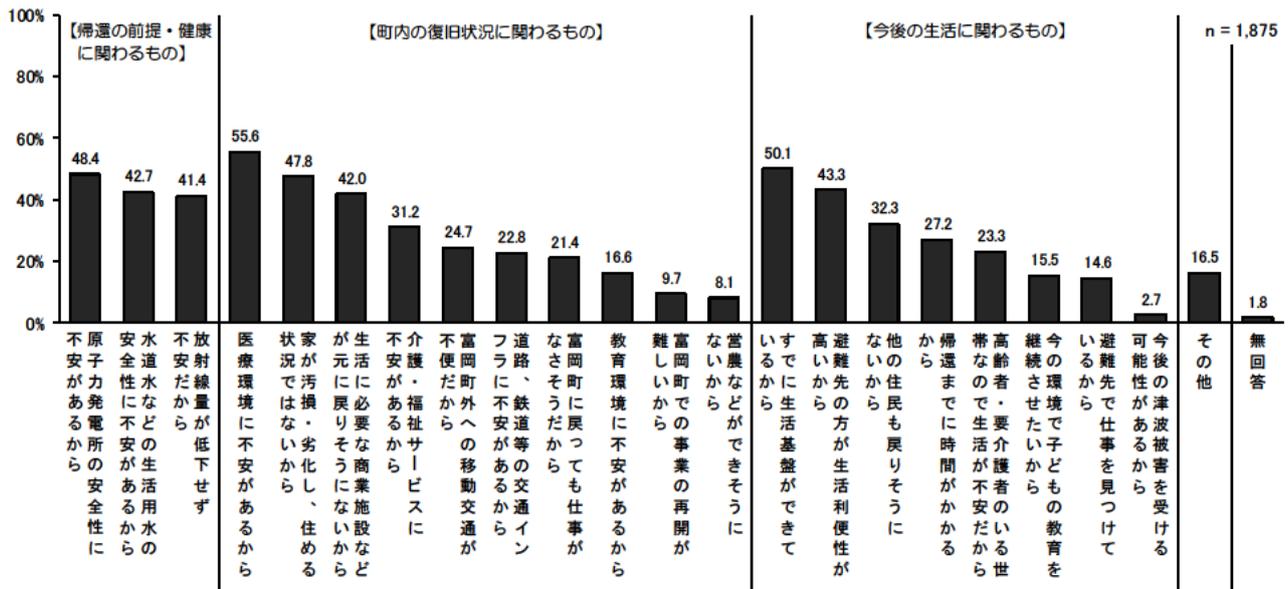
問 11-1 富岡町への帰還について、「戻らないと決めている」理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

富岡町へ帰還しない理由については、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が48.4%で最も高く、次いで「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が42.7%、「放射線量が低下せず不安だから」が41.4%となっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が55.6%で最も高く、次いで「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が47.8%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が42.0%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「すでに生活基盤ができているから」が50.1%で最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が43.3%、「他の住民も戻りそうにないから」が32.3%となっている。

<図表3-2-15-1 富岡町へ帰還しない理由>

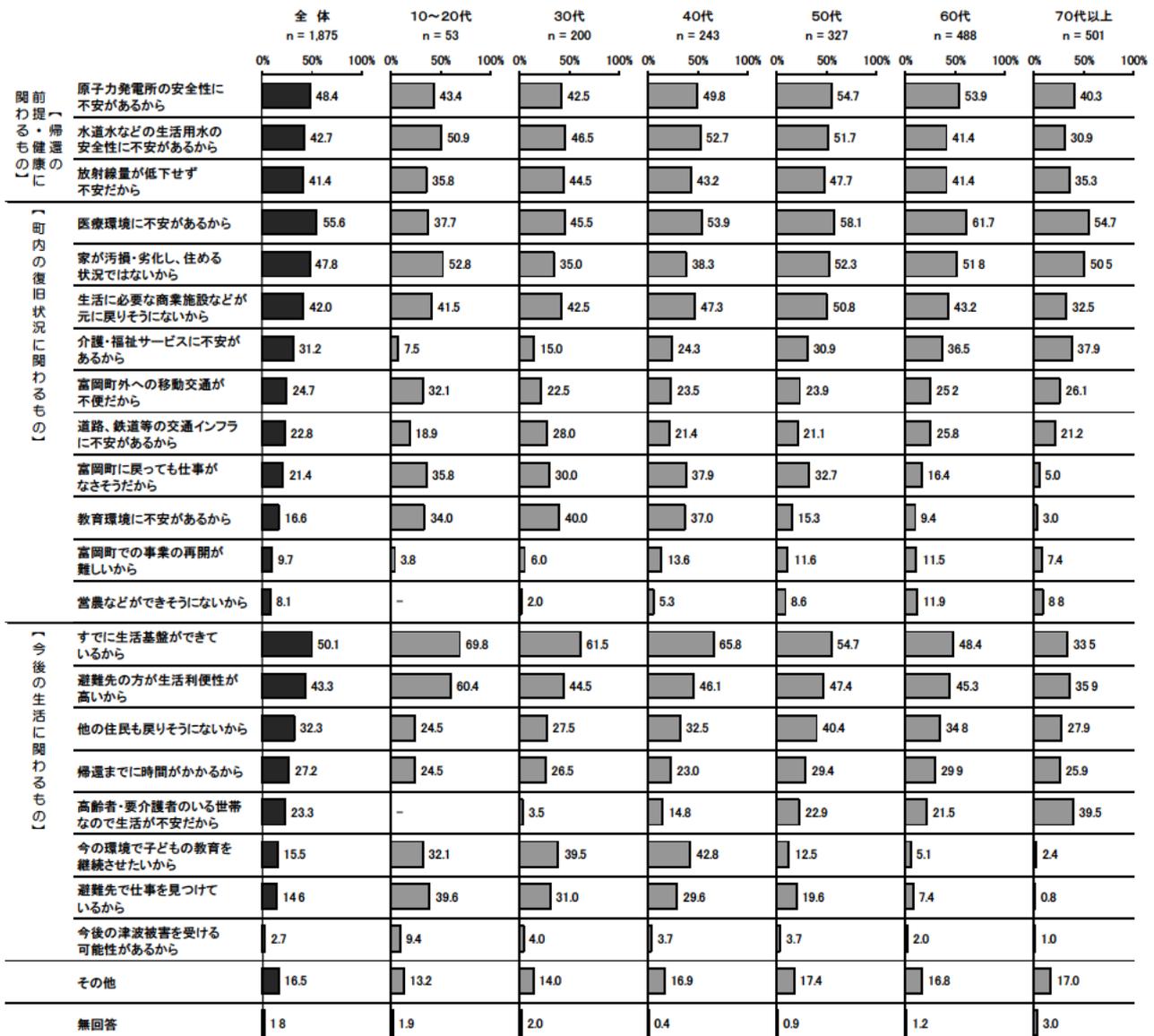


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」は50代で54.7%、60代で53.9%、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は10~20代で50.9%、40代で52.7%、50代で51.7%、「放射線量が低下せず不安だから」は50代で47.7%とそれぞれ高くなっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」は60代で61.7%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」は10~20代で52.8%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」は40代で47.3%、50代で50.8%「介護・福祉サービスに不安があるから」60代で36.5%、70代で37.9%、「富岡町外への移動交通が不便だから」は10~20代で32.1%、「道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから」は30代で28.0%、「富岡町に戻っても仕事がなさそうだから」は10~20代で35.8%、30代で30.0%、40代で37.9%、50代で32.7%、「教育環境に不安があるから」は10~20代で34.0%、30代で40.0%、40代で37.0%とそれぞれ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「すでに生活基盤ができてきているから」は10~20代で69.8%、30代で61.5%、40代で65.8%、「避難先の方が生活利便性が高いから」は10~20代で60.4%、「他の住民も戻りそうにないから」は50代で40.4%、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」は70代以上で39.5%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代で39.5%、40代で42.8%、「避難先で仕事を見つけているから」は10~20代で39.6%、30代で31.0%、40代で29.6%とそれぞれ高くなっている。

<図表3-2-15-2 富岡町へ帰還しない理由（年齢別）>

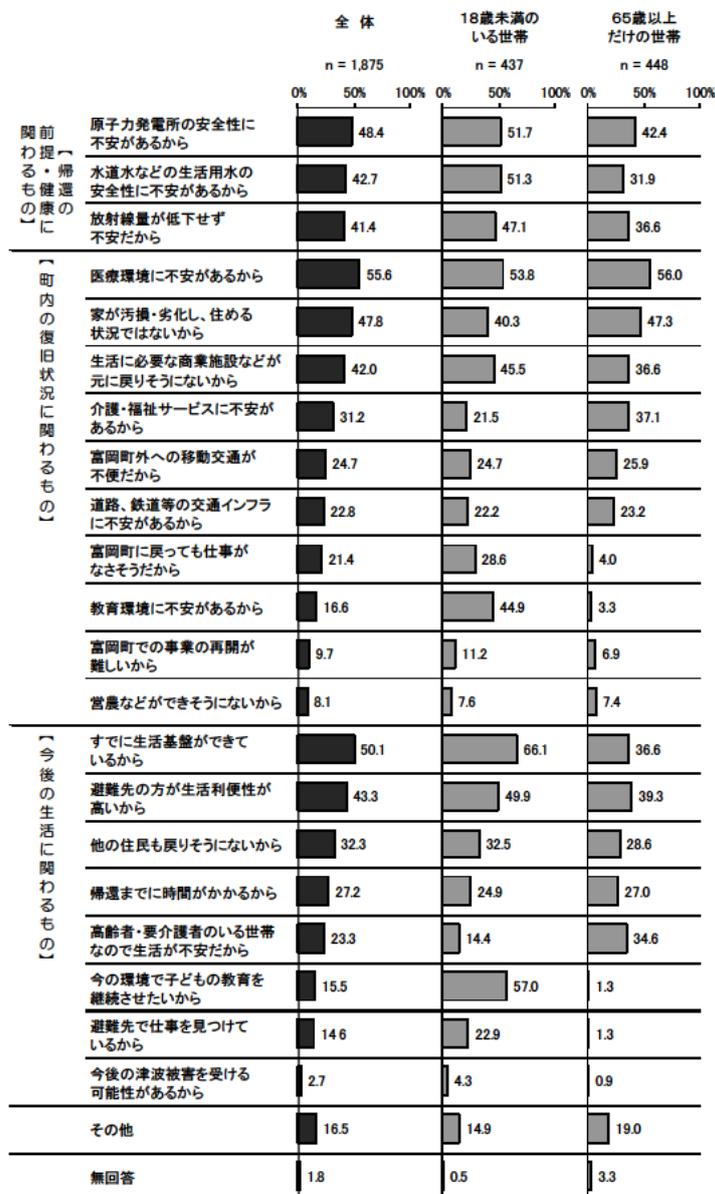


世帯構成別にみると【帰還の前提・健康に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯でいずれも全体の割合比が高くなっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「介護・福祉サービスに不安があるから」は65歳以上だけの世帯で37.1%、「富岡町に戻っても仕事がなさそうだから」は18歳未満のいる世帯で28.6%、「教育環境に不安があるから」は18歳未満のいる世帯で44.9%とそれぞれ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「すでに生活基盤ができてきているから」は18歳未満のいる世帯で66.1%、「避難先の方が利便性が高いから」は18歳未満のいる世帯で49.9%、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」は65歳以上だけの世帯で34.6%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は18歳未満のいる世帯で57.0%、「避難先で仕事を見つけているから」は18歳未満のいる世帯で22.9%とそれぞれ高くなっている。

＜図表3-2-15-3 富岡町へ帰還しない理由（世帯構成別）＞



3-2-16 帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか

(1) 帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか

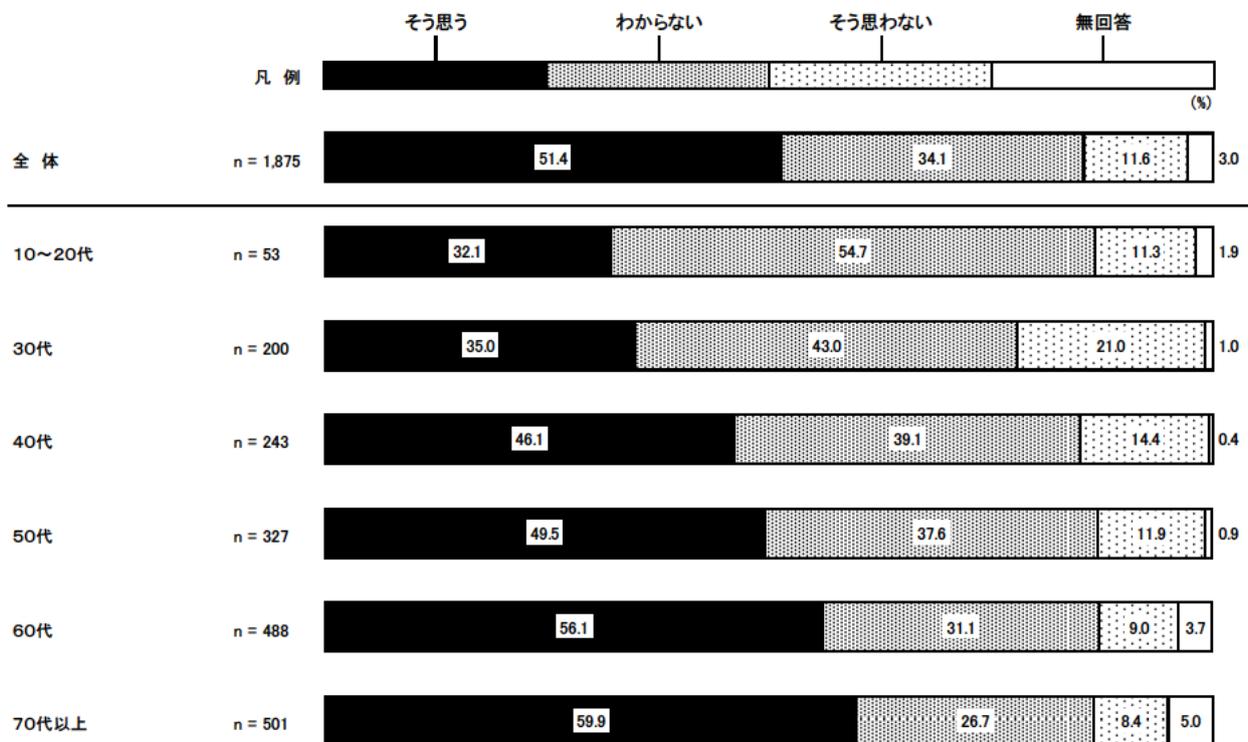
【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問11-2 富岡町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(〇は1つ)

帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が51.4%、「そう思わない」は11.6%となっている。

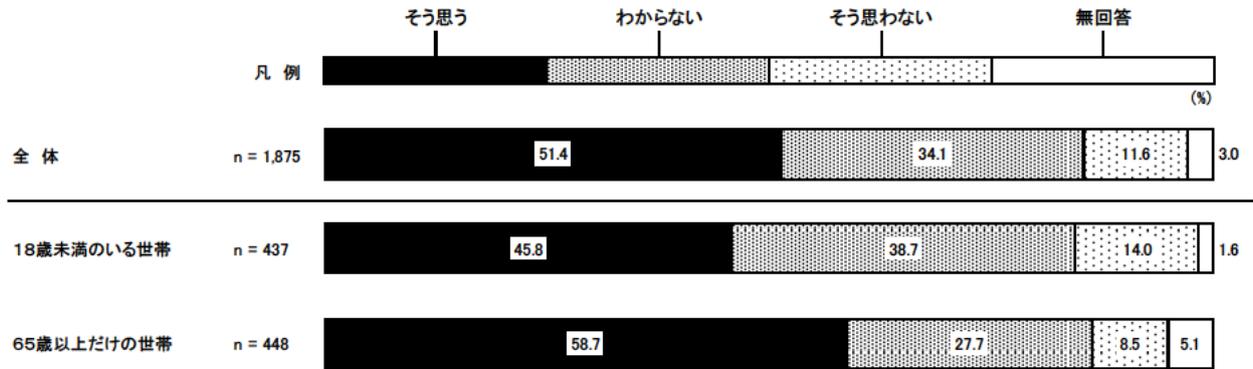
回答者の年齢別にみると、「そう思う」は年代が高くなるにつれて高くなり、70代以上で59.9%、「そう思わない」は30代で21.0%と高くなっている。

<図表3-2-16-1 帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか(年齢別)>



世帯構成別にみると、「そう思う」は65歳以上だけの世帯が58.7%と高くなっている。

〈図表3-2-16-2 帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）〉



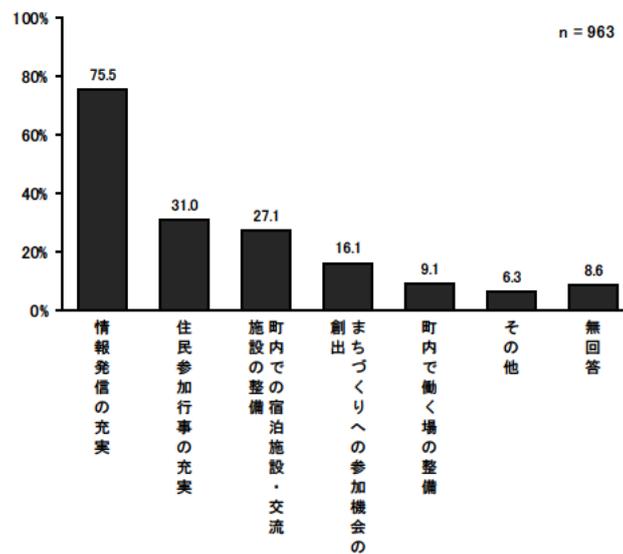
(2) 帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策

【問 11-2 で「1. そう思う」と回答した方にうかがいます。】

問 11-3 町との“つながり”を保つためにどのような施策が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策については、「情報発信の充実」が 75.5% と最も高く、次いで「住民参加行事の充実」が 31.0%、「町内での宿泊施設・交流施設の整備」が 27.1% となっている。

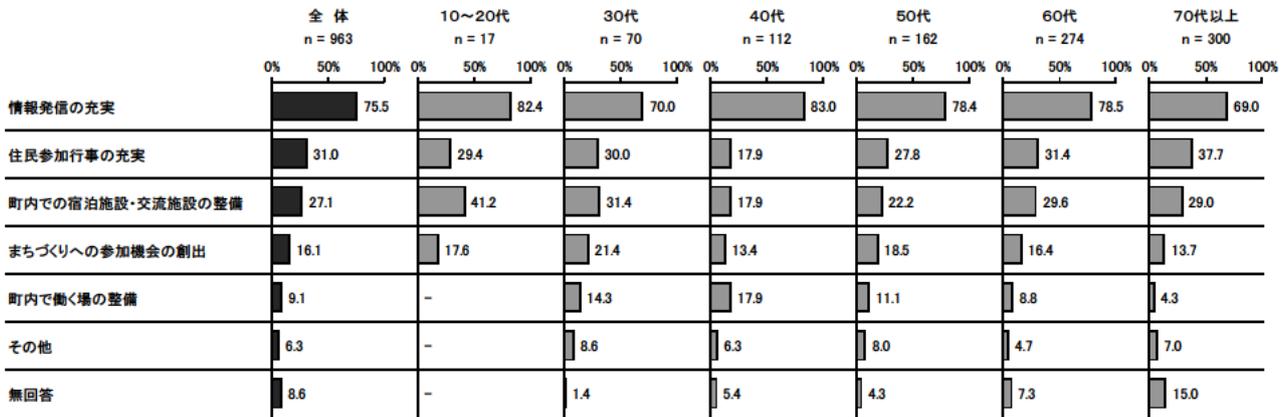
<図表 3-2-16-3 帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策>



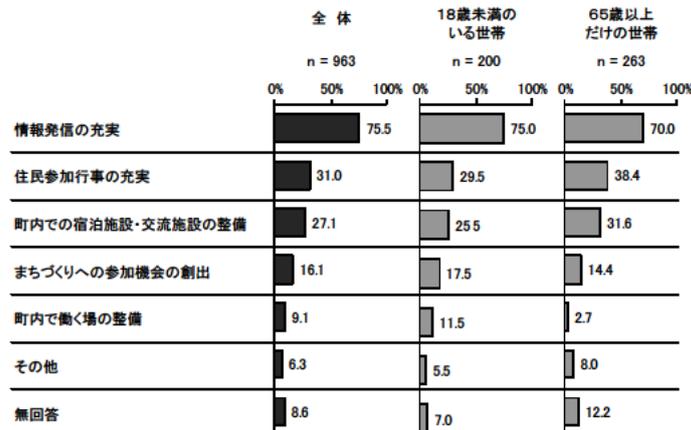
年齢別にみると、「情報発信の充実」は40代で83.0%、「住民参加行事の充実」は70代以上で37.7%と高くなっている。

世帯構成別にみると、「住民参加行事の充実」は65歳以上だけの世帯で38.4%と高くなっている。

<図表3-2-16-4 帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策（年齢別）>



<図表3-2-16-5 帰還しない場合に富岡町との“つながり”を保つために必要な施策（世帯構成別）>



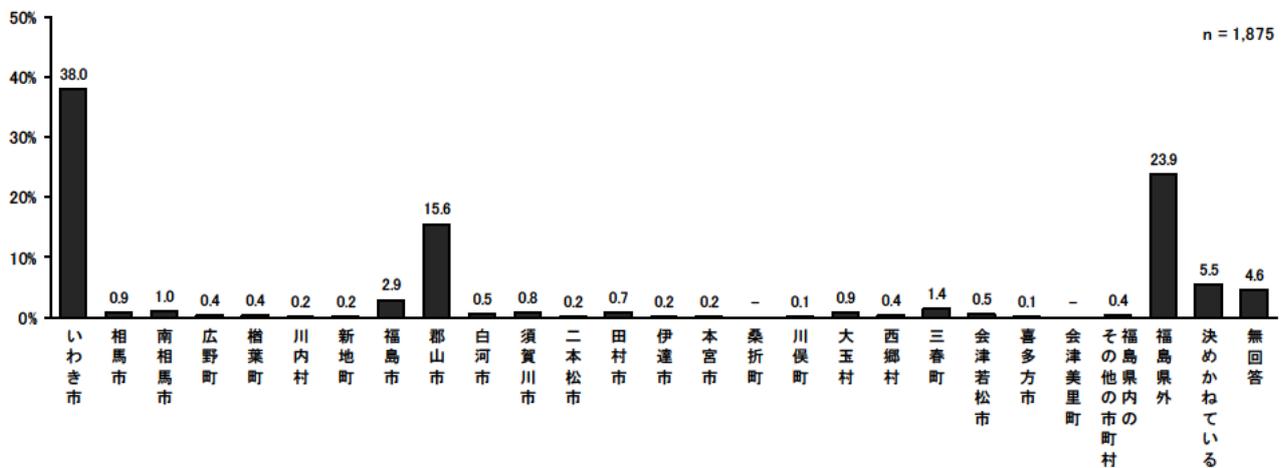
3-2-17 帰還しない場合に居住したい自治体

【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

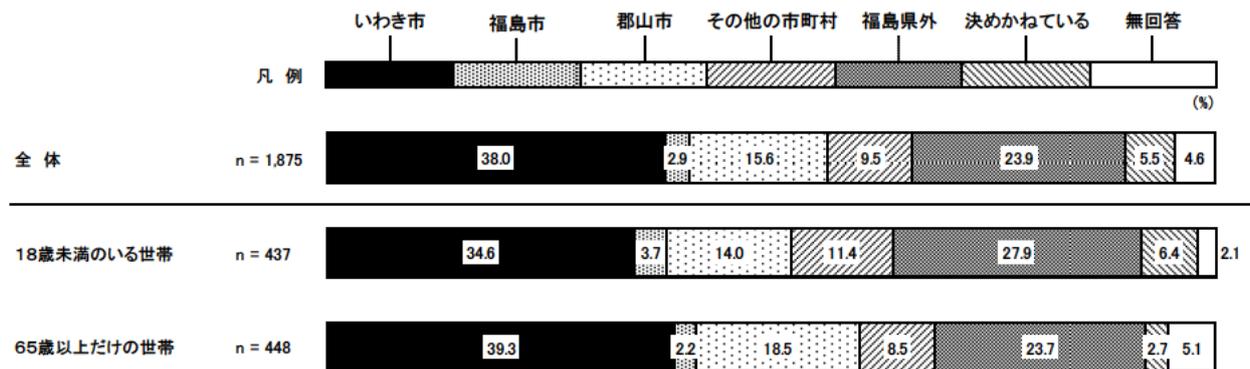
問11-4 帰還しない場合に、今後、居住を希望する（既に居住している場合を含む）自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。（〇は1つ）

帰還しない場合に居住したい自治体については、「いわき市」が38.0%と最も高く、次いで「福島県外」が23.9%、「郡山市」が15.6%となっている。
世帯構成別にみても、全体と同様の傾向にある。

<図表3-2-17-1 帰還しない場合に居住したい自治体>

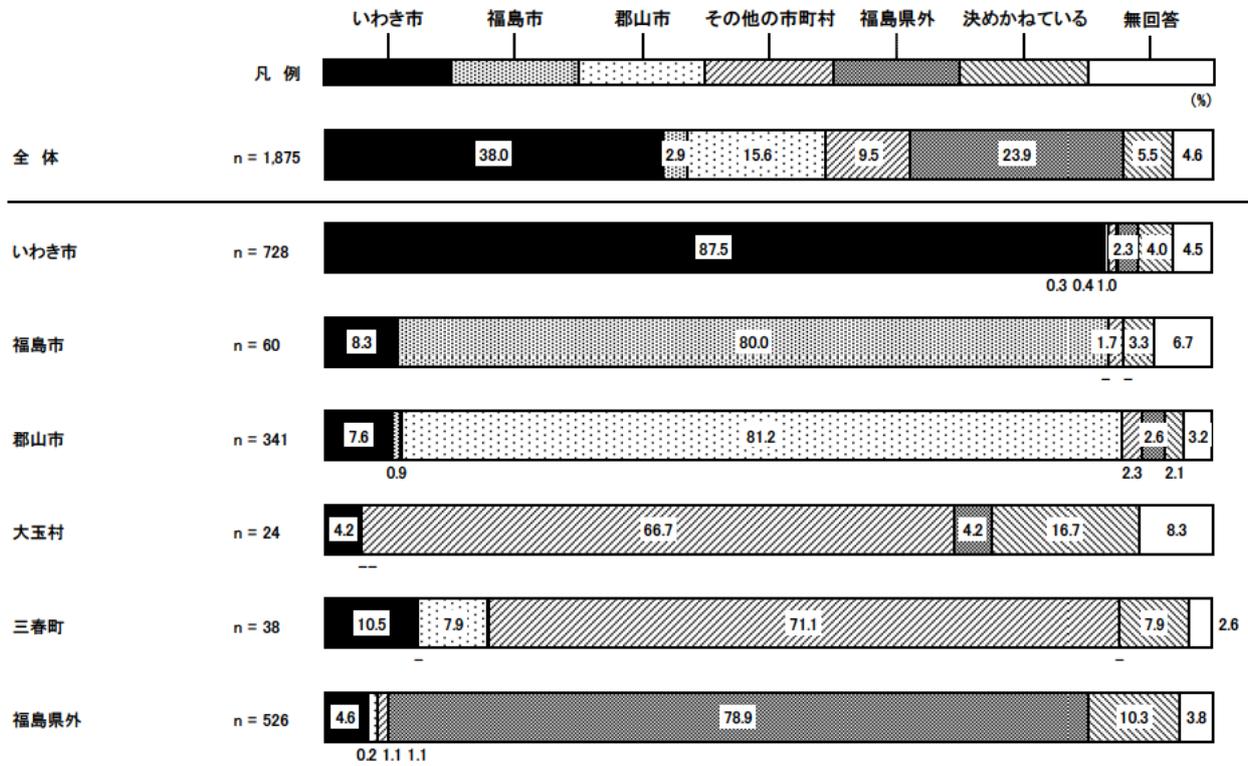


<図表3-2-17-2 帰還しない場合に居住したい主な自治体（世帯構成別）>



主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体に居住を希望する割合が高い。

<図表3-2-17-3 帰還しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-2-18 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

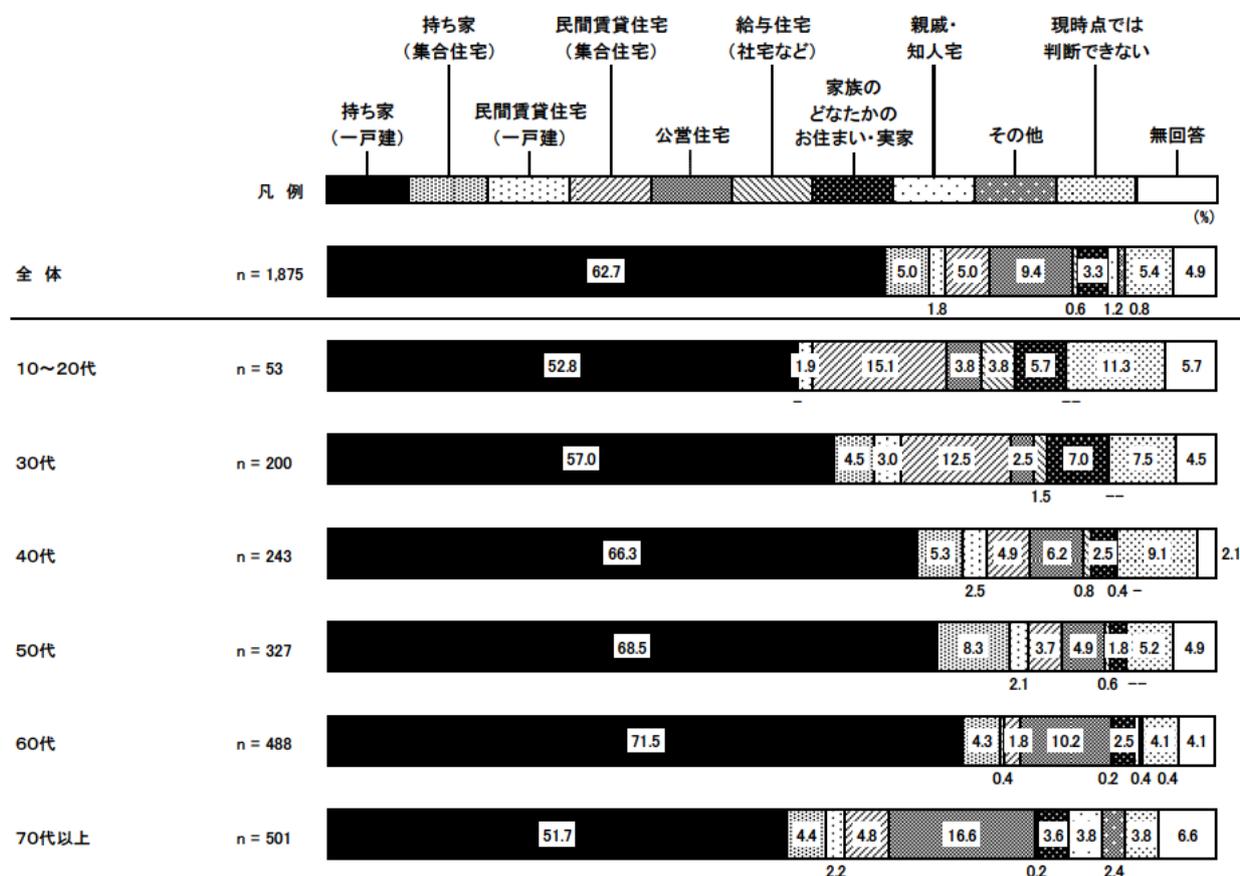
【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-5 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する（既に居住している場合を含む）住宅はどのような形態ですか。（〇は1つ）

帰還せず別の自治体に転居する場合に希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が62.7%と最も高く、6割以上を占めている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は50代で68.5%、60代で71.5%、「公営住宅」は70代以上で16.6%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」は10代~20代で15.1%、30代で12.5%とそれぞれ全体の割合と比べ高くなっている。

<図表3-2-18-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）>

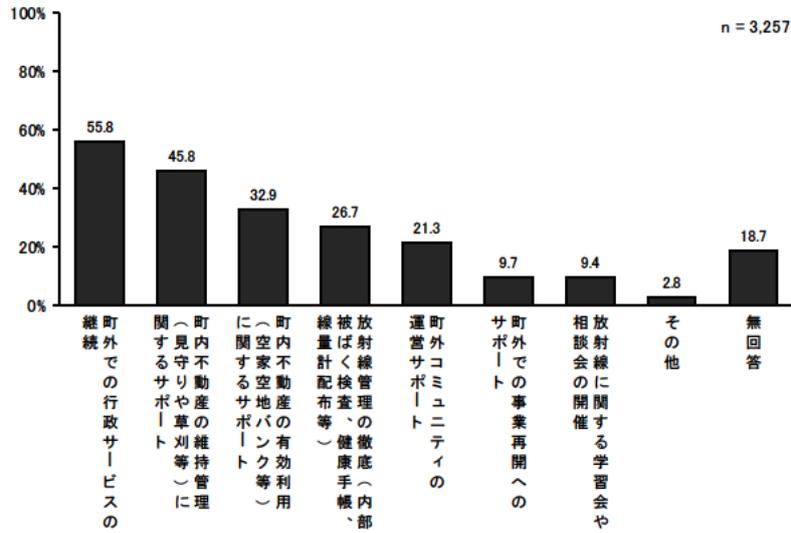


3-2-19 町外で生活している方に対するサポートとして必要な施策

問 12 町外で生活されている方に対するサポートとして、どのような施策が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

町外で生活している方に対するサポートとして必要な施策については、「町外での行政サービスの継続」が55.8%と最も高く、次いで「町内不動産の維持管理（見守りや草刈等）に関するサポート」が45.8%、「町内不動産の有効利用（空家空地バンク等）に関するサポート」が32.9%となっている。

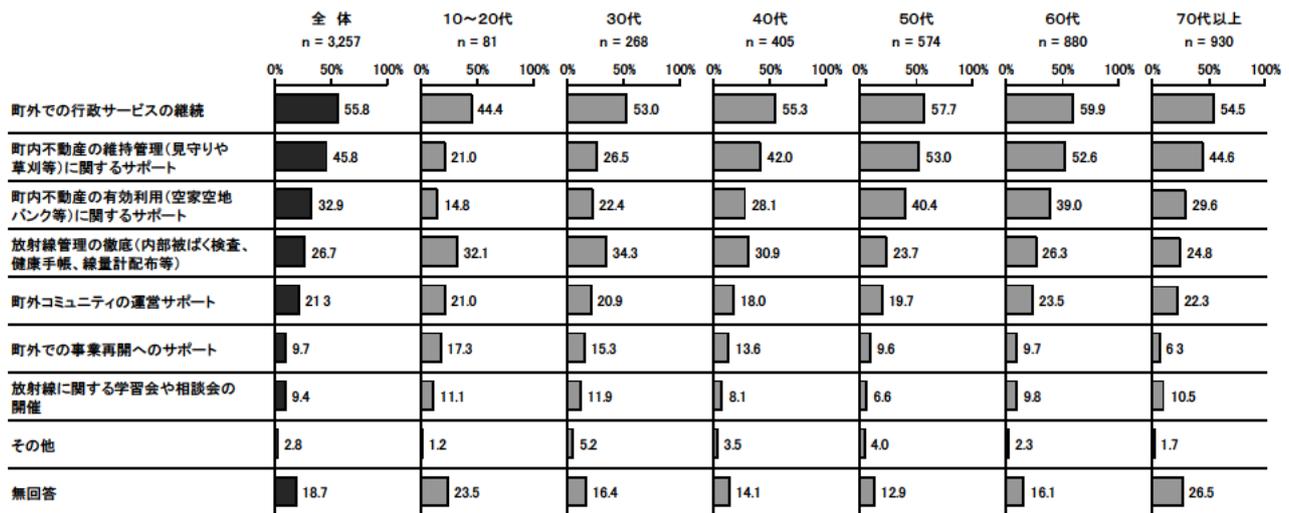
<図表3-2-19-1 町外で生活している方に対するサポートとして必要な施策>



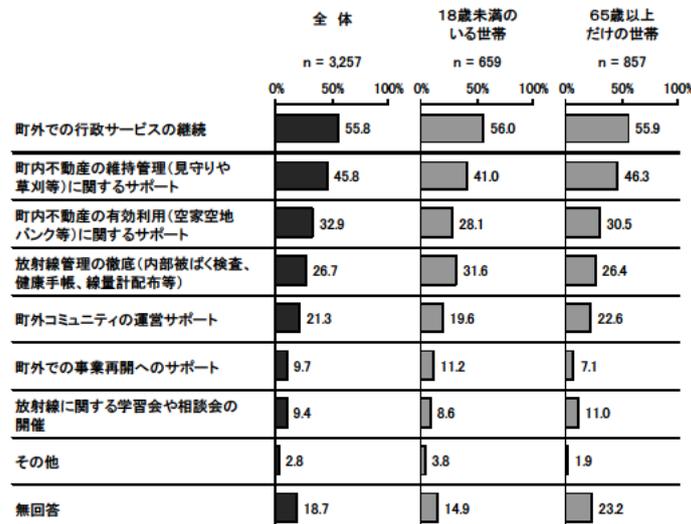
年齢別にみると、「町内不動産の維持管理（見守りや草刈等）に関するサポート」は50代で53.0%、60代で52.6%、「町内不動産の有効利用（空家空地バンク等）に関するサポート」は50代で40.4%、60代で39.0%、「放射線管理の徹底（内部被ばく検査、健康手帳、線量計配布等）」は10代～40代で30%以上と全体の割合と比べて高くなっている。

世帯構成別にみると、全体と同様の傾向となっている。

<図表3-2-19-2 町外で生活している方に対するサポートとして必要な施策（年齢別）>

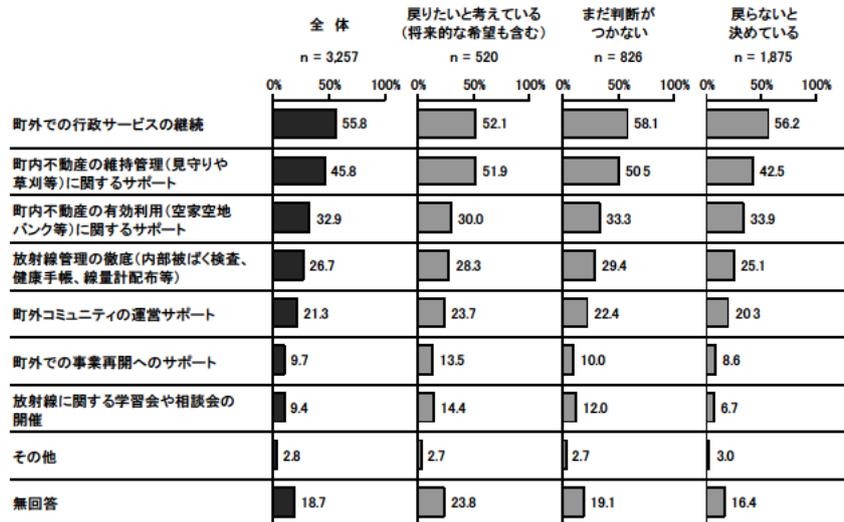


<図表3-2-19-3 町外で生活している方に対するサポートとして必要な施策（世帯構成別）>



帰還意向別にみると、「町内不動産の維持管理（見守りや草刈等）に関するサポート」は、戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）人で51.9%と全体の割合と比べて高くなっている。

<図表3-2-19-4 町外で生活している方に対するサポートとして必要な施策（帰還意向別）>



3-3 意見・要望

問 13 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、1,193 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

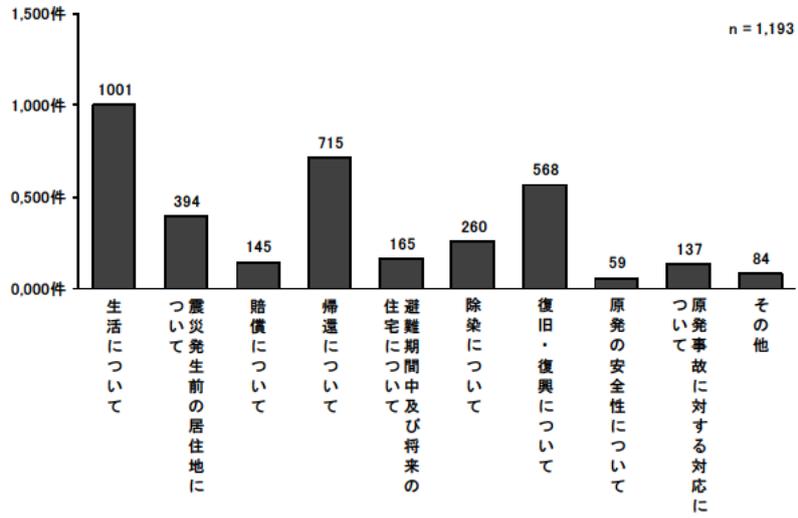
<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染廃棄物の処理について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

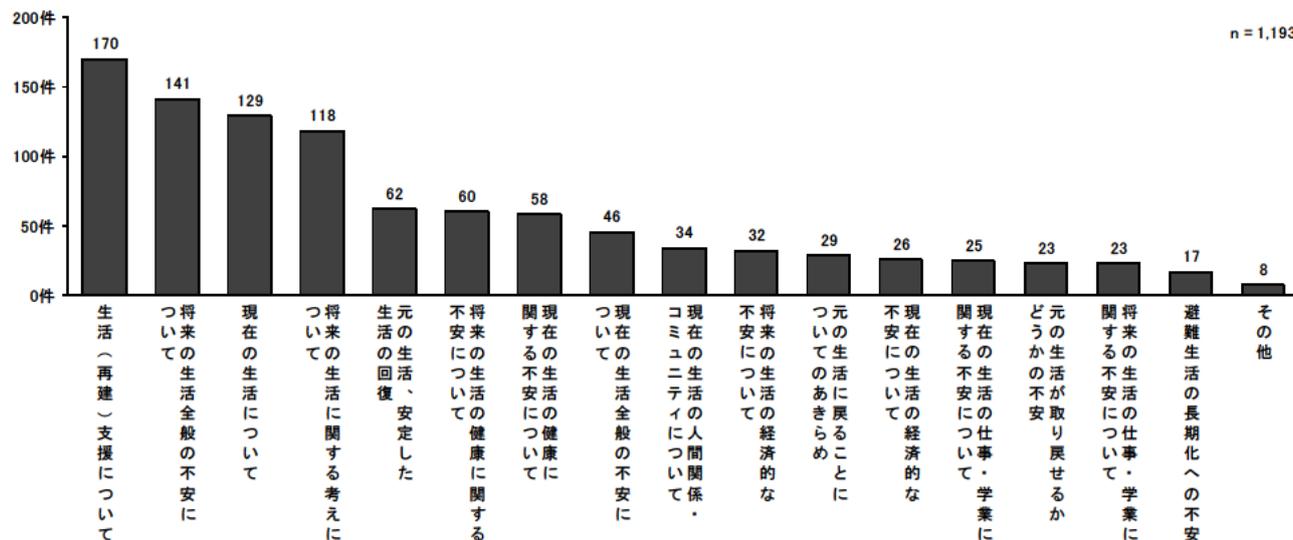
<図表3-3-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が170件と最も多く、次いで「将来の生活全般の不安について」が141件、「現在の生活について」が129件などとなっている。

<図表3-3-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[生活（再建）支援について]

- もっともっと子育て世代の支援・サポートを考えないと、避難指示が解除されても帰還したいと思う若い世代はいない。（10～20代）
- 復興、復興と言っているが全てにおいて時間がかかりすぎている。避難中の町民の交流イベントも平日が多く、避難先で仕事をしている者にとっては、参加できなかつたり、広報等でイベントの報告記事を読んでも、参加者が高齢者ばかりで、次回開催されても参加したいと思えない。若い世帯は避難先での生活に慣れてきているし、経済面での支援方法も検討してくれた方が、有難いと感じる町民が多いのではないのでしょうか？（50代）
- 帰還困難区域に持ち家があった者ですが、5年経過すれば、無人の家屋は朽ちる状態になっています。この先も何年間はこの状態が継続することを考えれば、避難先での生活の安定を得るための十分な補償が必要です。私共夫婦は2人とも65才以上で、2人だけで暮らしています。この先の人生をつつがなく送るのには経済的な安定です。廃炉までの期間は長いです。補償の継続をお願いします。（70代以上）

[将来の生活全般の不安について]

- 帰宅困難区域の復興について具体的な話・説明が無い為、将来性が見えない。(30代)
- 震災から5年以上が経ち、見通しがたたない現在、ストレスとともにいらだちを感じています。仕事も何をしていいのかわからず、日にちだけが過ぎていき、むなしい毎日です。家も住める状態ではありません。町がどのようになるか気になります。特に私が住んでいた中央商店街は、どのようになるのでしょうか。(50代)
- 年を重ねる度、先行の不安がつのります。出来ることなら、住んでいた家の所に家を建て直して住みたいと思います。不便な生活は困ります。生活に必要なものや、医療など欠かせない整備をよろしく願います。大好きな富岡に帰れますように…。(60代)

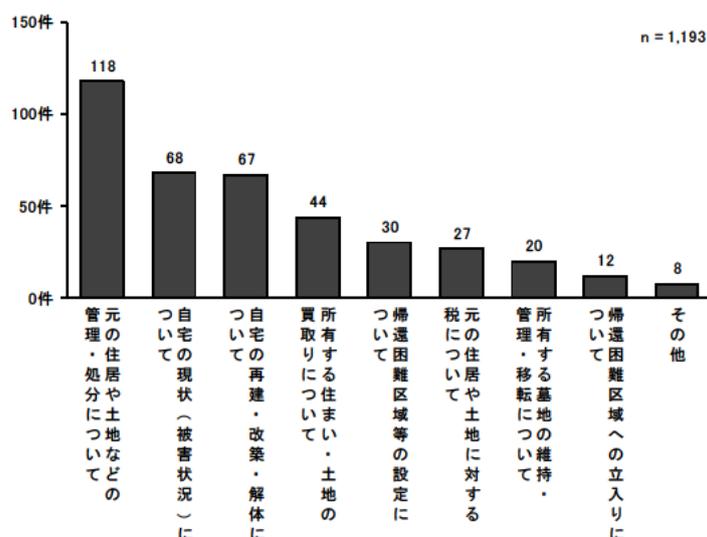
[現在の生活について]

- 避難生活が長くなり、避難先での生活基盤ができています。富岡町への気持ちはありますが、年月がたつにつれて帰還が難しい状況になってきました。それでも一日でも早い復興を心から祈っています。(30代)
- 私の妻は、埼玉に避難しています。事故で職を失い、避難先で求職しても、派遣しかなく、収入が事故前の1/3位です。高齢者や、若年者とは違い、48才という年令では、何らかの支援がないと今後の生活は苦しいと思います。(50代)
- 避難当時は、こちらの首都圏にて生活する事を希望し、考えておりました。が、一時立入をする度に郡山駅で「ふくしま」を感じ、富岡の自宅へお墓へと還ると、すごく「せいせい」するのを感じ、今の生活が本当は「がんじがらめ」なのだと思えてきます。この5年間、ずーっと宙に浮いたような気持ちの中で生きてきています。あのいつ迄保てるのか分からない朽ちてきている我家で寝てみたい。横になってみたいと思っています(次回立入の時はビニールを敷いて横になってこようと思っています)。富岡のせいせいとした向こうに海が見える海の風が吹いている…とてもとても懐かしいです。放射能は海へ抜けていく…。と思っています。「さいたま」はとてもとても大事にして下さっております。(60代)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が118件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が68件、「自宅の再建・改築・解体について」が67件などとなっている。

＜図表3-3-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 自宅は帰還困難区域なので、維持管理ができない。避難先から遠い事と仕事もあるので、時間が作れない。仕事を休んで自宅の管理をしたい！（30代）
- 今は、いわきに家を建てて生活していますが、富岡町はふるさとなので、震災前の状態に元通りとまでは言いませんが、安心して暮らしていけるコンパクトタウンになればいいと思います。富岡の自宅（夜の森）には、住めないとおきらめてはいますが、別荘のように好きな時に自由に行けて、泊まれるようになればいいと思います。富岡がこのまま忘れられて、すたれていくのは嫌です。子供達の通学の関係上、住民票を移していますが、元住民の方々にも住民票を移していない方と同じ様にさせていただけると幸いです。（50代）
- 一戸建ての古い貸家を持っています。メンテナンス費用、借り手はいるのか。いろいろ悩んでいます。（60代）

[自宅の現状（被害状況）について]

- 8月4日現在でイノシシがいる。家の庭が掘られていて、フンもあった。完全に駆除してほしい。イノシシを含む動物によりゴミが荒らされる。網では対策にならないので、動物に荒らされないゴミ置場を設置してほしい。水道水に異物が入っていたり、茶色く濁っていたりするので、放射線量も含めた水質の検査をしてほしい。(30代)
- 29年から帰還開始を目指しとあるが、長く住んでいないので家はボロボロ、荒れ放題で住める状態ではないし、放射線のことも考えたら帰れるはずもない。それで帰れますよと言われても、帰る気にはなれない(40代)
- 5年間も家を無人状態にしておいた為に、カビが生じたり、ネズミにあるとあらゆる物をかじられたり、イノシシによる被害で、もう元の生活には戻る事が出来ないのが現状です。この後何年同じ状態が続くのかも解からず、心配が募るばかりであります。国や県には、こうした家の家具や寝具、衣類、その他生活用品で使えなくなった品物を片付ける手伝いを、無償で長く頼めれば大変有難いと考えている所であります。と同時に、家の周りの雑草の駆除も、個人ではどうしても出来ない方もおると思いますので、出来れば行政のお手をお貸りして等、定期的に行って頂けると幸いです。このような事が、ひとつひとつが回り始めて隅々まで行き届いた先に、富岡町民が帰町を決め、元の富岡町が再生出来るのかと、私は思っています。(60代)

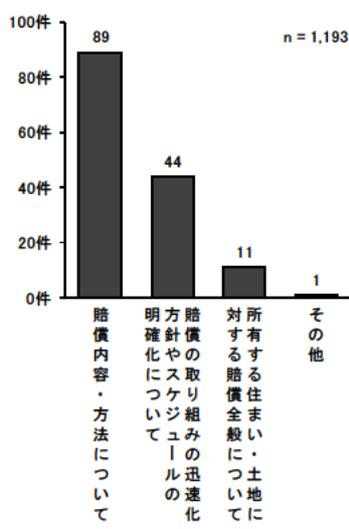
[自宅の再建・改築・解体について]

- 富岡町の自宅へ帰って安定した暮らしを望んでいますが、当時半壊状態の家屋で、現在はそれ以上に進み住むことはできません。これから解体作業からリフォーム等、修繕が大きな課題です。町に戻る人々に、優先的な援助がなければ、人口が増えることは困難でしょう。(50代)
- 富岡には帰還するつもりはありません。戻らないと決めました。したがって、富岡の自宅を処分しなければなりません。解体の希望をしましたが、解体後の土地の処理（売却）をするにはどうすればいいのか、そういう不動産処理のサポート機関が必要になってきます。御検討をお願いします。(60代)
- 帰宅困難区域なので家屋は荒れ放題で、手のつけようがありません。高齢のため、片付けることもできず、困っています。撤去を進めてもらいたいと思います。(70代以上)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が89件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が44件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が11件などとなっている。

<図表3-3-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- 生活再建の為に、帰還困難区域との賠償格差を無くして欲しい。(30代)
- 帰還困難区域と差別のない賠償にしてほしい。避難先での私たちへの心のケア、解除になって賠償が終わりになってしまうと生活していけなくなるので、ずっと続けてほしい。勝手に「逃げる」「戻れ」と私たちの意見はなぜ届くことがないのか？毎日不安(将来)とストレスを抱えている私達の思いを、国はわかってくれていない。原発が収束していないところになぜ帰そうとするのか？本当に安全だと誰が保証できるのでしょうか？教えてほしい。(40代)
- 福島県に帰った人にはお金を出して、その他の人には出さない。おかしくないですか。帰りたくても帰れない人もいる事を。(70代以上)

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について】

- 区域別に関係なく同等の賠償をする。避難している形態がそれぞれ違うので、個別の事情に合った、しっかりとした賠償をする。東電復興本社の社長が、個別の事情に合った賠償をしっかりしていく…、とメディアで発表したものの、東電は実施していない。国からの強い指導を要望する。町からもしっかり要望してほしい。(40代)
- きちんと国からの視察や住民の要望を聞いて、生活費などや精神的損害賠償を続けてほしいです。今、世界的に金利の悪化で、今まで勤めていた会社が縮小され、退職を余義なくされている方々もいるので、生活面でのバックアップも必要だと思います。(50代)
- 都会生活は利便性も良いのですが、何かと出費がかさみます。働きたいのですが年齢制限があって仕事が見つかりません。解除になっても少しでも長く賠償を続けていただきたく思います。宜しく願い致します。富岡町の復興を心からお祈り申し上げます。(60代)

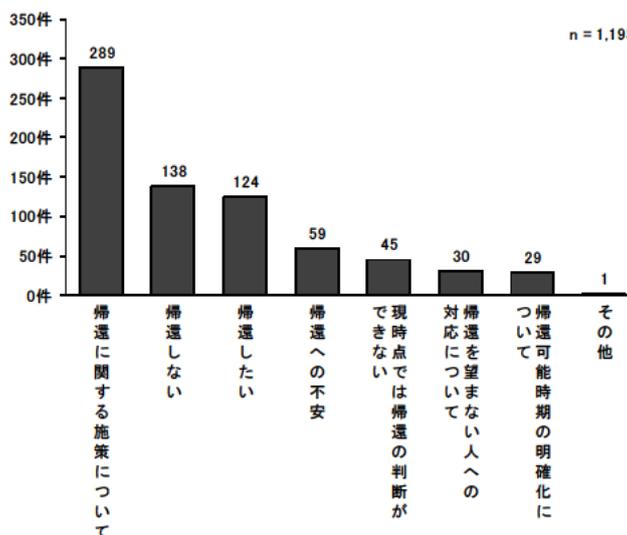
[所有する住まい・土地に対する賠償全般について]

- 東京電力の不動産に係る賠償について。国、自治体から賠償基準の見直しを東京電力へ助言（指導）願います。不動産賠償について（限度額まで見越して支払ってほしい）、購入するしないは各個人の判断であり、新規住宅購入（建築）にあたっては、建てた者には基準を上乗せして支払っているが、そうでない者は当初の支払基準額のみしか支払われていない。当方は帰還困難区域にある。せめて、この地域に属する世帯住宅には、それ相当の賠償をすべきではないかと思う。よって住宅を購入したか否かではなく、MAXでの賠償をするよう申し入れをして欲しい（東京電力に対して）。（50代）
- 震災から5年以上が過ぎ、自宅の家屋は住める状態にあらず、今後の生活には不安が広がります。国、東電に対し、家屋の賠償を早く決めてほしい。本来であれば退職後の生活プランもありましたが、現状ではすべてが無に等しい日々を送っています。人生、40年以上働き続け今、定年を迎える年になり不安でいっぱいです。国や行政は弱者である者に対し、手を差しのべないのでしょうか？（60代）
- 津波で家屋を失うが、土地を求め、再建の目途が立たない。津波による家屋の保障等が無い。（60代）

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が289件と最も多く、次いで「帰還しない」が138件、「帰還したい」が124件などとなっている。

<図表3-3-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[帰還に関する施策について]

- それぞれの避難先で、生活基盤ができてしまっている現状において、帰還しようという決断はかなりの覚悟と現実的な見通しが必要です。特に、お子さんがいる家庭は、それが顕著にあらわれていると思います。ですから、行政の方々には、「帰還することでのメリット・デメリット」をより明確に示していただき、“メリット”を住民にアピールしてほしいと思います。そうしないと、今の生活を変えてまで、戻ろうとする家庭はないのかなあと感じます。よろしくお願いします。(30代)
- 早急な復興と帰還を目指しているのは分かりますが、あれだけの事故（メルトダウン等）が発生したにもかかわらず、たった数年で帰還ができる状況にあるとは到底思えません！徐々に区域解除等も進んでいます。前職の関係上、すでに除染が完了している場所においても、あのような除染ではたして本当に除染できているのか？一抹の不安はぬぐいきれません。放射能汚染は自然の場合、一定の時間と共に減少していくので、もうすこし時間をかけて様子を観察しながら、子供達が安心して海水浴、泥遊びができるような環境づくりが必要かと思っています。(40代)
- 帰還に向けて動いているのはわかるが、第1原子力発電所の状況に大きな不安がある為、完全に安全と言えるまでは、高速道路の無料化の継続。特に帰還困難区域で家族がバラバラに生活を送っている家族に対して、特別に高速道路の延長を特別にする等の処置をお願いしたい！！(70代以上)

III 調査結果

[帰還しない]

- 新たな土地で新たな生活をしています。富岡町に戻ったところで、小さい子どもへの線量の心配は変わらずあります。家もボロボロで住める環境ではない。人が住めるには病院やスーパーなどなくてはならない。早く戻りたい気持ちはあるが、適当に除染をやってもらっては困る。仕事もないと生活できない。様々な心配を1つ1つクリアしていくことが大切。私は世田谷区の公立小学校の教諭として働いています。自分のふるさとへ帰れない悲しさもありますが、福島では教諭になるのはとても難しいので戻れません。(10~20代)
- 東京電力の1Fが、まだ燃料棒も取り出すのに何年かかるか分からない状態なのに、隣町に危険があるのに、その場所の近くに生活拠点を置きたくありません。まだまだ除染も足りず、元の明るい富岡町には何年かかるか分からない所では生活したくないです。戻りたいけど今の状態では戻れない。(50代)
- 私は高齢で一人暮らしのため、生活・医療・買物・交通と、あらゆる事が困難な年齢です。大分県には姉弟達が近くに住んで居る為何かと助っています。もう少し若い時ならぜひ富岡に帰って働きたいと思いますが、残念な事です。30年以上富岡で家内と2人で働いてきた土地です。愛着があります。1~2回は富岡に帰ってみたいと思っています。(70代以上)

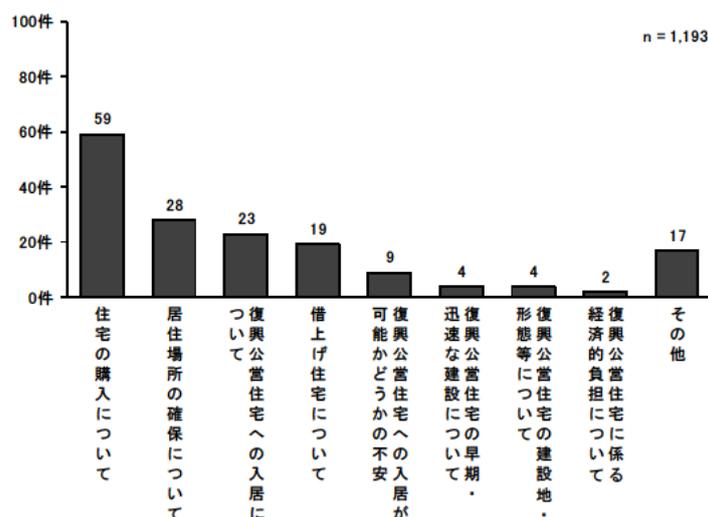
[帰還したい]

- 現在は子供のため居住はできないが、将来は戻りたいと思う(30代)
- 毎週釣りを楽しんでいたあの頃がなつかしいです。とても楽しかった。もう一度あの生活をしてみたい。切に願います。(40代)
- 私の住家は若い時に自力で働き、二階建ての住まいですので、環境整備が良くなり次第、我家での生活を望んで居る所です。それ迄に復興すればの場合ですが!!祖先の力で夜の森桜並木の公園があり、全県からの方々が桜満開の時期には観覧に来て下さり、父もぼんぼりを公園に数多くつけて、賑やかに過ごした時期もあり、昔を思う時懐かしくなり、夢の様に感じられます!!桜の満開の時期でも我家の二階でお花見の気分が味わえる時がありましたので、祖父が雄大な望みの政治家であった事をつくづく想い出されます!!(70代以上)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「住宅の購入について」が59件と最も多く、次いで「居住場所の確保について」が28件、「復興公営住宅への入居について」が23件などとなっている。

<図表3-3-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【住宅の購入について】

- 富岡に戻りたい気持ちは強いが、もういわき市に家を買ってしまい、戻るにしても家を手放して富岡でもう一度家をかまえる経済力はないので、もう我慢してこのままここにいななければいけないのかなと、あきらめている。いつまでに帰還等、明確な指示があれば家は買わなかったかもしれない。(30代)
- 私は富岡町に新築の段取りをしています(ハウスメーカー決定済)。企画課の職員には問合せはしましたが、福島県のHP、H28年度県・市町村による住宅建設等への支援制度を見ても、富岡町では何の支援制度も出ていません。町では来年4月を帰還目標にしているのなら、現時点で支援制度が無いのは、遅すぎるのではないのでしょうか?避難先の方々へのサポートはもちろんですが、帰還するの方々へのサポートをこれからは第1と考えて頂きたいと思います。県・町が帰還率を増やしたいのであれば、補助金や支援をすればちょっとは帰還率が上がるのでは…。町に協力出来る事はしますが、将来富岡町が夢のある楽しい町になる事を望みます。(40代)
- 私たちは、「戻らない」と決めました。福島県外に宅地を購入し、住居を建てる予定です。東電からのお金で建てる予定です。国・県・町からは、福島県外へ住居を建てる場合、何も支援がありません。又、今も、賃貸費用は有償です。福島県内に避難している方々とは、支援のありかたに大きな差があります。福島の実家の除染はしなくてもかまいませんので、その分を住居購入費用にできる様にしてほしい。(60代)

【居住場所の確保について】

- 福島では復興公営住宅があるけれど、県外に避難している人達はどの先どうすれば良いのか？住む所が無くなるのではないかと、とても不安です。(30代)
- 住めない家のローンがあり、これをなくしても次の家を買ったりする資金にはほどとおく、これからの未来に不安で、次の事(生活)が考えにくい。子供達が、月日とともに成長していく中、生活の拠点をどこにすれば良いか悩んでいる。(40代)
- 58年間住んだ仏浜行政区、祖父の代からお世話になった仲間も津波で家をなくし、全ての人が帰ってきません。同級生もいわきや埼玉、東京などに新天地を求め、誰一人帰ってきません。親戚も、仕事仲間も帰ってきません。でも、先祖が眠るお墓は新しくして、お彼岸、お盆にはお墓参りには行きます。しばらく状況をみて、住む家が見つければやっぱり育った富岡に帰りたい(60代)

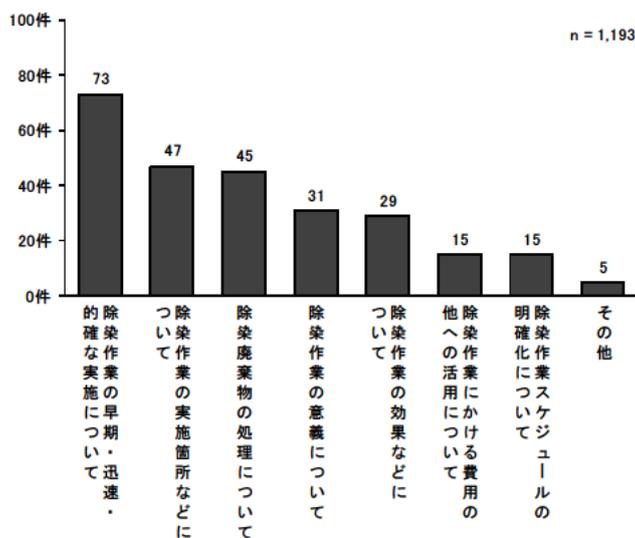
【復興公営住宅への入居について】

- 戻らない人への要望も聞いてほしい。若い人は戻らないと思う。町としては成り立たないと思う。帰還ありきで話が進んでいる。単身世帯で避難しているので、公営住宅への入居は難しいと思った。お年寄、子供いる世帯が優先だから。(30代)
- 災害公営住宅の申し込みについてですが、「避難指示が解除された後は申し込みが出来ない」となっていますが、家庭の事情によっては後々に希望される方もでてくるのではないのでしょうか？(40代)
- 国は原発事故を過去のこととして、住民へのサポートを早く止めたいと考えているように思う。損害賠償もまだされていない(戸建ての不動産)のに、借上アパートを終了するし、復興住宅にも当選してないので行く場所がない。バラバラになった家族に会うのに、高速道路の無料はいつまでであるのか。長期の無料化をはっきり決めてほしい。東京電力の側の立場ではなく、損害賠償をはやく進めてほしい。(50代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が73件と最も多く、次いで「除染作業の実施箇所などについて」が47件、「除染廃棄物の処理について」が45件などとなっている。

<図表3-3-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 富岡町全体の側溝の除染。線量があまりにも高い。きちんと仕事をさせるべき。(40代)
- 町内除染終了との事だが、現地点で土地、山林宅地等の返却、管理を個人で実施しろと言われても、大変難しい。帰町するまでは、町及び国にてしっかり管理(農地、宅地、山林等)し、除染を継続実施してもらいたい。除染終了してから日数がたつての返却であれば、土地が荒れた状態では個人管理が出来ない。返却、管理をするのであれば、除染、草刈等を実施した後、速やかに連絡して頂きたい。再度除染して頂きたい。(50代)
- 帰還困難地区なので、除染して営農出来る迄何年かかるか分からないが、自分の代には出来ないとと思う。次世代に出来る様お願いします。(70代以上)

[除染作業の実施箇所などについて]

- 帰還困難区域以外の地域の解除を来年3月に行うとあるが、全て除染するべきではないのか。(10～20代)
- 除染しても又高くなるのでは、除染の意味なし。なぜなら木、山の除染はやっていないから。そこに子供達を戻すという事で、その後の子供達の健康をどの様に考えているのか？もしガン等になった場合、自治体、国、県はフォローしてくれるとは思えない。そんな所に帰る必要性はないと思う。国、県町は住民、国民、県民の生命、財産を守る義務があるのにも関わらず、それが出来ていない。もっと住民第一で考えるべき。自治体、県のメンツを考えるのではなく、生命を考えてほしい。なんども除染して喜ぶのは除染業者ゼネコンだけです。もっと現実を見て下さい。(50代)
- 汚染廃棄物の完全撤去並びに山林の除染が完了しない限り、復興は有りえない。後、数十年はかかるでしょう。(60代)

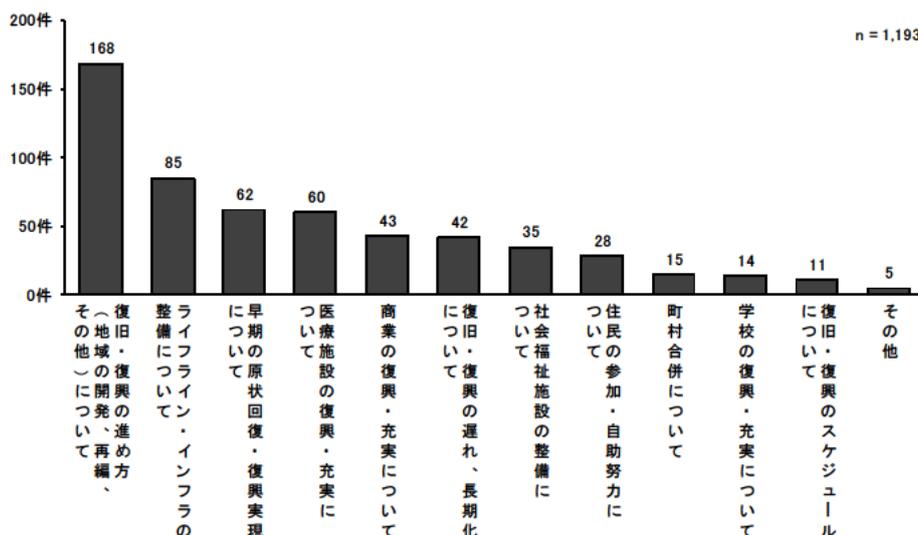
[除染廃棄物の処理について]

- 帰還困難区域を今後どうする考えなのか示してほしい。除染廃棄物は必ず発生するので、仮置場は絶対に必要になるわけで、準備区域や制限区域の帰還を優先するのであれば、困難区域に仮置きするしかないのでは？方針がはっきりしないと、「今後どうする？」ときかれても答えられない。(30代)
- 中間貯蔵施設は先延ばしにしながら、双葉郡内にずっと置かれるのだろうか？ということ。大熊町以外で日本のどこが受け入れるのか。大熊町の方もしかたなく…で提供しているが、半永久的になってしまうのではと不安だと思う。ずっと置くのであれば、周辺の環境を含めきちんと考えて住宅関係に配慮すべき。(50代)
- 町の北には、第1原発、中間貯蔵施設、南側には第2原発、西側には特定廃棄物最終処分場が出来る。このような環境で安全・安心な生活ができますか。環境が悪くなっている。(60代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発・再編・その他）について」が168件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が85件、「早期の原状回復・復興実現について」が62件などとなっている。

<図表3-3-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 平成29年4月から富岡で商業施設が再開する様ですが、国から企業への支援金は出る様ですが、働く人への国・自治体からの支援は考えてはいるのですか？企業の方でも働く人の人員確保は大変な様です。商売をするには商品を作る人・売人・買う人です。国・自治体さんも企業に任せっきりでなく、協力して町の復興に力を合せてください。（30代）
- 私は、国・自治体が大変不満を持っております。そして、それは怒りとなっております。私の住んでおりました夜ノ森地区は、先祖の方々が大変苦労して、古くより京都の町並を参考にして、安全性等いろいろな面で大変すばらしい所でした。今回の災害でも、放射線の影響を除いては、高台の地区でしたので大きな災害はなかったのかと思われます。その夜ノ森地区を、国、自治体は帰れない地域に変えているのが現状です。それは、夜の森地区は、特に田んぼの整備において大変すばらしい所でした。その田んぼ等を、国と自治体は太陽光パネル、および研究施設等にほとんどを変えてしまうようです。これでは、実際帰りたくても帰れません。また、その施設等の地権者等の方々が良いかもしれませんが、残された数少ない人々はどうすればよいのですか？富岡地区は、今回の津波等でも大きな影響を受けました。その富岡地区を、今後また災害があり得る地区を居住スペースとして残し、もっとも災害に強い夜ノ森地区を住めない所に行っていることです。このような間違っことを、国と自治体は行なっております。私は、国、自治体に対して大変怒りを感じております。そして、自治体に申し入れしても、返事することができないという情けないことばかりです。どうすれば良いのかわかりません。帰れない夜ノ森地区を作ったのは誰なのですか？教えてください。（50代）
- 安心して住める町づくりに。特に放射線管理の徹底を期したい。生活していく利便性。健康施設を（高齢者誰もが利用できる）設置。多くの避難者が帰町し、活気ある町へ。魅力ある町に戻すよう努力を。（70代以上）

【ライフライン・インフラの整備について】

- 帰還する時は、除染が完了している事（地上 1m で 0.1 μ sv/h 未満である事）。又、インフラ（医療、道路、海岸復旧工事、etc.）の完全復旧している事が絶対条件である。今回の震災による、原発事故で、特に海洋汚染が深刻であり、風評被害を排除しなければ、富岡町の未来はないと思う。自然災害は、防ぐ事は難しく、特に津波に対しての防波堤建設は税金の無駄使いであり、町特有の財産である美しい海の景観を損なってしまう。防波堤がある事により安全と勘違いして避難も遅れる。富岡町の美しく長い砂浜の海岸線を作り、自然と共存共栄できる環境整備が町民の心の寄り所となり、復興の拠点となって、全国各地から人が集まる故郷となってほしい。そうすれば、おのずと住民も戻り、活気に溢れた町になると思う。※美しく長い砂浜の海岸線を→例：漁港～毛萱まで砂浜を作り、子供達が放射線の汚染を考えないで安全に楽しく遊べる海岸作りが必要である。作ることによって、高台への避難道を建設し、有事の際に活用する。（30代）
- 原発ばかりで、町内の整備（道路、家、ガス水道の充実を一番にして欲しい電気）が6年経ってもまだまだ後回し！！インフラが整備されていないと帰りたくとも帰れず…。まず、町内の整備（防犯の強化、医療）。早急に町内の自宅のゴミ、環境問題等、インフラの整備をしてほしい。（50代）
- 富岡町の復興はまずは道路の完備だと思います。特に高速道路の早期整備を御願いたい。それによって人と物の流れが良くなり、復興が進みます。具体的には下記の道路です。①常磐道全線の複線化。②相馬ー福島間の復興道路。③小野富岡線を高速道路に格上げし、福島空港へのアクセスとする。（60代）

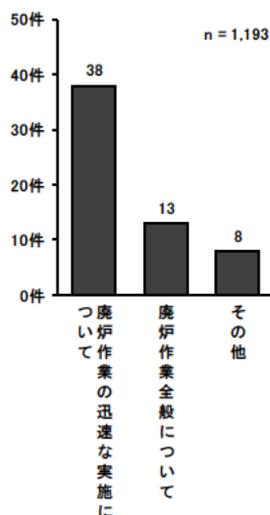
【早期の原状回復・復興実現について】

- 震災から5年以上経過しました。国や自治体が復興に一生懸命取り組んでいることは十分理解しておりますが、もう少しスピード感を持っていただけるとありがたいです。（40代）
- とにかく、早く。富岡駅、鉄道の開通、スーパー、商店街、病院、学校 他インフラを整備していただきたい。すぐに帰る準備できています。（50代）
- 若い人で家を建てたりした人達は、もう町には戻らないと思います。町には、実家のある人達は戻るとは思いますが、みな年寄りの人が多いと思います。まずは、医療、福祉、職場の確保、住宅、商店、学校、交通。一步步確実に安全、安心、迅速が一番かなと思います。今後さらに10年かかるとは思います。みんな、年をとって気力、体力が限界にきています。元気うちに、富岡町でもう一度汗を流して、働きたいと思っています。（60代）

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が 38 件と最も多く、次いで「廃炉作業全般について」が 13 件などとなっている。

<図表3-3-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[廃炉作業の迅速な実施について]

- 除染の数値だけで考えるのではなく、廃炉の進行状況や、第2原発の早期廃炉など、将来安心して生活できるのかが一番の点であると考えている。来年は出産も控えており、見た目だけの判断だけでは、本当に将来体への害は無いのかなど細かく考えているので、簡単には判断できない現状である。原発、第1は当然だが、第2についても廃炉の状況を見ながら、考えをまとめたい気持ちである。(40代)
- 放射線に対する誤った、過剰な不安や恐怖があって、廃炉や復興が進んでいないと思う。原発の汚染水は濾過したものは海洋放出して、作業環境の改善を図って欲しい。作業員の許容線量も200mSvに引き上げて、効率を良くするべきです。汚染廃棄物の中間貯蔵施設の運用は国主導で、住民の同意がなくても強制執行してやるべき。(60代)
- 国や東京電力は第二原発の廃炉について、いつまでも明言せず引き延ばしているのは何故か。第一原発、原子炉の地下に、大量の地下水が流れ止められずにいるが、建設する前に調査はしなかったのか。第二原発の地下水は調べてあるのか。(70代以上)

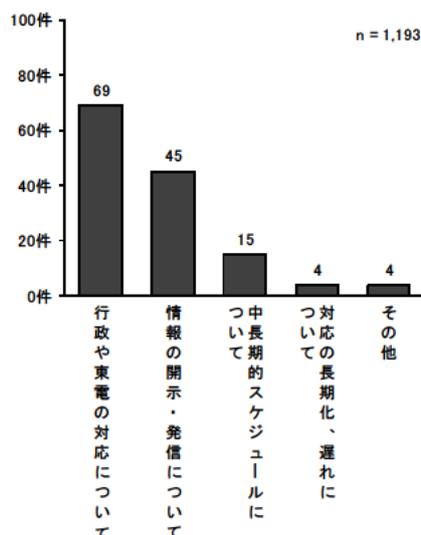
[廃炉作業全般について]

- 現在の生活で、不満や不自由等は何もなく、家族3人元気で暮らしています。何の心配もありません。あるとすれば1つ！原発の廃炉作業です。100%安全に予定通り完了する保証がない事です。現場では毎日大変なご苦労をされていると伺っていますが、世界的にも例のない作業ですから不安は大きいです。
(60代)
- 町に戻る人が少ないのに、今後どのような町造りをするのか。放射線量は高い、原発の廃炉への道のりは厳しい。いい面だけを見つめるのではなく、今後のリスクを考えると、町の再生は非常に難しいと思う。ロボット産業・原子力産業など振興は進むと思うが、メルトダウンした核物質の取り出しは、ほぼ無理ではないかと考える。廃炉への作業行程で、人為的ミスによる事故が起きなければ良いかと懸念する。原発の問題言うと、周囲から白い目で見られるという風潮はないか。真実を論じ合うことが、問題解決に通じると、信じている。(右、左の問題ではない)(70代以上)
- 第2原発の廃炉について。国が指導して押し進めてきた原発である。東電任せにせず、国が前面に出て、廃炉にすべく東電を指導すべきと考える。(70代以上)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が69件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が45件、「中長期的スケジュールについて」が15件などとなっている。

<図表3-3-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 原発が終息するまでは、帰町はありえない。富岡町に帰りたくても不安の方が大きく安心して生活することはできない。事故前の生活に戻ることは、今後、ないと思う。国と東電は、住民に対してきちんと責任を負ってほしい。そして個人ごとにサポートをするべきだと思う。(40代)
- 町民はまだ東電を許した訳ではない。事故に対する謝罪等がきちんと出来ていない。一部の上位者だけが納得して、東電とヨロシクやっているのに憤りを感じる。自治体(町)はなぜ帰還をあせり、一日も早く町民を戻したいのか? 役場職員の仕事確保の為に町民が居るわけではない。(50代)
- 国などは平成29年4月を目途に避難指示解除準備区域と居住制限区域の解除したい様だが、広野町や楢葉町を見ても帰還者はごくわずかであると思う。富岡町より線量が低いにもかかわらず、帰還者が少ない事をどう考えているのか疑問である。私個人的には線量についてはまったく心配無いと思うが、他の人(特に若い女性(母親))は、線量は“0”でなければと思い込んでいる様子が伺える。放射線に対する知識が無いのが原因と思われ、第一原発の状況は詳しく知らされていないのは不安を煽ると大差は無い。メルトダウンした原子炉の状況ははっきり判らない現在、10km前後の距離にある富岡町を解除する時期は早すぎると思う。(60代)

[情報の開示・発信について]

- 住民意向調査を行っても、ただ数値としてのデータを出して公表しているだけで、この結果をもとに復興へ向けた準備をしているという様子が見受けられない。このデータを今後どのように活用するのか、詳しく具体的に説明してほしい。よく調査後にこのような自由欄があるが、ここに書かれたものは、何か冊子や資料にして公表し、町民で共有していくべきだと思う。(10～20代)
- 帰町をしてからの生活に対しての支援を、しっかりサポートを考えてほしいです。1番に気になるのは放射線量が本当に低下しているかどうか？きちんと町民に報告しての結果を説明していただきたい。初めての原発事故なのに、なぜ解決を早くしようとしているのか？しっかり議論をして対策方法を考えているのか。事故から5年と言うが、本当に進んでいるのか(原発事故・燃料デブリ)。疑問を感じる気持ちです。何十年先に悪い結果を残すような事にならないように、しっかり真剣に取りくんでほしいです。(60代)
- 除染作業について実施結果報告書を受取りました、が除染結果報告書通り、放射線量が下がっていません。29年に一部避難解除を宣言していますが、本当に安全ですか。富岡町では避難解除地区の安全な空間放射線量を示し、除染業者任せではなく、富岡町独自に線量調査して下さい。29年度一部避難解除前に、安全な責任ある線量を公表して下さい。(70代以上)

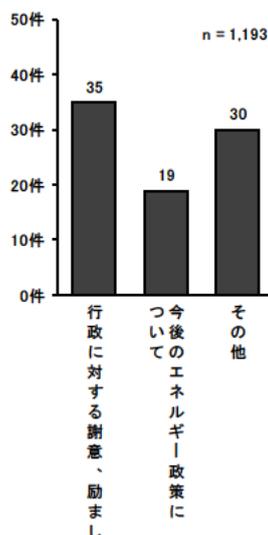
[中長期的スケジュールについて]

- 戻るのが難しいのであれば、放射能の影響を研究し、解明するように、あの町を後世に生かす努力をしてほしい。(30代)
- 国や東電の廃炉計画を見ても、この先何十年も続き、燃料棒の取り出しの方法もまだ確立していないのに、30年、40年とか計画表だけが作成され、どこまでが本当の事かわからなく、帰還しろと言う事に疑問を感じる。(60代)
- 私の思うに、燃料デブリの取出しは、何百年もかかるものと思われます。石棺の話も出るのは無理ないと思われます。取り消さないで、選択肢の一つとしてとっておいたら如何ですか。100年以上も生きて収束を見極めたいです。(70代以上)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が35件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が19件などとなっている。

<図表3-3-11 その他についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政に対する謝意、励まし]

- いつも復興のために尽力してくださり、ありがとうございます。高速道路が開通し、6号線が通れるようになり、常磐線が少しずつ再開していくのを見てみると、とても嬉しい気持ちになります。常磐道や6号線を使って、富岡町を通過する事が時々ありますが、色々な気持ちが重なり、いつも涙がこぼれます。そんな人はきっと私だけではないと思います。富岡町に帰還できる日が来るかは、分かりませんが、気持ちは、いつもそこにあります。どうかこれからも皆様がんばってください。(10~20代)
- いつも私達の事を思い良い方向へと考えて下さり、ありがとうございます。ふるさと富岡町へ自分達の力をもって帰りたいと思っています。不便でも生き生きと生きたいので健康に気をつけて、畑などして社会のお役にたてるように生活したいです。1番下が成人するのがあと18年。でも富岡を良くして少しずつ進んでいきたいので応援しています。日本の良さを見直せる町になったら良いなと思っています。(40代)
- 国も自治体も良くやってくれていると思う。感謝している。少しでも自立していけるよう頑張っていきたい。(50代)

[今後のエネルギー政策について]

- 原発廃止と太陽光などの自然エネルギーの推進。(30代)
- 日本は地震大国です。全国の原発には、使用済み核燃料が各自の燃料プールに満載されています。又、あの時の様な大震災が起こるかも知れません。日本は核廃絶(原発を含め)すべき国に成ってほしいと思っています。新エネルギーの開発に努めて頂きたい。(50代)
- 町内不動産の有効活用のため、太陽光発電を推進してほしい。町が発電希望者を集約し、一定の条件をクリアした町内・県内の複数業者に、斡旋してほしい。地区ごとに業者を設定すれば業者の負担も減り、収益の向上につながると思う。町内・県内の業者が潤えば、福島県復興の一翼を担うことができる。町単独で実施が難しい場合は、県が実施するよう要望してほしい。(60代)

Ⅲ 調査結果

[その他]

- 100年後を考えたマスタープラン（グランドデザイン）をベースにすること。（60代）
- 双葉郡の町村は帰る人も少ないのだから、一つにまとめて行政を行った方が良いのではないか？（60代）
- 復興はこれからが本格的になりますので、地域社会や住民には尚一層寄り添って見守って下さいます様、お願い致します。（70代以上）

IV 參考資料

4-1 使用調査票

富岡町住民意向調査

この調査は、以下の項目について調べるために行います。ご協力をお願いします。

- 町内の災害公営住宅の必要戸数
- 避難先等での今後の生活について
- 避難指示解除後の町での就労・生活について

記入上の注意

● 調査をお願いする方

震災発生時、富岡町に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。

現在、世帯が何ヶ所かに分かれて避難されている場合には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票の送付されたお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

- ・ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ・「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。
 の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的（地名、数など）をご記入ください。
- ・調査票は記名式でお願いしております。最終ページに「氏名」、「住所」、「連絡先」の欄がありますが、強制ではありませんので、差し支えが無ければご記入をお願いします。

● 個人情報について

- ・調査票に記載いただいた個人情報は、富岡町、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用いたしません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**8月15日（月）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-901-840

[設置期間：8月2日（火）～8月15日（月）10時～17時]

土・日・祝を除く

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒ <u>問3へ</u> |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒ <u>問3へ</u> |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒ <u>問3へ</u> |
| 5. 団体職員 | 11. その他 { 具体的に |
| 6. 公務員 | } |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 { 具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | } |

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問3 震災発生当時にお住まいだった場所について教えてください。

(1) 現在どの避難指示区域に当たるかを教えてください。(○は1つ)

1. 避難指示解除準備区域
2. 居住制限区域
3. 帰還困難区域

(2) 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|---------|---------|-----------------------|
| 1. 杉内 | 9. 赤木 | 17. 下郡山 | 25. 小良ヶ浜 |
| 2. 仲町 | 10. 上本町 | 18. 毛萱 | 26. 栄町 |
| 3. 高津戸 | 11. 王塚 | 19. 仏浜 | 27. 新夜ノ森 |
| 4. 下千里 | 12. 本町 | 20. 駅前 | 28. 不明 |
| 5. 大菅 | 13. 岩井戸 | 21. 西原 | (わからない場合は住所を記載してください) |
| 6. 夜の森駅前北 | 14. 清水 | 22. 中央 | [] |
| 7. 夜の森駅前南 | 15. 上郡 | 23. 小浜 | |
| 8. 新町 | 16. 太田 | 24. 深谷 | |

【問3(2)で「19. 仏浜」、「23. 小浜」と回答した方にうかがいます。】

(3) 震災発生当時にお住まいだった場所は、防災集団移転促進事業の対象地区ですか。(○は1つ)

1. 対象地区
2. 対象地区外
3. 不明 [わからない場合は字以降の住所を記載してください]

【すべての方にうかがいます。】

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 [具体的に] |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | [] |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問5 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

 (市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

 (都・道・府・県)

 (市・町・村)

【すべての方にうかがいます。】

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18歳以上65歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上	人

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18歳以上65歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上	人

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(2.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸住宅(有償) | 9. その他(具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅など) |) |

将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 8 将来、富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。「1」から「3」の中から1つ選び、それぞれの質問にお答えください。(○は1つ)

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む) ⇒ 問 9-1 へ
2. まだ判断がつかない ⇒ 問 10-1(9 ページ) へ
3. 戻らないと決めている ⇒ 問 11-1(11 ページ) へ

問 9-1～問 9-9-4 (5 ページ～8 ページ) は、問 8 の富岡町への帰還について「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方がお答えください。

問 8 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方は問 10-1 (9 ページ) へお進みください。

問 8 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方は問 11-1 (11 ページ) へお進みください。

【問 8 で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。】

問 9-1 富岡町へ戻りたい時期を教えてください。(○は1つ)

1. 解除後すぐに戻りたい
2. 解除後3年以内に戻りたい
3. 解除後5年以内に戻りたい
4. 解除後10年以内に戻りたい
5. 時期は決めていないがいずれ戻りたい

【問 8 で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。】

問 9-2 現時点から避難指示解除まで待てる期間を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|---------|-----------------------------------|-----------|
| 1. 3年以内 | 3. 10年以内 | 5. 何年でも待つ |
| 2. 5年以内 | 4. その他(年以内) | 6. わからない |

【問 8 で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。】

問 9-3 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 家族全員での帰還を考えている | 3. 現在検討しているところ |
| 2. 家族一部での帰還を考えている | 4. 検討をしていない |

【問 8 で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。】

問 9-4 帰還した場合の仕事の見通しはありますか。(○は1つ)

1. ある ⇒ 問 9-5-1(6 ページ) へ
2. ないが仕事に就きたい ⇒ 問 9-5-3(6 ページ) へ
3. 仕事はしない ⇒ 問 9-6(6 ページ) へ

【問9-4で「1. ある」と回答した方にうかがいます】

問9-5-1 見通しがたっている仕事の業種は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | （具体的に） |

【問9-4で「1. ある」と回答した方にうかがいます】

問9-5-2 見通しがたっている仕事の場所(勤務先)はどこですか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|-------------------|---|
| 1. 富岡町 | 2. 富岡町外(具体的な市町村名) |) |
|--------|-------------------|---|

➤ [問9-6へ](#)

【問9-4で「2. ないが仕事に就きたい」と回答した方にうかがいます】

問9-5-3 仕事に就く場合、どのような業種を希望しますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | （具体的に） |

【問8で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。】

問9-6 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 自宅に住みたい(建て替える場合を含む) | ⇒ 問9-8(7ページ)へ |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい | ⇒ 問9-7-1(7ページ)へ |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | ⇒ 問9-7-1(7ページ)へ |
| 4. 災害公営住宅(町が今後町内に整備する住宅) | ⇒ 問9-7-2(7ページ)へ |
| 5. 民間賃貸住宅(一戸建) | } ⇒ 問9-8(7ページ)へ |
| 6. 民間賃貸住宅(集合住宅) | |
| 7. 給与住宅(社宅など) | |
| 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 | |
| 9. 親戚・知人宅 | |
| 10. その他 | (具体的に) |
| 11. 現時点では判断できない | |

【問9-6で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問9-7-1 元の持ち家以外を希望される理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 自宅周辺の放射線量の高さが心配だから
2. 自宅周辺に住む人が少ないと思うから
3. 富岡町内の新たな場所で生活を開始したいから
4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから
5. 自宅が荒廃しているから
6. 自宅を解体したから
7. その他(具体的に)

→ 問9-8へ

【問9-6で「4. 災害公営住宅(町が今後町内に整備する住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問9-7-2 町が今後町内で整備する災害公営住宅では、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

1. 戸建て(平屋)
2. 戸建て(2階建て)
3. 長屋タイプ(共有スペースがある住宅)
4. 集合住宅(アパートタイプ)
5. その他(具体的に)

【問9-6で「4. 災害公営住宅(町が今後町内に整備する住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問9-7-3 入居する際の家族構成についてお聞かせください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上	人

【問9-6で「4. 災害公営住宅(町が今後町内に整備する住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問9-7-4 居住地の希望はありますか。(〇は1つ)

1. ある { 具体的に<例:上手岡地区> }
2. ない

【問8で「1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」と回答した方にうかがいます。】

問9-8 富岡町に戻る場合に、今後の生活においてどのような施策が必要と考えますか。
(〇はいくつでも)

1. 被ばく低減対策
2. 住宅の修繕や建て替えへのサポート
3. 商業施設の再開や新設
4. 医療、介護福祉施設の再開や新設
5. 教育、保育環境の整備
6. 公共交通機関の再開
7. 雇用確保・就業サポート
8. 資格取得に対するサポート
9. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善
10. その他 { 具体的に }
11. 特にない

→ 問9-1で「1. 解除後すぐに戻りたい」を選んだ方は問9-9-1(8ページ)へ
問9-1で「2」～「5」を選んだ方は問12(13ページ)へ

問 9-9-1～問 9-9-4 (8 ページ) は、問 9-1 の富岡町への帰還時期について「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方がお答えください。

問 9-1 で「2」～「5」と回答した方は問 12 (13 ページ) へお進みください。

【問 9-1 で「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-9-1 戻る予定のご家族の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上	人

【問 9-1 で「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-9-2 帰還した場合に、ご家族を含め、町職員等による定期的な家庭訪問を希望されますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 健康面で不安があるから希望する |) |
| 2. 日中一人になってしまうから希望する | |
| 3. その他(具体的に | |
| 4. 希望しない | |

【問 9-1 で「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-9-3 帰還した場合に、ご家族を含め、以下のような活動への参加を希望されますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------|---|
| 1. 地域での自主活動 |) |
| 2. 各種団体の活動 | |
| 3. 町が主催する各種教室等 | |
| 4. その他(具体的に | |
| 5. 希望しない | |

【問 9-1 で「1. 解除後すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-9-4 帰還した場合に、ご家族を含め、「帰還者のため」「地域のため」等の活動をしてみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1. 子どもたちのために役に立ちたい |) |
| 2. 帰還高齢者のために役に立ちたい | |
| 3. 地域活動(見守り・耕作管理組合・地域サロン等)のために役に立ちたい | |
| 4. その他(具体的に | |
| 5. 活動をしたと思わない | |

 問 12(13 ページ)へ

問 10-1～問 10-5 (9 ページ～10 ページ) は、
問 8 の富岡町への帰還について「2. まだ判断がつかない」と回答した方がお答えください。

【問 8 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-1 富岡町への帰還について、「まだ判断がつかない」理由はどのようなことですか。
(○はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【町内の復旧状況に関わるもの】

4. 富岡町に戻っても仕事がなさそうだから
5. 富岡町での事業の再開が難しいから
6. 営農などができそうにないから
7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
8. 富岡町外への移動交通が不便だから
9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
10. 医療環境に不安があるから
11. 介護・福祉サービスに不安があるから
12. 教育環境に不安があるから
13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

14. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
15. 他の住民も戻りそうにないから
16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
17. 帰還までに時間がかかるから
18. 避難先で仕事を見つけているから
19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
20. 避難先の方が生活利便性が高いから
21. すでに生活基盤ができているから
22. その他

具体的に

【問 8 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-2 富岡町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(○はいくつでも)

1. 避難指示解除となる時期の目安に関する情報
2. 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の見通し
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の見通し、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の見通し ⇒ 問 10-3-1(10 ページ)へ
9. 賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関する情報
11. その他(具体的に)
12. 現時点で家族間の意見が分かれており、帰還意向について回答できない
13. 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない

問 10-2 で「8」に○をつけなかった方は問 10-4(10 ページ)へ

IV 参考資料

【問 10-2 で「8. 働く場の確保の見通し」と回答した方にうかがいます】

問 10-3-1 どのような業種の仕事を希望しますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |) |

【問 10-2 で「8. 働く場の確保の見通し」と回答した方にうかがいます】

問 10-3-2 仕事の場所(勤務先)はどこを希望しますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|-------------------|---|
| 1. 富岡町 | 2. 富岡町外(具体的な市町村名) |) |
|--------|-------------------|---|

【問 8 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 富岡町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は1つ)

- | |
|---------------------------|
| 1. そう思う ⇒ <u>問 10-5 へ</u> |
| 2. わからない |
| 3. そう思わない |

↳ 問 10-4 で「2」「3」を選んだ方は問 12(13 ページ)へ

【問 10-4 で「1. そう思う」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 町との“つながり”を保つためにどのような施策が必要と考えますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. まちづくりへの参加機会の創出 | 4. 町内での宿泊施設・交流施設の整備 |
| 2. 住民参加行事の充実 | 5. 情報発信の充実 |
| 3. 町内で働く場の整備 | 6. その他(具体的に) |

↳ 問 12(13 ページ)へ

問 11-1～問 11-5 (11 ページ～12 ページ) は、
問 8 の富岡町への帰還について「3. 戻らないと決めている」と回答した方がお答えください。

【問 8 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-1 富岡町への帰還について、「戻らないと決めている」理由はどのようなことですか。
(○はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【町内の復旧状況に関わるもの】

4. 富岡町に戻っても仕事がなさそうだから
5. 富岡町での事業の再開が難しいから
6. 営農などができそうにないから
7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
8. 富岡町外への移動交通が不便だから
9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
10. 医療環境に不安があるから
11. 介護・福祉サービスに不安があるから
12. 教育環境に不安があるから
13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

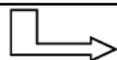
14. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
15. 他の住民も戻りそうにないから
16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
17. 帰還までに時間がかかるから
18. 避難先で仕事を見つけているから
19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
20. 避難先の方が生活利便性が高いから
21. すでに生活基盤ができているから
22. その他

具体的に

【問 8 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-2 富岡町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は1つ)

1. そう思う ⇒ 問 11-3 へ
2. わからない
3. そう思わない



問 11-2 で「2」「3」を選んだ方は問 11-4(12 ページ)へ

【問 11-2 で「1. そう思う」と回答した方にうかがいます。】

問 11-3 町との“つながり”を保つためにどのような施策が必要と考えますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. まちづくりへの参加機会の創出 2. 住民参加行事の充実 3. 町内で働く場の整備 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 町内での宿泊施設・交流施設の整備 5. 情報発信の充実 6. その他(具体的に) |
|---|--|

【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-4 帰還しない場合に、今後、居住を希望する(既に居住している場合を含む)自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村)

【 その他 】

26. 決めかねている

【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-5 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する(既に居住している場合を含む)住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他(具体的に) |
| 5. 公営住宅 | 10. 現時点では判断できない |

【すべての方にうかがいます。】

問 12 町外で生活されている方に対するサポートとして、どのような施策が必要と考えますか。
(〇はいくつでも)

1. 町外での行政サービスの継続
2. 町外での事業再開へのサポート
3. 町外コミュニティの運営サポート
4. 放射線管理の徹底(内部被ばく検査、健康手帳、線量計配布等)
5. 放射線に関する学習会や相談会の開催
6. 町内不動産の維持管理(見守りや草刈等)に関するサポート
7. 町内不動産の有効利用(空家空地バンク等)に関するサポート
8. その他()

【すべての方にうかがいます。】

問 13 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

避難生活を安心して過ごしていただくためには、仮設住宅等から、早期に安定的な居住・生活環境にお移りいただくことが重要と考えております。

このため、本調査でいただいたご回答については、今後の施策を進めるための貴重な基礎資料として活用させていただきますので、ご回答にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、ご回答いただいた現在の状況や今後のご意向等について、改めてお伺いさせていただく場合がございますので、差支えなければ、ご氏名、現在のご住所、ご連絡先についてご記入していただくと幸いです。

F1 あなたの氏名

F2 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
8月15日(月)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**富岡町 住民意向調査
報告書**

平成 29 年3月

復興庁 福島県 富岡町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

